



夢・感動教育 あげお

平成27年度（平成26年度 実施事業）
上尾市教育委員会の事務に関する点検評価報告書

上尾市教育委員会

目次

I 点検評価制度の概要

1 点検評価制度の趣旨	2
2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策	2
3 平成27年度における点検評価	2
4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	3
5 平成27年度教育委員会点検評価 実施主要事業	4

II 上尾市教育振興基本計画

1 基本計画の策定の趣旨	8
2 基本計画の位置付け	9
3 上尾市における教育の基本的な考え方	10

III 平成26年度 教育行政重点施策

1 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	14
2 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	15
3 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	16
4 基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	17
5 基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート	17
6 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護	18
7 基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進	18

IV 評価結果（施策評価）

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	20	施策4 特別支援教育の推進	24
施策2 時代の変化に対応した教育の推進	21	施策5 幼児教育の推進	26
施策3 進路指導・キャリア教育の充実	23		

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成	28	施策5 学校保健の充実	35
施策2 生徒指導の充実	30	施策6 食育の推進・学校給食の充実	36
施策3 人権教育の推進	32	施策7 児童生徒の体力向上	37
施策4 学校教育相談の充実	33		

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上	39	施策4 学校のICT化の推進	44
施策2 学校経営の改善・充実	40	施策5 学校安全の推進	46
施策3 学校施設・設備の整備・充実	42	施策6 就学支援の充実	47

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	49	施策2 家庭教育の充実	50
--------------------------	----	-------------	----

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実	52	施策4 人権教育の推進	56
施策2 生涯学習施設の整備	53	施策5 図書館運営の充実	57
施策3 生涯学習機会の提供	54		

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進	60	施策2 文化財の保護	61
---------------	----	------------	----

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ推進計画の策定	63	施策4 スポーツ指導者の育成	66
施策2 スポーツ施設の整備・充実	64	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援	67
施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実	65		

V 評価結果（事務事業評価）

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

事業番号1	さわやかスクールサポート事業(学級支援) ……	70	事業番号8	小中学校ALT配置事業 ……	77
事業番号2	指導法改善事業 ……	71	事業番号9	中学生社会体験チャレンジ事業 ……	78
事業番号3	魅力ある学校づくり事業 ……	72	事業番号10	中学生進路意識啓発事業 ……	79
事業番号4	学力向上支援事業 ……	73	事業番号11	特別支援学級補助員派遣事業 ……	80
事業番号5	日本語指導職員派遣事業 ……	74	事業番号12	特別支援教育推進事業 ……	81
事業番号6	教科用図書等整備事業 ……	75	事業番号13	小学校特別支援学級設置事業 ……	82
事業番号7	中学生海外派遣研修事業 ……	76	事業番号14	小中学校特別支援教育就学奨励事業 ……	83

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

事業番号15	学習支援事業 ……	85	事業番号22	さわやか相談室運営事業 ……	92
事業番号16	さわやかスクールサポート事業 (学校図書館支援) ……	86	事業番号23	いじめ根絶対策事業(防止事業) ……	93
事業番号17	小中学校音楽会開催事業 ……	87	事業番号24	いじめ根絶対策事業(相談事業) ……	94
事業番号18	小中学校図書整備事業 ……	88	事業番号25	人権教育推進事業(指導課所管分) ……	95
事業番号19	中学校部活動支援事業 ……	89	事業番号26	不登校児童生徒の学校適応指導事業 ……	96
事業番号20	中学校吹奏楽演奏会開催事業 ……	90	事業番号27	教育相談事業 ……	97
事業番号21	生徒指導推進事業 ……	91	事業番号28	児童生徒体力向上推進事業 ……	98

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

事業番号29	学校評議員制度運営事業 ……	100	事業番号36	学校安全/パトロールカー事業 ……	107
事業番号30	元気な学校をつくる地域連携推進事業 ……	101	事業番号37	通学路安全対策事業 ……	108
事業番号31	小中学校教育教材整備事業 ……	102	事業番号38	入学準備金・奨学金貸付事業 ……	109
事業番号32	小中学校校舎改築事業 ……	103	事業番号39	小中学校就学援助費補助事業 ……	110
事業番号33	小中学校コンピュータ整備事業 ……	104	事業番号40	要保護児童生徒医療費援助事業 ……	111
事業番号34	小中学校電子黒板整備事業 ……	105	事業番号41	準要保護児童生徒給食費援助事業 ……	110
事業番号35	児童生徒安全推進事業 ……	106			

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

事業番号42	幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業 ……	113	事業番号43	家庭教育推進事業 ……	114
--------	-----------------------	-----	--------	-------------	-----

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

事業番号44	生涯学習指導者活動推進事業 ……	116	事業番号51	人権教育集会所運営事業 ……	123
事業番号45	学校施設開放(生涯学習)事業 ……	117	事業番号52	図書館資料整備事業 ……	124
事業番号46	成人式事業 ……	118	事業番号53	子どもの読書活動支援センター運営事業 ……	125
事業番号47	日本の伝統と文化の学習推進事業 ……	119	事業番号54	ブックスタート事業 ……	126
事業番号48	大学等との連携による生涯学習推進事業 ……	120	事業番号55	(仮)中央図書館整備事業 ……	127
事業番号49	公民館講座事業 ……	121	事業番号56	セカンドブックスタート事業 ……	128
事業番号50	人権教育推進事業(生涯学習課所管分) ……	122			

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

事業番号57	文化芸術振興事業 ……	130	事業番号61	文化財調査・保存事業 ……	134
事業番号58	美術展覧会事業 ……	131	事業番号62	埋蔵文化財調査事業 ……	135
事業番号59	市民音楽祭事業 ……	132	事業番号63	文化財保護啓発事業 ……	136
事業番号60	音楽家芸術活動支援事業 ……	133	事業番号64	歴史資料調査事業 ……	137

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

事業番号65	学校施設開放(スポーツ振興)事業 ……	139
事業番号66	スポーツ大会・教室等開催事業 ……	140
事業番号67	スポーツ活動推進事業 ……	141
事業番号68	子どもの体力向上地域連携事業 ……	142

私たちを取り巻く社会情勢は、少子高齢化の進展に伴う人口構造の変化、グローバル化や情報通信技術の発達・普及、厳しさを増してゆく経済環境などにより、急速に変化し続けております。教育行政に着目すると、過去から社会問題化している いじめ、不登校、学力・体力の低下、教職員の資質能力の向上、食の安全、近年では、ネットいじめやネットトラブル、経済的格差による教育の格差、家族形態の変容やライフスタイルの多様化などによる家庭・地域での教育力の低下など、取り組まなければならない喫緊の課題が山積しております。

上尾市教育委員会では、これら教育における課題を解決し、将来に向けての教育のあり方を明確にするため、「上尾市教育振興基本計画」を策定し、「夢・感動教育 あげお」の基本理念のもと、多くの教育行政を推進しております。

この基本理念にある

「夢」という言葉は、知・徳・体の調和のもと、目標・志を持って自己実現を目指し、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践すること

「感動」という言葉は、人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践すること

を表し、教育委員会の願い、決意や、家庭・地域において“教育”に携わっていただいているすべての皆様の情熱、絆、希望が込められております。

上尾市の実情に応じた様々な教育施策を実施し、市民の皆様に「夢」と「感動」を送ることができるよう取り組んでおりますが、教育行政の果たす役割はますます重要となってきております。より効率的で効果的な行政運営を心がけ、市民の皆様に対して説明責任を果たしていくことで、市民の皆様から真に信頼される教育行政を運営していかなければなりません。

平成20年度から、教育に関する事務について点検評価を実施し、8年目となる本年度も、平成26年度に実施した68の教育に関する事務事業と「上尾市教育振興基本計画」に体系付けられた全32の施策について、自ら点検及び評価を実施し、教育に関し学識経験を有する3名の先生よりご意見を賜り、このたび本報告書を作成いたしました。

今般の自己の点検評価の結果、学識経験を有する先生からの評価、そして、市民の皆様から頂戴する貴重なご意見を真摯に受け止め、引き続き施策の効果の検証と改善を図りながら、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、より効率的で効果的な行政運営を行ってまいります。

平成27年12月 上尾市教育委員会

上尾市教育委員会委員

委員長	細野 宏道
委員長職務代理者	甲原 裕子
委員	吉田 るみ子
委員	岡田 栄一
委員	中野 住衣
教育長	岡野 栄二
委員長職務代理者	本田 直子 (平成27年11月19日まで)

I 点検評価制度の概要

1 点検評価制度の趣旨

平成18年12月の教育基本法の改正、平成19年3月の中央教育審議会答申等を踏まえ、平成19年6月、教育委員会の組織やその運営方法を定めた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正された。この法改正においては、大きな柱の一つとして『地方における教育行政の中心的な担い手である教育委員会が、より高い使命感をもって責任を果たすために、教育委員会の責任体制の明確化を図ること』が掲げられ、実現する一つの方策として、平成20年4月1日から、各教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に報告するとともに、公表しなければならないことが定められた。

この点検評価の実施にあたっては、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるなど、知見を活用することにより、教育委員会が行った点検評価結果の客観性を確保することが求められている。

2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策

平成23年3月に策定した「上尾市教育振興基本計画」であるが、「夢・感動教育 あげお」を基本理念として、「生きる力をはぐくむ」「生きる喜びをはぐくむ」「絆をはぐくむ」の3つの基本方針を掲げている。この基本理念及び基本方針を踏まえて、平成23年度から平成27年度の間に取り組む教育行政の7つの基本目標を定め、さらに、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、この7つの基本目標には、全32の施策が体系付けられている。

また、この計画の実効性をさらに高め、今日的教育課題に素早く対応し、適切に解決していくために、「平成26年度上尾市教育行政重点施策」を平成26年3月に策定をしている。この重点施策においては、計画の7つの基本目標とそれに体系付けられた施策を効果的に展開していくために、68の事務事業を体系付けている。

当該計画を効率的かつ効果的に推進していくためには、PDCA サイクルの考え方にに基づき、当該計画と点検評価を関連付け、計画の進捗管理を行っていく必要がある。

3 平成27年度における点検評価

平成27年度における点検評価については、平成23年度に策定された「上尾市教育振興基本計画」に掲げられた各施策の下に体系付けられた事業（平成26年度上尾市教育行政重点施策において決定）について、事業レベルでの「事務事業評価」を実施するとともに、事務事業評価をベースに、施策レベルでの「施策評価」についても実施する。

なお、事務事業評価及び施策評価とも、評価基準日は平成27年3月31日とする。

(1) 施策評価

施策評価については、各施策に体系付けられている事務事業の事務事業評価判定(S～D)、評価指標、決算額とともに、当該施策に係る成果指標を掲載している。また、「次年度以降の目標設定」を掲載し、計画の適切な進捗管理を行っていく。

(2) 事務事業評価

平成27年度の「事業評価判定」の基準については、次のとおりである。

評価	評価基準
S	極めて効果があり、他の事業にも影響を与えた。
A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。
B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。
C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。
D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。

4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法においては、点検及び評価を行うに当たり、点検評価結果の客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるなど、知見の活用を求めている。平成27年度においても、昨年同様に広範に亘る事業を網羅するため3人に第三者評価を依頼した。

◎教育に関し学識経験を有する者 ※50音順

聖学院大学教授 小川 洋 氏 (おがわ よう)

元上尾市立小学校長 河原塚貴美代 氏 (かわはらづか きみよ)

元さいたま市生涯学習部生涯学習振興課長 高見澤妙子 氏 (たかみざわ たえこ)

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) [抜粋]

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

5 平成27年度 教育委員会点検評価（平成26年度実施事業の評価） 実施主要事業（全68事業）

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- 1 さわやかスクールサポート事業（学級支援）【再Ⅰ-4】
- 2 指導方法改善事業【再Ⅱ-1, Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-4】
- 3 魅力ある学校づくり事業【再Ⅱ-7, Ⅲ-2】
- 4 学力向上支援事業

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- 5 日本語指導職員派遣事業【再Ⅲ-6】
- 6 教科用図書等整備事業【再Ⅱ-1, Ⅲ-3】
- 7 中学生海外派遣研修事業
- 8 小中学校A L T配置事業

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- 9 中学生社会体験チャレンジ事業
- 10 中学生進路意識啓発事業

施策4 特別支援教育の推進

- 11 特別支援学級補助員派遣事業
- 12 特別支援教育推進事業
- 再掲 さわやかスクールサポート事業（学級支援）
- 13 小学校特別支援学級設置事業（施設整備）
- 14 小中学校特別支援教育就学奨励事業【再Ⅲ-6】

施策5 幼児教育の推進

再掲 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成

- 15 学習支援事業
- 再掲 教科用図書等整備事業
- 16 さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）
- 再掲 指導方法改善事業
- 17 小中学校音楽会開催事業
- 18 小中学校図書整備事業【再Ⅲ-3】
- 再掲 図書館資料整備事業
- 19 中学校部活動支援事業【再Ⅱ-7】
- 20 中学校吹奏楽演奏会開催事業
- 再掲 子どもの読書活動支援センター運営事業

施策2 生徒指導の充実

- 21 生徒指導推進事業
- 22 さわやか相談室運営事業
- 23 いじめ根絶対策事業（防止事業）【再Ⅱ-4】
- 24 いじめ根絶対策事業（相談事業）【再Ⅱ-4】

施策3 人権教育の推進

- 25 人権教育推進事業（指導課所管分）

施策4 学校教育相談の充実

- 再掲 いじめ根絶対策事業（防止事業）
- 再掲 いじめ根絶対策事業（相談事業）
- 26 不登校児童生徒の学校適応指導事業
 - 27 教育相談事業

施策5 学校保健の充実

施策6 食育の推進・学校給食の充実

施策7 児童生徒の体力向上

- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 中学校部活動支援事業
- 28 児童生徒体力向上推進事業

基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上

再掲 指導方法改善事業

施策2 学校経営の改善・充実

- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 指導方法改善事業
- 29 学校評議員制度運営事業
 - 30 元気な学校をつくる地域連携推進事業【再Ⅳ-1】

施策3 学校施設・設備の整備・充実

- 再掲 教科用図書等整備事業
- 再掲 小中学校図書整備事業
- 31 小中学校教育教材整備事業
 - 32 小中学校校舎改築事業

施策4 学校のICT化の推進

- 再掲 指導方法改善事業
- 33 小中学校コンピュータ整備事業
 - 34 小中学校電子黒板整備事業

施策5 学校安全の推進

- 35 児童生徒安全推進事業
- 36 学校安全パトロールカー事業
- 37 通学路安全対策事業

施策6 就学支援の充実

- 38 入学準備金・奨学金貸付事業
- 再掲 日本語指導職員派遣事業
- 再掲 小中学校特別支援教育就学奨励事業
- 39 小中学校就学援助費補助事業
- 40 要保護児童生徒医療費援助事業
- 41 準要保護児童生徒給食費援助事業

※ 39・41については、1シートで評価

基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

- 42 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業【再Ⅰ-5】
- 再掲 元気な学校をつくる地域連携推進事業

施策2 家庭教育の充実

- 43 家庭教育推進事業

基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実

44 生涯学習指導者活動推進事業【再Ⅴ-3】

施策2 生涯学習施設の整備

45 学校施設開放（生涯学習）事業

施策3 生涯学習機会の提供

再掲 生涯学習指導者活動推進事業

46 成人式事業

47 日本の伝統と文化の学習推進事業

48 大学等との連携による生涯学習推進事業

49 公民館講座事業

施策4 人権教育の推進

50 人権教育推進事業（生涯学習課所管分）

51 人権教育集会所運営事業

施策5 図書館運営の充実

52 図書館資料整備事業【再Ⅱ-1】

53 子どもの読書活動支援センター運営事業【再Ⅱ-1】

54 ブックスタート事業

55 （仮）中央図書館整備事業

56 セカンドブックスタート事業

基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進

57 文化芸術振興事業

58 美術展覧会事業

59 市民音楽祭事業

60 音楽家芸術活動支援事業

施策2 文化財の保護

61 文化財調査・保存事業

62 埋蔵文化財調査事業

63 文化財保護啓発事業

64 歴史資料調査事業

基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちた

スポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ推進計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

65 学校施設開放（スポーツ振興）事業

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

66 スポーツ大会・教室等開催事業【再Ⅶ-5】

施策4 スポーツ指導者の育成

67 スポーツ活動推進事業

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

再掲 スポーツ大会・教室等開催事業

68 子どもの体力向上地域連携事業

スポーツ大会・教室等開催事業

Ⅱ 上尾市教育振興基本計画

1 基本計画の策定の趣旨

近年、急速に進む社会の少子高齢化、ICT（情報通信技術）の発達などに見られる高度情報化、さらには社会・経済のグローバル化、環境問題の深刻化などにより社会全体が大きく変化し、また地域では、地域コミュニティの希薄化が進行しています。一方、教育分野においては、子どもたちの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、さらには、社会全体における規範意識や倫理観の低下など、解決すべき多くの課題が指摘されています。



こうした中、平成18年12月、制定から約60年を経て教育基本法が改正されました。この改正教育基本法では、教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえた上で、新しい時代にふさわしい教育の実現のため、「人格の完成」や「個人の尊厳」などの普遍的な理念とともに、新たに達成すべき教育の目標を掲げるなど新しい時代の教育の理念が明確に示されました。

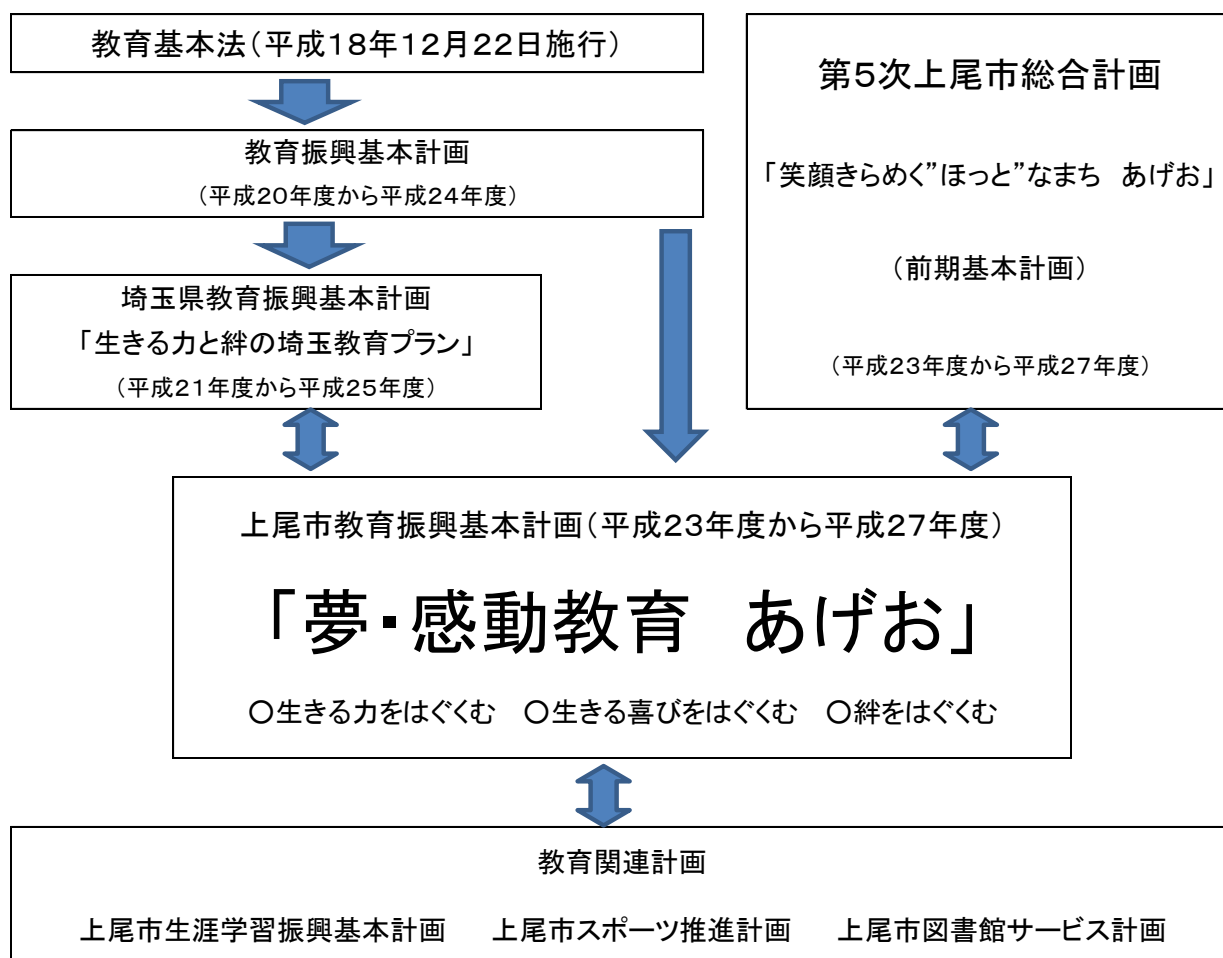
この改正教育基本法に基づき、国は教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育振興基本計画を策定し、また、地方公共団体においては、地域の実情に応じた教育振興基本計画を定めるよう努めなければならないと規定されました。

上尾市教育委員会では、これまでも「第4次上尾市総合計画」に基づく総合的かつ計画的なまちづくりを進める中で、教育行政に関する施策を展開してきましたが、改正教育基本法の趣旨に鑑み、また、「第5次上尾市総合計画」を踏まえながら、市の教育が目指す理念としては、おおむね10年先を見通し、教育行政に関して中長期的視点から今後5年間に取り組むべき施策の体系をより明確にし、それらをさらに着実に推進していくために、改正教育基本法に基づく教育振興の施策に関する基本的な計画として、平成23年3月、上尾市教育振興基本計画を定めました。

2 基本計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づき、平成20年7月に策定された国の教育振興基本計画（平成20年度から平成24年度）及び平成21年2月に策定された埼玉県教育振興基本計画（平成21年度から平成25年度）を参考にし、市の実情に応じた教育の振興のための施策に関して総合的かつ計画的な推進を図るために定める基本的な計画です。

また、本計画は「第5次上尾市総合計画」に示す上尾市の将来都市像「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」を実現するための教育分野における計画であり、本市の教育関連計画においては、最上位に位置付けられます。そして、平成23年度を初年度とする平成27年度までの5年間の計画として、上尾市教育委員会は、これに基づき年度ごとに重点施策を策定し、事業に取り組みます。



3 上尾市における教育の基本的な考え方

📌 基本理念


夢・感動教育 あげお

📌 3つの基本方針

生きる力をはぐくむ
生きる喜びをはぐくむ
絆をはぐくむ

📌 7つの基本目標

I 確かな学力と自立する力の育成	V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
II 豊かな心と健やかな体の育成	VI 文化芸術の創造と文化財の保護
III 安心・安全で質の高い学校教育の推進	VII 健康でに活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
IV 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	



●基本理念

上尾市教育振興基本計画では、本市の教育について、おおむね10年先を見通した基本理念を「**夢・感動教育 あげお**」とします。

夢・感動教育 あげお

夢

知・徳・体の調和がとれ、夢や目標・志を持って自己実現を目指す、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践します。

感動

人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践します。

●基本方針

基本理念を踏まえて、施策を実施していくにあたっては、次の3つの基本方針で取り組みます。

生きる力をはぐくむ

新しい学習指導要領が、小学校では平成23年度から、また、中学校では平成24年度から全面実施されます。この中においても、子どもたちの「生きる力」をはぐくむという理念が引き継がれています。

子どもたちを取り巻く社会や環境が激変する時代にあっては、個性を尊重するとともに能力を伸ばし、知・徳・体の調和を図りつつ、公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心などを尊ぶ社会の一員として、たくましく自立するための生きる力をはぐくむことが重要です。

生きる喜びをはぐくむ

多くの市民が、自己の充実・啓発や生活の質向上のため、スポーツや文化芸術活動など多様な学習機会を求めています。

市民一人一人が、いつでも、どこでも学べる環境を整え、誰もが生涯にわたって自己実現が可能な社会、笑顔いっぱいの社会の実現を目指し、生きる喜びをはぐくむことが重要です。

絆をはぐくむ

今日の様々な教育課題を解決するためには、学校や家庭、地域住民、行政はもとより、企業や大学、関係団体やNPOなど社会全体が連携・協働して一体となって取り組むことが必要です。

また、社会全体で連携・協働して教育に取り組むことは、地域学習や体験活動の充実など教育の質を向上させることにもつながります。

教育の振興を図り、郷土愛に満ちた次世代の人づくりやより良い社会づくりのためには、市民一人一人が教育に対する関心を高め、主体的に教育に参画し、すべての市民の絆をはぐくむことが重要です。

●基本目標

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえて、今後5年間（平成23年度～平成27年度）に取り組む教育行政の7つの基本目標を示します。

〔基本目標Ⅰ〕 確かな学力と自立する力の育成

創意工夫を生かして子どもたちの確かな学力を育成するとともに、社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

〔基本目標Ⅱ〕 豊かな心と健やかな体の育成

公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心など子どもたちの豊かな心をはぐくむとともに、いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組みます。

また、健康の保持・増進や体力向上などにより、健やかな体を育成します。

〔基本目標Ⅲ〕 安心・安全で質の高い学校教育の推進

子どもたちの教育環境を整備・充実するとともに、教職員の資質向上を図り、質の高い学校教育を推進します。

また、子どもたちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

〔基本目標Ⅳ〕 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む気運を高め、学校応援団など、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

〔基本目標Ⅴ〕 生涯にわたる豊かな学びのサポート

自己啓発や生活の充実のための学びの環境を整え、生涯にわたる自己実現をサポートします。

〔基本目標Ⅵ〕 文化芸術の創造と文化財の保護

多様な文化芸術活動を支援するとともに、貴重な文化財の保存・活用に取り組みます。

〔基本目標Ⅶ〕 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

生涯にわたり心身ともに健康で活かに満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供に取り組みます。

Ⅲ 平成26年度 教育行政重点施策

1 【基本目標Ⅰ】 確かな学力と自立する力の育成

児童生徒の生きる力を育むため、アップスマイルサポーターや中学1年生におけるアップスマイル教員の配置を行い、個々の児童生徒へのきめ細かな支援を推進し、充実した教育活動を行い、「確かな学力」を育成します。

また、今後更に進展する国際化・情報化、科学技術の高度化などの社会の変化に対応するため、外国語指導助手（ALT）の配置による外国語活動・英語学習のより一層の質の向上を図り、学校ICT化の推進に取り組むとともに、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育てます。

特別支援教育については、すべての幼児児童生徒が、障害の有無にかかわらず、ともに学ぶ機会を保障し、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進するとともに、インクルーシブ教育システム構築に向け、連続性のある「多様な学びの場」として、通常の学級、通級指導教室及び特別支援学級における学習環境を整備し、指導・支援の充実を図ります。

幼児期の教育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼保小の連携を図りつつ、幼児教育の質の向上に取り組めます。

〔平成26年度 重点事業〕

- ★ さわやかスクールサポート事業（学級支援）
- ★ 魅力ある学校づくり事業
- ★ 教科用図書等整備事業
- ★ 小中学校ALT配置事業
- ★ 特別支援教育推進事業
- ★ 小学校特別支援学級設置事業（施設整備）
- ★ 原市中学校特別支援学級開設
- ★ 西小学校通級指導教室の拡充
- ★ 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業



2 【基本目標Ⅱ】豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心を育むため、道徳教育、人権教育、読書環境、体験活動を充実するとともに、アップスマイル学校図書館支援員を配置し、読書活動の一層の推進を図ります。

また、いじめや不登校など今日的な教育課題に対応するため、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を一層強化し、家庭・地域と一体となった生徒指導を推進するとともに、支援員や相談員を配置し、教職員と児童生徒の信頼関係を深め、児童生徒の心を支える教育相談を充実するなど積極的に学校をサポートします。

平成25年度に策定した上尾市いじめの防止等のための基本的な方針に基づき、各学校において、学校いじめ防止基本方針を策定するとともに、学校生活に関する児童生徒向けアンケート調査を行い、児童生徒個々の状況を的確に把握し、いじめの根絶を図ります。

更に、いじめホットラインやホットメールにより、児童生徒・保護者等の緊急相談等に対応し、いじめの早期解消を図ります。

学校保健活動や食育の充実、安心・安全な給食の提供に努めるとともに、児童生徒の体力向上に向けた取組を積極的に推進し、健やかな体を育成します。

〔平成26年度 重点事業〕

- ★ いじめ根絶対策事業
- ★ さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）
- ★ 小中学校図書整備事業
- ★ 子どもの読書活動支援の充実



3 【基本目標Ⅲ】安心・安全で質の高い学校教育の推進

様々な課題に対応し、質の高い教育を実現するため、学校経営の改善・充実や教職員の資質の向上に努めるとともに、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指して、教育課程を編成し、指導方法の改善に積極的に取り組みます。

また、平成24年3月に改訂した学校安全マニュアル（防災編）を基にした安全管理・安全教育の充実、上尾中学校の改築、学校安全パトロールカー事業などのほか、通学路の安全対策の実施により児童生徒を災害・犯罪から守るための安全対策を講じるとともに、小学校、中学校の快適な学校環境整備を行います。

更に、小・中学校の大型モニターの拡充や学校ICT活用研修会、授業研究会の実施などにより、学校ICTを積極的に活用した教育を推進します。

また、経済的理由で、進学や就学が困難な世帯に貸し付けや就学に必要な学用品等を援助することにより、誰もが安心して、また、質の高い学校教育を受けられるよう支援します。

〔 平成26年度 重点事業 〕

- ★ 通学路安全対策事業
- ★ 小中学校校舎改築事業
- ★ 学校ICTを活用した教育の推進
- ★ 大型モニターの拡充



4 【基本目標Ⅳ】学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む機運を高め、学校応援団の活動をはじめ、上尾市教育月間、学校ファームなどの取組をとおして、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てる教育の充実を図ります。

〔平成26年度 重点事業〕

★ 元氣な学校をつくる地域連携推進事業

5 【基本目標Ⅴ】生涯にわたる豊かな学びのサポート

いつでも、どこでも、自分が学びたいときに学べる体制を整備しながら、自己実現と地域参加を積極的に支援します。また、市民一人一人が人権を尊重し合う社会を実現するための施策を推進します。

特に、今年度から「日本の文化を知ろう」というテーマで日本の伝統と文化の学習推進事業を推進します。また、包括協定を結んだ聖学院大学との連携強化と子どもたちへの学びの場の提供のために、これまでの「子ども大学あげお・いな・おけがわ」に加えて「あげお子ども大学」を開催します。

図書館は、基本である資料の充実を図り、市民の学びや暮らしを支えるとともに、すべての世代が集える、知の拠点となる図書館を目指します。更に暮らしに役立ち、市民とともに歩む23万都市にふさわしい図書館の整備を推進します。

平成20年度よりブックスタート事業を実施しているが、更に今年度、セカンドブックスタート事業として、子どもの読書活動支援センターと小学校が連携して、市内小学生に、児童専用の「読書パスポート」を配付し、子どもたちに読書の楽しさを知ってもらい生涯の読書習慣の支援に取り組みます。更に、学校・家庭・地域との連携を強化し子どもの読書活動を推進します。

〔平成26年度 重点事業〕

- ★ 日本の伝統と文化の学習推進事業
- ★ 大学等との連携による生涯学習推進事業
- ★ 市内の小学生を対象とした「あげお子ども大学」の開催
- ★ 子どもの読書活動支援の充実(再掲)
- ★ 公民館講座事業
- ★ (仮)上尾市中央図書館整備事業
- ★ セカンドブックスタート事業

6 【基本目標Ⅵ】文化芸術の創造と文化財の保護

広く市民に芸術活動の発表の場として利用されている市民ギャラリーの運営や、市美術展覧会や市民音楽祭の開催など、市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援し、市民が豊かな文化を享受し、発信ができるような環境づくりを行います。そのための新たな展開として、市内の音楽家による本格的なクラシックコンサートを市内で開催するという文化芸術支援を行います。そして、利用者の利便性を考慮し、今年度から市役所ギャラリーと市民ギャラリーの運営を一括して行います。

また、伝統文化の継承、文化財の保存管理に努め、収集・整理を進め、学習活動を支援する環境を整えるために、古文書整理事業などにも取り組みます。

〔平成26年度 重点事業〕

- ★ 美術展覧会事業
- ★ 市民音楽祭事業
- ★ 音楽家芸術活動支援事業
- ★ 文化財保護啓発事業



7 【基本目標Ⅶ】健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

市民の健康づくりや体力づくりに対する関心は高く、スポーツ・レクリエーション活動の推進を図るため、平成25年度に策定した「上尾市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツ施設の整備、スポーツ・レクリエーション事業の開催や活動団体・指導者の育成を行い、市民がスポーツ・レクリエーションに親しむことのできる環境づくりに取り組みます。

また、子どもの体力向上に向け、小・中学校との連携を図り、大学やスポーツ推進委員など各種のスポーツ関係団体の協力のもと、子どもの体力向上地域連携事業に取り組みます。

〔平成26年度 重点事業〕

- ★ 子どもの体力向上地域連携事業
- ★ スポーツ大会・教室等開催事業
- ★ スポーツ施設の整備・充実

IV 評価結果（施策評価）



平方幼稚園

基本目標 I

確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

施策4 特別支援教育の推進

施策5 幼児教育の推進

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
1 さわやかスクールサポート事業 （学級支援）	100,042	A	アップスマイルサポーター数	70人	74人	75人	
			アップスマイル教員数	7人	7人	9人	
2 指導方法改善事業	1,518	A	研修会実施数	44回	44回	46回	
3 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）	76.4%	77.4%	79.3%	
4 学力向上支援事業	7,673	A	上尾市学力調査の国語・算数 （数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8
				中学校	50.3	50.3	50.5

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.3	50.5	

◎教育委員会の施策評価

平成26年度のアップスマイル教員の配置については、中学校1年生で少人数学級の編制を行い、小学校から中学校への滑らかな接続を図り、中1ギャップの解消にも効果を上げている。教員が一人一人の生徒と向き合う機会も多くなり、より一層、きめ細やかな指導が可能となった。また、アップスマイルサポーターを75人配置することで、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の個別の支援に生かしている。

学力向上に向けては、各学校での繰り返し学習による基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用する機会である言語活動の充実によって、思考力・判断力・表現力を身に付けることができる授業が展開された。また、自校の学力調査の結果分析を行い、成果と課題を明確化、共有化し、学校の状況や児童生徒の実態に応じた学力向上プランを作成し、日々の授業改善に役立て、指導の充実を図っている。適切な評価・効果の検証とさらなる改善を進め、一人一人の児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導に引き続き取り組んでいる。

さらに、異校種の学校の研究発表会に積極的に参加し研鑽を積んでいる。研究協議会において小・中学校の教員で意見交換を行ったり、中学校区で小・中学校共通のテーマを設定して取り組んだりすることで、連携教育から一貫教育に向けての推進が図られつつある。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	52以上	52以上
	中学校	50.5	51以上	51以上

- 学識経験者の意見
- ◆ 中一ギャップを防ぎ、またインクルーシブ教育の推進のためにも、教員の増員配置は必要である。今後とも「さわやかスクールサポート事業」を継続し、現場の意見を反映させた一層の充実が求められる。また、適切な教育指導のために、学力調査の結果がひとつの指標とされるのは当然であるが、学力に課題を抱える児童生徒を把握し、早い段階で適切な指導を加えることによって、学力の「底上げ」をすることが学力調査の大きな目的のひとつでもある。この観点からの学校支援の一層の充実を期待する。
 - ◆ 他市との比較においても、上尾市の小中学校は特に手厚い教育指導を実践していると思われる。小中学校の教員の意見交換や研究発表会への互いの参加は、子供たちの成長を長い目で継続的に支えていくために、今後さらに重要な役割を果たしていくと考える。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 2 時代の変化に対応した教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
5 日本語指導職員派遣事業	2,883	A	派遣教職員数	12人	13人	13人	
6 教科用図書等整備事業	13,872	A	道徳副読本整備状況	100%	100%	100%	
			体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
			保健体育科準教科書整備 状況	100%	100%	100%	
			社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
7 中学生海外派遣研修事業	10,119	A	応募生徒数	44人	54人	76人	
			派遣生徒数	22人	22人	22人	
8 小中学校ALT配置事業	73,789	A	ALT配置人数	27人	27人	27人	
			ALT活用 時数	小学校	31.5時間	32.2時間	21.9時間
				中学校	37.6時間	37.8時間	30.6時間

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
ALT配置人数	27人	27人	27人	小・中学校ALT配置人数

◎教育委員会の施策評価

現代社会のグローバル化に対応するため、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質と能力を育成することは重要である。国際社会の中で、しっかりとしたアイデンティティを持ち、異文化を理解した上で、自分の意見を適切に主張することができる人材の育成を目指し、中学生22人が、一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修や文化・スポーツ交流等の研修を行う中学生海外派遣研修を実施した。上尾市とロッキヤーバレー市の友好都市協定締結の場に同席する貴重な体験も含め、現地における全研修日程を計画どおり無事に終え、帰国報告会での発表等、この研修をとおして、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。

また、全小・中学校にALTを配置し、日常的に「生きた英語」とふれあい、コミュニケーション能力向上を図る環境を整え、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。各校1名ALTを配置することで、さらに個に応じた指導の充実が図られると考える。

さらに、英語弁論大会を開催し、国際感覚の育成や英語力向上を図った。特に、大会優勝生徒が、県大会で上位入賞し、全国大会中央大会予選会出場を果たした。

これらの事業を通し、時代の変化に対応した教育の推進を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
A L T 配置人数	27人	33人	35人

学識経験者の意見

- ◆ 日本語以外の言語を母語とする児童生徒は今後も増加傾向にあると考えられる。指導職員の派遣だけでなく、一般の教員に指導法の研修機会を提供するなど、幅広い教員の能力開発も求められていると考える。
また、海外派遣事業やALTの配置は、ルーティン化することによるデメリットも考えられる。協力関係機関や経験者、あるいは当事者からの意見を常に聴取して改善すべき点があれば対応する必要がある。
- ◆ 地域のニーズや児童生徒の特性、それと33人のALTの資質はそれぞれ異なっており同じではない。今後、それぞれの特性・ニーズに合わせたカリキュラムや活用方法を研究していけたらと思う。



A L T による授業

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 3 進路指導・キャリア教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
9 中学生社会体験チャレンジ事業	621	A	職場体験事業所数	221	244	242
			「進路意識向上」できた と回答した生徒	39.1%	42.8%	48.8%
10 中学生進路意識啓発事業	110	A	講演会開催回数	12回	11回	11回
			講演会参加生徒数	6,845人	6,169人	6,177人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
職場体験事業所数	221	244	242	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できた と回答した生徒	39.1%	42.8%	48.8%	「進路意識が向上した」と回答した 生徒の割合

◎教育委員会の施策評価

中学生社会体験チャレンジ事業として職場体験を市内中学校11校中10校が実施することができた。（1校のみ2学年で実施するための移行期間として今年度は福祉体験を行った。）中学生が地域の中で職場体験を行うことを通して、職業に対する基礎的な知識や一般的なルールや礼儀といった社会性や自立心、異世代間でのコミュニケーション能力を養い、進路に対する意識を向上させることができた。

また、中学生の望ましい職業観や勤労観の育成を図るために、学校・家庭・地域「ふれあい講演会」を全中学校が実施した。地域で活躍する方や、地元出身の各方面で活躍する様々な方による講演を聞くことで、自己の将来について考え、夢や希望を抱き、その実現をめざして前向きに努力していこうとする態度を身につける事業となった。これらの事業をとおして、生徒の生き方を考える進路啓発につながった。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
「進路意識向上」できた と回答した生徒	48.8%	50%	50%

学 識 経 験 者 の 意 見	◆ 児童生徒には様々な職業・職種に触れる機会をつくって、自己の将来についてのイメージを持てるようにすることは非常に重要であり、場合によっては講演会形式よりは、さまざまな種類の仕事に従事している人たちを学校に招待し、児童生徒たちと直接触れ合う形式での学習活動の検討もありうるかと考える。
	また、中学生の高学年では、悪質な企業の実在についての知識と自分を守るための制度に関する理解を促す学習活動も適切に行われることが望ましい。
◆ 事業所体験を様々なところで見かけることができた。進路に対する意識の向上も確認できた。こうした指導を末永く続けられるよう生徒への事前指導や個別指導を一層強化して、気持ちよく受け入れていただけるようにしたい。	

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 4 特別支援教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
1 さわやかスクールサポート事業（学級支援）	100,042	A	アップスマイルサポーター数	70人	74人	75人	
			アップスマイル教員数	7人	7人	9人	
1 1 特別支援学級補助員派遣事業	16,269	A	補助員配置数	9人	9人	9人	
			補助員配置率	75%	69%	64%	
			補助員対象研修回数	9回	9回	9回	
1 2 特別支援教育推進事業	223	A	特別支援教育研修会回数	5回	5回	8回	
			特別支援教育研修会参加率	100%	100%	100%	
			合同作品展入場者数	500人	500人	500人	
1 3 小学校特別支援学級設置事業（施設整備）	35,237	A	小学校設置校数	9校/22校	9校/22校	9校/22校	
1 4 小中学校特別支援教育就学奨励事業	5,992	A	奨励費の申請率	小学校	100%	99%	96%
				中学校	100%	98%	100%

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
アップスマイルサポーター配置校数	33校	33校	33校	
アップスマイルサポーター配置人数	70人	74人	75人	通常学級で教員を補助し特別の支援を行う支援員数

◎教育委員会の施策評価

特別支援教育の推進を図るため、全ての学校で特別支援教育の視点に立った適切な支援が行えるよう指導を重ねてきた。各研修会においては、教員の指導力・資質の向上を図るため、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや県立大学の准教授を講師に招き、専門的な知識・技能を習得する質の高い研修会を実施することができた。

また、次年度の特別支援学級開設に向け担当者育成のための特別支援教育推進研修会を新たに設定した。担当教員らが専門的な知識・技能を習得できるよう、実践的な授業研究会や支援学級での実習を伴う研修会を実施した。このことにより、予定の学校7校全てで、円滑に開設できた。

また、各学校においては、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによる巡回相談を実施し、通常の学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導・支援を続けてきた。さらに、アップスマイルサポーターを全小・中学校に配置することにより、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の成長を促し、学級の円滑な運営にも資することができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
アッピースマイルサポーター配置校数	33校	33校	33校
アッピースマイルサポーター配置人数	75人	75人	95人
小学校特別支援学級設置校数	9校/22校	16校/22校	22校/22校

学識経験者の意見

- ◆ 特別支援が必要な児童生徒については、教育心理学などの研究の進展から、従来よりもさらに細やかな対応の必要性が指摘されるようになってきている。学校現場の情報を整理するとともに、専門家からの助言なども得ながら、より適切な体制整備に向けた努力が望まれる。
- ◆ アッピースマイルサポーターが年々増加しているのは、通常の学級に在籍している特別支援教育の必要な児童生徒の増加によるものと考える。特別支援学級の新設に伴い、適正な就学指導が行われるよう合わせてお願いしたい。



小学校特別支援学級教室

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策 5 幼児教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
42 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業	393	A	幼・保・小合同研修会回数	1回	1回	1回
			幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
幼・保・小合同研修会回数	1回	1回	1回	幼児教育に係る研修会実施回数
幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%	研修会参加校数/22校×100

◎教育委員会の施策評価

幼児教育の推進を図るためには、全ての小学校に、幼稚園・保育所・保育園との滑らかな接続が推進されるよう適切な支援を指導していく必要がある。幼児教育から小学校教育への接続は、児童にとって大きな環境の変化が伴い、指導する教員の児童理解や指導力・資質の向上は欠かせないことである。そこで、今年度も、上尾市にある幼稚園・保育所・保育園と小学校の連携を積極的に推進してきた。各学校においては、小1プロブレムを起こさせないために、接続期プログラムに沿った学習指導を推進するとともに、研修会では、積極的に情報交換や相談を行い、児童一人一人の実態把握に努め、きめ細かな支援により、小学校入学を支援することができた。

また、教育委員会として、家庭への啓発を推進するため、埼玉県教育委員会の方針に従い、「啓発リーフレット」を家庭向けに、上尾市版「接続期プログラム集」を教職員向けに作成した。

市民に対しても、連携の大切さを理解促進する機会として有意義な事業であった。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%

学識経験者の意見	◆ 保育園や幼稚園は、学区ではなく保護者の希望により選択されているので、必ずしも入学する小学校との連携にはならない。しかし保護者にとっても、こうした研修が市内の学校の様子を知るよい機会になるに違いない。
----------	---

基本目標Ⅱ

豊かな心と健やかな体の育成

- 施策1 豊かな心の育成
- 施策2 生徒指導の充実
- 施策3 人権教育の推進
- 施策4 学校教育相談の充実
- 施策5 学校保健の充実
- 施策6 食育の推進・学校給食の充実
- 施策7 児童生徒の体力向上

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名		平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
				評価指標	24年度	25年度	26年度	
2	指導方法改善事業	1,518	A	研修会実施数	44回	44回	46回	
				上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8
					中学校	50.3	50.3	50.5
6	教科用図書等整備事業	13,872	A	道徳副読本整備状況	100%	100%	100%	
				体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
				保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	
				社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
15	学習支援事業	217	A	外部指導者補助率	55.0%	67.8%	42.3%	
				外部指導者補助数	103人	103人	102人	
				外部指導者活用率	78.8%	84.8%	81.8%	
16	さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）	18,473	A	学校図書館支援員数	25人/33校	25人/33校	25人/33校	
				1校あたりの派遣回数（平均）	小学校202回 中学校約41回	小学校202回 中学校約41回	小学校203回 中学校約42回	
				「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	74.5%	74.9%	75.9%
中学3年	72.8%	73.2%	74.6%					
17	小中学校音楽会開催事業	1,281	A	参加学校数	33校	33校	33校	
				参加者数	約2,000人	約2,000人	約2,200人	
18	小中学校図書整備事業	28,155	A	増加冊数	小学校	12,399冊	10,745冊	11,390冊
					中学校	5,783冊	6,029冊	5,398冊
				廃棄冊数	小学校	4,023冊	625冊	1,926冊
					中学校	497冊	519冊	99冊
				年度末現有冊数	小学校	181,400冊	193,011冊	202,475冊
					中学校	106,119冊	111,629冊	116,928冊
図書標準目標達成率	小学校	83.7%	89.3%	93.4%				
	中学校	74.3%	77.4%	81.4%				
19	中学校部活動支援事業	4,163	A	部活動指導員配置率	81.8%	90.1%	90.1%	
				運動部活動加入率	75.0%	74.1%	73.4%	
20	中学校吹奏楽演奏会開催事業	310	A	参加学校数	11校	11校	11校	
				一般参加者数	378人	439人	395人	
52	図書館資料整備事業	36,704	A	蔵書数（全9館）	556,926点	564,626点	569,759点	
				蔵書密度（市民一人当たり）	2.55点	2.58点	2.61点	
				図書館利用者数（全9館）	440,036人	417,909人	415,969人	

				予約リクエスト件数 (全9館)	208,466点	202,944点	209,632点
				貸出密度(市民一人当たり)	6.39点	5.90点	5.85点
53	子どもの読書活動支援センター運営事業	5,289	A	出張おはなし会	23回	39回	41回
				読書ボランティア養成講座	21回	28回	20回

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	74.5%	74.9%	75.9%	上尾市小・中学校学力調査 質問紙調査
	中学3年	72.8%	73.2%	74.6%	
図書標準目標達成率	小学校	83.7%	89.3%	93.4%	
	中学校	74.3%	77.4%	81.4%	

◎教育委員会の施策評価

平成26年度は、豊かな心の育成のため、学校図書館支援員を小学校全校に毎日派遣、中学校には週1日派遣した。各学校の司書教諭を助け、児童生徒の読書活動推進に大きく貢献することができた。特に、小学校では読み聞かせの充実や読書案内、新書の展示コーナーが設置されるようになり、児童生徒が本を手に取りやすい環境が整ってきた。また、新聞を各校に2部配布し、新聞を授業に活用できる環境も整ってきている。児童生徒の学習に必要な環境を整えるため、学校図書館法で規定されている図書標準を達成するよう予算を傾斜配分することができた。このような取組や家庭と連携した読書活動が評価され、大石南中学校が、子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞することができた。

小・中学校音楽会では、各校が日頃の教育活動の成果を発表するとともに互いの音楽を鑑賞することにより、児童生徒の豊かな心の育成につなげることができた。多くの市民が来校し、市として文化芸術振興の一環としての役割も大きい。、芸術を提供するとともに、学校理解の場とすることができた。また、音楽教育に関する教員の指導力を高める効果もあった。

道徳及び体育科・保健体育科では、教科用図書が発行されていないため、本市の教育水準を高めるために、道徳及び体育科、保健体育科の準教科書・副読本の整備を行った。特に、道徳は、家庭用「彩の国の道徳」を使い、家庭・地域と連携し、人間性や社会性をはぐくむ道徳教育を充実させ、豊かな心の育成に取り組むことができた。

専門的な知識や技能を持つ外部指導者を積極的に活用することで、児童生徒一人一人の興味関心等に合った効果的な指導ができた。特に、総合的な学習の時間等の授業では、体験活動や個に応じた指導が可能となり、特色ある教育活動が展開でき、児童生徒にとって魅力ある教育活動となった。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	75.9%	75%以上	75%以上
	中学3年	74.6%	75%以上	75%以上

学識経験者の意見

◆ 「学力低下論」以来、教科学習の成績向上への関心が強くなっている。しかし、児童生徒たちの自然と触れ合う機会の減少などの生活環境の現状を考えれば、教科以外の学習活動の重要性はますます高まっていると考える。児童生徒の変化を観察しながら、より適切な教科外学習活動の指導のあり方、支援のあり方の研究が望まれる。

◆ 子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰は、地域の特性に合致した取組への最大の評価であり、さわやかスクールサポートの働きも大きかったと拝察する。若者の文字離れが取りざたされて久しいが、大変好ましい傾向と思われる。こうした取組を全児童生徒に実施できるのは、今しかないのではないだろうか。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
21 生徒指導推進事業	4,600	A	支援員派遣校数	4校	4校	4校
			支援員1校あたり週 派遣日数	2日	2日	2日
			暴力行為発生件数	18件	3件	0件
			街頭補導回数	569回	494回	494回
			地域の集い参加者数	332人	363人	289人
22 さわやか相談室運営事業	19,866	A	相談室の相談件数	11,204回	10,470回	12,743回
			相談の解決率	87%	76%	85%
			不登校生徒割合	1.60%	1.83%	1.85%
23 いじめ根絶対策事業 （防止事業）	6,426	A	いじめの認知件数	32件	22件	15件
			いじめ解消率	100%	100%	93.8%
24 いじめ根絶対策事業 （相談事業）	509	A	いじめ相談解決率	—	100%	100%
			いじめホットライ ン・ホットメール相 談件数	—	17件	11件

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
街頭補導回数	569回	494回	494回	11中学校区における該当補導実施数
不登校生徒割合	1.60%	1.83%	1.85%	不登校生徒数/全生徒数×100
いじめ解消率	100%	100%	93.8%	いじめ解消件数/いじめ認知件数×100
暴力行為発生件数	18件	3件	0件	小・中学校の暴力行為発生件数

◎教育委員会の施策評価

各学校に対して管理職のリーダーシップの下、生徒指導主任を中心に全教職員の共通理解に基づいて校内指導体制を確立し、学級や学年の枠を超え、相互に連携して児童生徒一人一人の指導・援助に当たるよう指導し、充実を図ることができた。

生徒指導支援員を希望する学校に配置し、校内巡視などを行うことで、抑止力となり、専門性の高い支援員を配置することで、非行・問題行動を繰り返す生徒への教員の指導を支援することができ、再発防止等にも効果を上げることができた。

上尾市生徒指導推進協議会の活動に関しては、市内の小・中学校及び高等学校が地域及び警察等関係機関、青少年育成団体等と連携し、中学校区内のパトロールなど具体的な実践を行い、児童生徒及び青少年の非行・問題行動の抑止力となることができた。

「いじめ」については、「上尾市いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、各学校でも「学校いじめ防止基本方針」を作成し、共通理解の下、いじめの未然防止と早期対応に努めることができた。昨年度に引き続き、児童生徒対象の共通したアンケートを月1回、保護者対象の共通したアンケートを学期1回実施するとともに、学級における望ましい人間関係の構築のための「hyper-QU調査」や教職員がいじめを見抜き、早期発見・早期対応の能力を高めるための「CAP研修会」を転入教員及び初任者を対象に実施し、市全体で「いじめ」の早期発見・早期解消のための取組ができた。

また、「上尾市ネットトラブル防止対策会議」を開催し、ネットいじめ等の根絶対策にも力を入れた。一方、さわやか相談室運営事業では、今年度の相談延べ件数は昨年度より2273件増加、中学校における不登校出現率が0.02%増加したことが課題である。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
暴力行為発生件数	0件	0件	0件
いじめ解消率	93.8%	100%	100%

学識経験者の意見

- ◆ インターネットの普及により、児童生徒の関係が見えにくくなっている。児童生徒間だけではなく、場合によっては保護者や学校が気付かないうちに、子どもたちが犯罪組織に不用意に近づいてしまうケースもある。いじめ対策が法制化されたこともあり、研修などを通して先生方の対応力を高めるとともに、陰湿ないじめの発生を防ぐためには人間関係作りが基本になるので、先生方の指導力の向上に向けた支援が求められる。
- ◆ 今夏、関西の中学生が夜中に街を徘徊し、殺害されるという痛ましい事件が起きた。報道では普通の子と表現していたが、普通の子が夜中に街を徘徊するのだろうか？周囲も気づけなかったのだろうか？等々多くの大人が疑問を持った。
いつの間にか子供を取り巻く社会は大きく変化し、顕在化した氷山の一角の下にまだまだ理解不能、解決困難なことがたくさん生まれてきていることだろう。
生徒指導のむなしさのようなものも感じられるが、多くの手を借りることを躊躇せず、積極的にかかわり続けていただきたい。

第17回あげお子ども議会

いじめをなくす宣言

私たちは、いじめを許しません。私たちは、強い意志をもっていじめをなくし、楽しい学校をつくることをめざし、上尾市のすべての小学校児童に向けて、ここに「いじめをなくす宣言」をします。

いじめはしません

いじめによって相手も自分も心が深く傷つきます。
私たちは、一人一人の勇気と協力でいじめをなくします。
見て見ぬふりは絶対にしません。

いじめは許しません

友だちへのからかいやいじめは身の回りにあります。
私たちは、相手の気持ちを考えた言葉づかいをします。
また、自分の正しい意思を伝える勇気とやさしさを持ちます。

いじめのない学校をつくります

友だちの良さに気づき、良さから学び、いじめをなくしていきます。
私たちは、友だちや先生方とのふれあいを大切に、いじめのない学校を一日も早くつくっていきます。

平成19年8月10日

いじめをなくす宣言

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
25 人権教育推進事業 (指導課所管分)	1,304	A	研修会・授業研究会実施回数	8回	7回	8回
			研修会参加者数	269人	246人	267人
			教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいができると回答した児童 生徒の割合	88.7%	90.0%	90.0%
			作文・標語集等配布率	100%	100%	100%

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいができると回答した児童 生徒の割合	88.7%	90.0%	90.0%	「よくできる」「だいたいできる」回答児童 生徒数/全児童生徒数×100
作文・標語集等配布率	100%	100%	100%	配布数/児童生徒数×100%

◎教育委員会の施策評価

人権作文・標語集の配布や人権啓発資料「かがやき」の発行、あいさつ運動、道徳教育の推進、いじめ根絶への取組など全市的な取組により、児童生徒の人権意識を高めることができた。しかし、同和問題やネットモラル、児童虐待などの人権問題、さらには性同一性障害といった新たな人権課題も顕在し課題となっている。

これらを解決するために、関係団体と連携を深めた人権教育が必要である。特に、同和問題については、管理職及び教員を対象とした「差別の現実」を踏まえた講演や「同和問題」を視点としたフィールドワークによる研修を実施し、人権教育を推進する指導者の資質向上を行うことができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいができると回答した 児童生徒の割合	90.0%	90%以上	90%以上
作文・標語集等配布率	100%	100%	100%

学識経験者の意見

- ◆ 社会に余裕がなくなり、大人の社会でもヘイトスピーチなど偏狭で不寛容な態度が広がりつつある。時事問題のなかにも教材は多くある。時事問題を扱うことに学校は躊躇する傾向があるが、子供たちは、教科書などに書かれていること以上に、先生たちが現実をどう捉えているかに強く反応する。先生方を信用して、児童生徒の人権意識を育む取組を支援していくことが必要と考える。
- ◆ 「人を殺してみたかった」などと公言する犯人の精神構造は全く理解できないが、こうした不可解な事件が実際に起きる。「相手のことを考えた優しい言葉づかいができる」は大賛成である。今のうちにしっかりとゆるぎなく心の中に根付かせたいものである。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
23 いじめ根絶対策事業 （防止事業）	6,426	A	いじめの認知件数	32件	22件	15件
			いじめ解消率	100%	100%	93.8%
24 いじめ根絶対策事業 （相談事業）	509	A	いじめ相談解決率	—	100%	100%
			いじめホットライン・ホ ットメール相談件数	—	17件	11件
26 不登校児童生徒の学校 適応指導事業	4,644	A	適応指導教室入級者数	9人	13人	11人
			適応指導教室開設日数	146日	151日	151日
27 教育相談事業	14,409	A	教育相談実件数	279件	321件	461件
			教育相談延べ回数	3,171回	5,935回	6,483回
			教育相談終結率	86.4%	79.1%	76.4%

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
不登校児童生徒の割合	0.67%	0.73%	0.71%	不登校児童生徒数÷児童生徒数×100
教育相談終結率	86.4%	79.1%	76.4%	終結数÷相談実件数×100
適応指導教室から学校へ の復帰率	100%	100%	100%	学校復帰した人数÷入級者×100

◎教育委員会の施策評価

平成26年度の教育センターの教育相談延べ回数は6,483件と、過去最高の相談件数となっているが、どのケースも迅速に丁寧に相談に応じることができた。相談の内容については、「不登校」「性格・行動」「学習・発達」「就学」での相談が大変多くなってきている。それに伴い、知能検査（WISC-ⅢまたはⅣ）を受けるケースも大変多くなってきているが、きめ細かく丁寧に相談に応じ、適切な支援の方法をアドバイスするなどして問題の解決へと導くことができた。また、各小・中学校やさわやか相談室等と連携し、これらの相談を一つ一つ丁寧に対応することで問題を解決できた。特にコミュニケーションを苦手としている不登校児童生徒にとって適応指導教室での活動は、一人一人の状態に合わせ、指導員・教育心理専門員が計画的に指導・支援を行うことで、その後の学校復帰に繋がった。また、問題行動等に関して、スクールソーシャルワーカーが家庭訪問を繰り返したり、子ども若者相談センターや児童相談所、社会福祉協議会等、関係機関との連携に努め、ケース会議を適宜行うなどした結果、関係機関が対象児童生徒について情報の共有ができたことは評価できる。

いじめホットライン・ホットメール相談では、相談員が相談者の気持ちを十分受け止め、寄り添いながら丁寧に相談を進め、学校と協力して問題の解決を図った。


◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
教育相談終結率	76.4%	80%	80%

学識経験者の意見

- ◆ 子供たちだけでなく、保護者も孤立しがちな環境に置かれているケースも増えており、深刻な事態に至る前に、学校や教員側から必要な支援が得られるように手配する必要性が高まっている。専門性をもった職員の配置によって、多忙な教員の負担軽減になるような支援体制の充実が望まれる。
- ◆ 教育相談数の増加は、考えようによっては好ましい傾向といえる。問題が増えたというより、解決しようという意欲や努力の行動ととらえることもできるからである。就学以前の子ども達でも似たような相談が寄せられていると聞く。そして知能検査も必要で、教育センターの役割はとて大きく、学校を側面支援できる大きな存在である。学校や専門機関等大きな連携網を持ち、更なる活躍を期待している。

上尾市「いじめ根絶」中学生サミット



上尾市「いじめ根絶」中学生宣言

私たちは、強い意志をもっていじめをなくし、互いに支え合い、「笑顔いっぱい さわやかなあいさつ」のあふれる楽しい学校をつくりたい。上尾市の全中学校・全生徒は、ここに「いじめのない学校をつくる」ことを宣言します。

人をきずつける言動は絶対にしません

私たちは、いじめを絶対にしません。相手が嫌がることはせず、相手の気持ちを考え、正しい行動を取ります。

やさしさと勇気をもち、まも仲間の笑顔を護ります

私たちは、友達を信頼し、やさしさをもって接します。見て見ぬふりをせず、自らの意志を伝える勇気を持ち、仲間と助け合います。

一人一人の人権を尊重し、思いやりの心をもって生活します

私たちは、友達や先生方、地域の方々とのふれあいを大切にします。一人一人の個性を互いに認め、支え合います。

平成25年12月7日

上尾市「いじめ根絶」中学宣言

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 学校保健の充実

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明	
「早寝 早起き 朝ごはん」調査	起床時間 7時までに起きる	小学校	96.5%	96.1%	95.8%	「早寝 早起き朝ごはん」調査（各年度4月調査）
		中学校	83.4%	85.0%	85.2%	
	就寝時間 10時までに寝る	小学1年	97.5%	95.9%	96.4%	
		小学2年	95.0%	94.0%	93.9%	
		小学3年	90.3%	91.0%	89.9%	
		小学4年	83.8%	81.6%	87.1%	
		小学5年	73.5%	72.2%	74.6%	
		小学6年	62.6%	58.3%	57.6%	
	就寝時間 11時までに寝る	中学1年	78.9%	82.9%	80.6%	
		中学2年	51.8%	49.5%	55.2%	
中学3年		31.5%	30.4%	29.0%		
DMF保有数	小学校	0.36本	0.28本	0.30本	※DMF保有数・過去にむし歯になったことがある歯の本数を表したもの	
	中学校	1.29本	1.11本	1.22本		
	平均	0.67本	0.56本	0.61本		

◎教育委員会の施策評価

生活リズムの乱れを改善するため、各学校では学校保健計画を作成し、学校保健委員会を中心に家庭や地域との連携を図りながら、基本的な生活習慣を養うとともに、学校保健活動を推進し、児童生徒自らが健康管理できるよう指導していくことが重要である。

平成26年度は各学校で学校保健委員会を複数回開催し、児童生徒の健康に関する課題への対応について家庭・地域・関係機関との連携を図ってきた。

定期健康診断は全ての小中学校で計画的に実施されており、疾病の予防・早期発見・早期治療により、健康保持・増進が図れた。特に歯科については、定期健診や歯科保健活動などにより、児童生徒一人当たりのDMF保有数が減少してきている。

食物アレルギーについては、学校・保護者・主治医と連携し、学校生活管理指導表など活用してアレルギー発症時の対応について情報共有を図ってきた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
起床時間 7時までに起きる	小学校	95.8%	96.0%	96.5%
	中学校	85.2%	85.5%	86.0%
就寝時間	10時までに寝る 小学校	83.3%	84.0%	84.5%
	11時までに寝る 中学校	55.0%	55.5%	56.0%
DMF保有数	小学校	0.30本	0.56本	
	中学校	1.22本		
	平均	0.61本		

学識経験者の意見

- ◆ 本来は家庭の役割であるが、息の長い「早寝 早起き 朝ごはん」の指導により、好ましい生活習慣がかなり根付いてきている。意識的にはかろうじて踏みとどまっているというべき部分もあるかもしれない。何もしなければ生活習慣はどんどん乱れてしまうに違いない。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策6 食育の推進・学校給食の充実

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明	
朝ごはんを必ず食べる	小学校	1年	97.2%	98.3%	96.7%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査（各年度4月調査）
		2年	96.9%	96.0%	96.1%	
		3年	95.1%	96.8%	95.7%	
		4年	95.4%	95.7%	95.4%	
		5年	94.5%	96.9%	95.6%	
		6年	96.2%	96.3%	95.9%	
		平均	95.9%	96.7%	95.9%	
	中学校	1年	94.9%	96.7%	94.0%	
		2年	92.5%	92.8%	92.2%	
		3年	92.7%	90.4%	91.2%	
平均		93.4%	93.3%	92.5%		

◎教育委員会の施策評価

成長期にある子どもたちに、朝食の欠食や偏食など食生活の乱れが指摘されている。このため、平成26年度も引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、食に関する指導を実施している。この取組には、栄養教諭・栄養職員とのチームティーチングによる指導、独自に作成したチャレンジカードを使用した取組、栄養教諭等が行うエプロンシアターによる指導など、工夫をこらしながら望ましい食生活を身に付けさせるよう取り組んできた。また、あわせて家庭との連携も必要なことから、保護者への啓発にも取り組んでいる。

環境や食物に対する理解を深めるため、学校ファームでの栽培体験を実施している。地場産を使用した給食については、市内の米生産農家をはじめJAあだち野の協力により実施している。このような生産者の顔が見える地場産米や地場産野菜類の使用は、食材に対する認識を深め、また、食育を推進する役割を果たしている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
必ず朝ごはんを食べる	小学校	95.9%	96.5%	97.0%
	中学校	92.5%	93.0%	93.5%

学識経験者の意見

- ◆ 長年の「早寝 早起き 朝ごはん」の取り組みは確実に成果を上げている。以前、十数年前に埼玉県調査に協力した瓦葺中学校生徒の「骨密度と生活習慣の関連」の調査結果があった。運動や食事内容には関係がなく、「毎朝 朝ごはんを取っている生徒の骨密度が確実に上昇」していたという研究結果が出たことを思い出した。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
3 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）	76.4%	77.4%	79.3%	
19 中学校部活動支援事業	4,163	A	部活動指導員配置率	81.8%	90.1%	90.1%	
			運動部活動加入率	75.0%	74.1%	73.4%	
28 児童生徒体力向上推進事業	4,265	A	新体カテスト 総合評価 上位3ランク (ABC) の児童生徒の割合	小学校	79.6%	78.8%	78.5%
				中学校	85.5%	84.6%	86.1%

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
新体カテスト 総合評価上位 3ランク(ABC) の児童生徒の 割合	小学校	79.6%	78.8%	78.5%	5ランク中上位3ランクの児童生徒 の割合
	中学校	85.5%	84.6%	86.1%	

◎教育委員会の施策評価

児童生徒の体力向上については、児童生徒の運動をする子とそうでない子の二極化が進んでいる中、運動に親しむ資質や能力の育成から体力向上に向けて、様々な取組を行った。具体的には、小学生ドッジボール大会、上尾市なわとび大会、市民駅伝に向けて、各校で計画的に練習に取り組み、大会で成果を発揮することができた。また、体育主任会で、体力の向上が顕著に見られた学校の実践発表会を行い、情報の共有を図ることができた。

小学校体育連盟と中学校体育連盟では、各種大会に向けて、練習に取り組み、好記録、好成績を収めることができた。また、体育授業の充実に向けて、小中一環教育といった視点からも、校種を超えて、体育授業研究会及び研究協議会を開催し、指導方法を深めることができた。

中学校では、スポーツにおいての高い技術指導と知識をもつ部活動指導員を配置し、教員の指導補助、活動する上での安全確保、また、生徒の技術向上を図ることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
新体カテスト 総合評価 上位3ランク(ABC)の 児童生徒の割合	小学校	78.5%	80%以上	80%以上
	中学校	86.1%	85%以上	85%以上

学 識 経 験 者 の 意 見	◆ 子供たちの運動機会が減っていることは、様々に指摘されており、学校教育におけるスポーツ活動の奨励はいっそう重要性を増している。また、重点的な指導が、2～3年で結果を出していることから、計画的な指導の必要性が明らかである。目標を明らかにして、すべての学校で指導が適切に行われるような支援体制が求められていると考える。
	◆ 日本中の児童生徒の体力低下は、ずっと憂慮すべき事項であり続けている。その中で、すでにその対策に着手し、総合評価上位3ランクを占める割合が上昇していることは、すでにその効果が出ていることと評価できる。

基本目標Ⅲ

安心・安全で質の高い学校教育の推進

- 施策1 教職員の資質・能力の向上
- 施策2 学校経営の改善・充実
- 施策3 学校施設・設備の整備・充実
- 施策4 学校のICT化の推進
- 施策5 学校安全の推進
- 施策6 就学支援の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
2 指導方法改善事業	1,518	A	研修会実施数	44回	44回	46回	
			上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8
				中学校	50.3	50.3	50.5

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
研修会実施数		44回	44回	46回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.3	50.5	

◎教育委員会の施策評価

教職員の資質・能力向上のために、各種研修会や各学校の校内研修を積極的に進めることができた。児童生徒の学力向上を目指し、指導法の工夫改善を図るためにチームティーチングによるきめ細やかな指導を繰り返し行い、また、勤務時間外の教師力アップ講座と題した教科等の指導方法研修や少人数による授業実践、デジタル教科書の活用研修を行い、タブレット端末の積極的活用を推進するICT活用研修や生徒指導研修会、教育課程研究協議会、道徳教育研究会などの様々な専門研修の開催や、ニーズに応じた研修を実施することで、教員一人一人の指導力の向上とともに、学校の教育力の維持向上につながった。

上尾市の指導の重点・努力点を作成し、全教職員へ配布することで、市の教育方針を共通理解・共通実践することができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	52以上	52以上
	中学校	50.5	51以上	51以上

学識経験者の意見	◆ 「学力低下論」以来、教科学習の成果が強調されるようになり、先生方も教科学習の成績に神経質になっているように思われる。言うまでもなく、子どもたちは教室内の教科学習のみで成長するわけではない。児童生徒たちの健やかな成長のためには、先生方が精神的にもゆとりのある豊かな生活を送っていることが前提である。先生方の研鑽を奨励することも視野に入れた支援体制が望ましいと考える。
	◆ 世界一忙しい日本の教師、時間外においても「学びたい」意欲と行動力のある上尾市の教師たちに頭の下がる思いである。 一方、教師に求められる仕事は、益々多岐にわたり専門性も求められている。負担過重により、心身を壊さぬよう配慮を続けていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
2 指導方法改善事業	1,518	A	研修会実施数	44回	44回	46回	
			上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8
				中学校	50.3	50.3	50.5
3 魅力ある学校づくり事業	6,814	A	教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）	76.4%	77.4%	79.3%	
29 学校評議員制度運営事業	596	A	学校評議員会議開催回数	3.21回	3.30回	3.24回	
			学校評価に対する意見聴取回数	1.84回	2.30回	1.85回	
30 元気な学校をつくる地域連携推進事業	401	A	学校応援団員数	9,510人	6,918人	7,376人	
			学校応援団活動日数	8,892日	9,751日	9,938日	

◎施策の成果指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.3	50.5	
教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）		76.4%	77.4%	79.3%	週1～2回以上は1時間以上運動すると回答した児童生徒の割合
研修会実施数		44回	44回	46回	指導課主催の研修会総数
学校評価に対する意見聴取回数		1.84回	2.30回	1.85回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数
学校応援団活動日数		8,892日	9,751日	9,938日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の施策評価

学校・家庭・地域が一体となった教育活動が展開されるとともに、少人数指導、ICTの活用などの指導方法の工夫改善についての研究を各学校が取り組むことにより、質の高い教育活動を推進することができ、上尾市学力調査の市の平均値は、全国平均を上回った。

児童一人一人の学力向上のために、学力調査の結果等から児童の実態を把握し、各学校の課題に応じた学校課題研究を行っている。研究発表をすることで、研究の成果を市内全校に広め、市全体の教育力向上を図ることができた。

各学校において、行事や授業参観に学校評議員を招き、積極的に学校を公開することで、校長の学校経営について学校評議員の理解を深めることができた。また、学校評議員会を継続して開催することにより、各学校で学校評議員制度の活用が図られ、開かれた学校づくりの推進につながった。

全ての小・中学校で学校応援団が整備されており、安心安全、学習支援、環境整備、体験活動等の活動に応援団員が参加している。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、家庭や地域の教育力の向上につながっている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
上尾市学力調査の国語・算数 (数学)・英語の総合	小学校	51.8	52以上	52以上
	中学校	50.5	51以上	51以上
教育に関する3つの達成目標 体力(運動習慣)		79.3%	80.0%	80.0%
学校評議員会議開催回数		3.24回	3回以上	3回以上
学校応援団活動日数		9,938日	10,000日	10,000日

学識経験者の意見

- ◆ 公立学校は、地域に支持される学校であることが前提である。地域に開かれ、地域の理解を得るための努力が常に求められている。評議員制度の有効な活用法などについて、管理職への適切なアドバイスなどの支援体制も必要と考える。
- ◆ 非常に地域との連携が密になってきている。
地域の協力者も高齢になってきており、学校も慣れすぎず、お世話になっている感謝の気持ちを積極的に伝えていきたいものである。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
6 教科用図書等整備事業	13,872	A	道徳副読本整備状況	100%	100%	100%	
			体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	
			保健体育科準教科書整備 状況	100%	100%	100%	
			社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	
18 小中学校図書整備事業	28,155	A	増加冊数	小学校	12,399冊	10,745冊	11,390冊
				中学校	5,783冊	6,029冊	5,398冊
			廃棄冊数	小学校	4,023冊	625冊	1,926冊
				中学校	497冊	519冊	99冊
			年度末現有冊数	小学校	181,400冊	193,011冊	202,475冊
				中学校	106,119冊	111,629冊	116,928冊
			図書標準目標達 成率	小学校	83.7%	89.3%	93.4%
				中学校	74.3%	77.4%	81.4%
31 小中学校教育教材整備事業	31,978	A	小学校の児童1人当たりの支出額	1,678円	1,614円	1,570円	
			中学校の生徒1人当たりの支出額	2,724円	2,418円	2,046円	
			備品購入費（小学校）	26,591千円	19,758千円	19,012千円	
			備品購入費（中学校）	17,297千円	15,435千円	12,926千円	
32 小中学校校舎改築事業	829,322	A	富士見小学校校舎改築 工事出来高率（%）	—	—	—	
			中央小学校南校舎改築 工事出来高率（%）	20%	100%	—	
			上尾中学校校舎改築工事	基本設計 耐力度調査	実施設計	南校舎20% プール・ 格技場竣工	
			改築事業完了校累計数	1校／3校	2校／3校	2校／3校	

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明	
図書標準目標 達成率	小学校	83.7%	89.3%	93.4%	現有冊数／標準冊数×100
	中学校	74.3%	77.4%	81.4%	現有冊数／標準冊数×100
校舎耐震化率	小学校 94.4% 中学校 79.1% 平均88.3%	小学校 100.0% 中学校 93.7% 平均97.4%	小学校 100.0% 中学校 93.8% 平均97.5%	平成24年度まで対象棟数120棟 平成25年度から対象棟数119棟 平成26年度から対象棟数120棟	
改築事業完了校累計数	1校／3校	2校／3校	2校／3校	改築事業校（富士見小・中央小・上尾中）	

◎教育委員会の施策評価

学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす活動の場であり、災害時には地域住民の避難場所となるため、学校施設の安全性の確保は最優先課題でもあることから、積極的に耐震化を図ってきた。平成27年8月末には上尾中学校南校舎の改築工事が竣工し、平成28年3月末に屋内運動場が竣工すると、市内全小・中学校の耐震化が完了する。

また、トイレのリニューアル化も、上尾中学校改築事業が竣工すると市内小・中学校の全てで完了し、衛生面や快適な空間づくりに大きく寄与している。

学校図書においては「学校図書館図書整備標準」の達成を目標として、今年度も例年同様、着実に蔵書数を増やすことができた。今後は図書購入だけではなく書架購入や図書室スペースの確保などにも配慮し、積極的に図書整備を推進し、達成率100%を目指していく。

◎次年度以降の目標設定

目標指標		平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
図書標準目標達成率	小学校	93.4%	97.7%	100%
	中学校	81.4%	85.1%	88.8%
学校施設の耐震化率		97.5%	100.0%	—

学識経験者の意見

- ◆ 学校は災害時などの地域社会の避難所になっている場合も多く、耐震工事を優先的に実施してきたことは大いに評価されるべきである。今後、財政負担の許す範囲で、体育施設などの一層の充実が望まれる。
- ◆ 大震災以降、住民の災害に対する危機意識が格段に高まっている。どのような災害が起こるかはわからないが、耐震工事や改築の完了は大きな安心につながっている。社会全体の中でトイレも進化しており、学校のトイレの改築は子供たちの使用頻度からも喜ばしいことである。



富士見小学校図書室

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名		平成26年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標				
				評価指標	24年度	25年度	26年度	
2	指導方法改善事業	1,518	A	研修会実施数	44回	44回	46回	
				上尾市学力調査 の国語・算数（数 学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8
					中学校	50.3	50.3	50.5
33	小中学校コンピュータ 整備事業	145,610	A	教育用パソコン設置台数	1,453台	1,456台	1,454台	
				校務用パソコン設置台数	1,080台	1,096台	1,078台	
				教育用パソコンの目標達成値 （児童生徒3.6人に1台）	13.0人に1台	12.8人に1台	12.6人に1台	
34	小中学校電子黒板整備事業	2,634	S	大型テレビ設置台数（小学校）	487台	489台	518台	
				大型テレビ設置台数（中学校）	117台	137台	254台	
				電子黒板ユニット設置台数 （小学校）	223台	289台	289台	
				電子黒板ユニット設置台数 （中学校）	70台	92台	92台	
				大型テレビ設置率 （小学校）	98.2%	94.4%	100%	
				大型テレビ設置率 （中学校）	46.0%	53.9%	100%	

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
大型テレビ設置率（小学校）	98.2%	94.4%	100%	設置台数／設置目標台数
大型テレビ設置率（中学校）	46.0%	53.9%	100%	設置台数／設置目標台数

◎教育委員会の施策評価

教育用パソコンに関しては、小学校においては平成25年度にタブレットを導入したことにより、コンピュータ教室だけでなく普通教室に持ち込み、大型テレビとの有線接続によってデジタル化された授業が活発に展開されるようになった。

タブレット導入により必要性が高まった大型テレビに関しては、今年度、設置されていなかった小中学校の普通教室へ大型テレビを設置した。これにより、設置率が100%になり、小中学校全普通教室においてデジタル教科書、タブレット、大型テレビが使用可能となった。

さらに今後は、それらデジタル教材・ICT機器を最大限に活用できる無線LANの構築を目指すことにより、さらなる学校のICT化が推進され、子どもたちへの授業の形態も多様化され、質の高い学校教育の推進となる。

指導法改善においては、導入の進んだデジタル教科書のさらなる活用方法やタブレット端末の積極的活用を推進するためのICT活用研修会の実施、道徳教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の幅を広げることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
大型テレビ設置率(小学校)	100%	—	—
大型テレビ設置率(中学校)	100%	—	—

学識経験者の意見

- ◆ ネット環境に応じた学習指導法が広く普及しつつあることは評価できるが、同時に、子どもたちを目まぐるしく変化する社会の情報から、あえて遮断して、物事を深く考察させる学習活動の重要性も指摘されるようになってきている。学習活動の目的に応じて、メリハリを付けたICT利用法の研修が望まれる。
- ◆ 今、黒板とチョークの時代からICTの時代への大きな変わり目であることを実感している。学力を維持しつつこの変化を上手く乗り越えるのは、子どもよりも指導する教師の意識や技術の向上が大変であると思う。
ハード面をしっかりと整えていただき、これらを巧みに使いこなし、新しい教育を実践する教師の活躍を期待したい。



大型テレビを使用した授業

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
35 児童生徒安全推進事業	23,026	A	新規防犯ブザー貸与数	2,160人	2,210人	2,080人
			スポーツ振興センター災害共済加入負担金	17,650千円	17,448千円	17,310千円
			全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	—	100%	100%
36 学校安全パトロールカー事業	3,351	A	月あたりパトロール回数	15.6回	15.3回	16.1回
			登下校時の交通事故件数	13件	4件	13件
37 通学路安全対策事業	5,124	A	危険箇所改善要望箇所数	168箇所	164箇所	161箇所
			学校管理下での児童の交通事故件数	7件	1件	5件
			安全対策実施箇所数	—	14箇所	8箇所

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
登下校時の交通事故件数	13件	4件	13件	
学校管理下での児童の交通事故件数	7件	1件	5件	

◎教育委員会の施策評価

児童生徒が登下校時に交通事故や犯罪に巻き込まれないよう、各学校に配置されたスクールガードリーダーを中心として安全確保に努めている。PTAや学校応援団、各地域の防犯ボランティア、教職員などの多くの方々に登下校時の立哨活動や、学校安全パトロールカーの運行等において協力を得、児童生徒の安全を確保している。

また、警察等関係団体と情報交換、情報の共有化を図り、地域ぐるみで子ども達を見守る活動や体制づくりをしている。さらに、防犯ブザーの貸与等の不審者対策を進め、児童生徒にとって安心安全な学校教育を実施している。

緊急時の対応として、消防署の協力を得て、応急手当普及員資格を取得する講習会を開催している。この研修により資格を取得した教職員が中心となり、各学校で実施する心肺蘇生法研修を実施し、より多くの知識と技術を習得している。

通学路安全対策事業では、市PTA連合会からの通学路改善要望をもとに、改善箇所を抽出し、危険箇所の改善を進めている。平成26年度は8か所で危険箇所を改善した。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
登下校時の事故件数	13件	0件	0件
学校管理下での交通事故件数	5件	0件	0件

- 学識経験者の意見
- ◆ すべての教職員がAEDを使用できるように研修の機会を増やしていただきたい。
通学路の交通安全対策についても、学校の先生たちの情報を丁寧に整理することによって、より適切で効果的な対応が可能になると思われる。
また、事故対策で最近話題になっている組体操については、「感動を求めてリスクを高める」という学校教育においては許容されないはずの考え方が、一部の教員や保護者にあることが背景になっていると思われる。健全な学校教育にあり方を再確認する必要があるのかもしれない。
 - ◆ どこの地域でも熱心な活動をよく見かけるようになった。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標				
			評価指標	24年度	25年度	26年度	
5 日本語指導職員派遣事業	2, 883	A	派遣職員数	12人	13人	13人	
14 小中学校特別支援教育就学 奨励事業	5, 992	A	奨励費の申請 率	小学校	100%	99%	96%
				中学校	100%	98%	100%
38 入学準備金・奨学金貸付事業	5, 922	A	貸付件数	11人	17人	20人	
			高校進学率	98.2%	98.9%	98.7%	
39 小中学校就学援助費補助事業	52, 398	A	就学援助認定者数	1, 614人	1, 637人	1, 727人	
41 準要保護児童生徒給食費援助事業	83, 069		就学援助認定割合	8.6%	8.8%	9.4%	
40 要保護児童生徒医療費援助事業	516	B	医療券交付人数	54人	69人	71人	
			医療券使用人数	16人（1人）	31人（2人）	27人（一人）	
			医療券使用人数割合	29.6%	44.9%	38.0%	

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
日本語指導職員配置率（%）	82.6	100	100	要支援児童生徒数/申請数

◎教育委員会の施策評価

社会を取り巻く環境の変化に伴い、経済的に困窮する世帯や日本語の理解が十分できない外国人児童生徒等が増加している中、市町村は、経済的な格差のない義務教育の円滑な実施を行うことが求められているとともに、進学及び就学に対する経済的、人的な援助は効果的な取組と判断できる。全ての家庭が安心して、子どもが必要な教育を受けられるよう就学支援の充実に、引き続き努める必要がある。

なお、主に経済的支援の施策については、何をもって成果とするかを定めることが困難であるため、数値目標は設定しないこととする。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
日本語指導職員配置率（%）	100	100	100

学識経験者の意見	◆ 格差の拡大がよりいっそう深刻になっていることを教職員が十分に認識することが大切だと考える。同じ市内でも居住地によって経済格差が広がる傾向があることから、進学費用の捻出に困難を抱えている家庭が多いことが想定される地域の学校などに対して重点的に支援体制を整備することが必要かと考える。
	◆ 非正規雇用形態が定着し、一人親世帯の増加等子育て家庭の経済的環境は悪化している傾向が見受けられる。せめて子ども達には、心配せず学習に励んでほしいと願っており、上尾市の手厚い支援に感謝している。

基本目標Ⅳ

学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

施策2 家庭教育の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
30 元気な学校をつくる地域連携 推進事業	401	A	学校応援団員数	9,510人	6,918人	7,376人
			学校応援団活動日数	8,892日	9,751日	9,938日
42 幼稚園・保育所と小学校の連 携推進事業	393	A	幼・保・小合同研 修会回数	1回	1回	1回
			幼・保・小合同研 修会参加率	100%	100%	100%

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校応援団員数	9,510人	6,918人	7,376人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動日数	8,892日	9,751日	9,938日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の施策評価

市内全小・中学校に配置されている学校応援団コーディネーターを中心に、各校、計画的に学校・家庭・地域が連携した教育活動を行うことができた。活動内容は学習指導、安心安全、環境整備、体験活動、部活動、生徒指導、環境教育、学校ファーム等である。特に、学校・家庭・地域が連携したユニークな取組としては、学校応援団と連携して学校ファームに積極的に取り組み、作物の植え付け・収穫などを近隣の幼稚園や保育所と合同で行う等の取組をした学校が「全日本学校関係緑化コンクール 国土緑化推進機構理事長賞」を受賞した。また、学校応援団とおやじの会と協力して、週一回公民館で自主学習を中心とした学習の場を提供する「寺子屋」や、災害時の避難所生活に備え、体育館で泊をともなった訓練を行う「防災キャンプ」なども行われている。

平成26年度の学校応援団の活動にともなう保険を適用する事故や怪我はなく、学校応援団活動日数が昨年の9,751日から9,938日に増加し、学校の教育活動を活性化する推進力となった。

また、市内の私立も含めた幼稚園・保育所と小学校の連携も「上尾市 接続期プログラム集」を活用した合同研修会を行うなど、幼稚園・保育所と小学校の相互理解を深めるとともに、滑らかな接続へつながっている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
学校応援団活動日数	9,938日	10,000日	10,000日

学識経験者の意見	◆ 学校教育における接続は常に大きな問題であり、小・中間や中・高間と同様に幼稚園・保育園などと小学校の間の接続問題に関心もたれるようになってきていることはよい傾向である。ただし、接続はスムーズな移行が望ましいが、断絶という要素もあり、子どもたちの成長のうえで意味のあるものである。子どもたちにギャップを乗り越える力を育てるといった観点からの支援が望まれる。
	◆ 若い保護者たちの素晴らしい発想、アイデア、創意工夫、行動力には感動した。これからの発展を大いに期待する。「おやじの会」等お父さん達も子育てを楽しみながら、地域の仲間づくりをしている。ぜひ光を当てて評価し、伸ばしていきたい。
	◆ 「学校ファーム」「寺子屋」「防災キャンプ」など、さまざまな形での取り組みがなされている。学習の成果を生かし、地域を活性化し、学校支援につなげる活動の継続を期待したい。 学校応援団員の確保が懸念されるが、個々の活動をさらにアピールすることで広がる可能性はあると思う。 「幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業」は、子供の成長に合わせて、きめ細やかな相互の情報交換が可能になることから、今後の成果を期待したい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
43 家庭教育推進事業	490	A	家庭教育講演会開催数	1回	1回	1回
			市内幼稚園保護者会への 補助件数	5団体	4団体	4団体
			家庭教育に関する講座・ 講演会参加者数	1,552人	1,333人	1,263人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,552人	1,333人	1,263人	幼稚園保護者会で開催した家庭教育に関する講座及び市とPTA連合会の共催で行った家庭教育講演会の参加者数の合計

◎教育委員会の施策評価

全ての教育の出発点である家庭教育の向上を図るため、PTA・幼稚園保護者会などと連携をとりながら、市PTA連合会が定めている家庭教育行動指針の啓発や幼稚園保護者会が実施する家庭教育に関する講座の支援、市PTA連合会と共催での家庭教育講演会といった事業を実施し、子育て中の親に対して家庭教育に関する学習機会の提供を行うことができた。

また、埼玉県が作成した「親の学習プログラム」等の制度を各学校やPTA等が活用できるよう、情報提供に努めた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,263人	1,300人	1,300人

学 識 経 験 者 の 意 見	◆ 家庭の教育力を高めるためには、リーフレットなどによる啓発も必要であるが、児童虐待の事例などからは、孤立した家庭の問題が見えてくる。より多くの保護者が参加できる、さまざまな子育て問題の専門家などの協力を得た交流会の設定など、より積極的な施策の検討も考えられるだろう。
	◆ 家庭の教育力の低下が取りざたされて久しいが、こうした地道な積み重ねにより次の世代に伝達されていくことを願っている。 広い意味で、学校応援団やおやじの会等のコラボレーションも考えてみてはどうか。
	◆ 子育てに不安を抱えている親世代に向けた学習機会の提供を、今後積極的に検討していただきたい。

基本目標 V

生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実

施策2 生涯学習施設の整備

施策3 生涯学習機会の提供

施策4 人権教育の推進

施策5 図書館運営の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策 1 生涯学習体制の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
44 生涯学習指導者活動推進事業	335	A	まなびすと指導者バンク登録者数	96人	109人	110人
			市民講座（実施講座数）	51講座	37講座	42講座
			市民講座（参加者数）	617人	429人	500人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	96人	109人	110人	各年度末

◎教育委員会の施策評価

市民の生涯学習活動を支援するため、まなびすと指導者バンクやあげお市政出前講座を運営し、必要な指導者や講座情報の提供を行った。まなびすと指導者バンクについては、ガイドブックを配布することでPRを行い、ボランティア養成講座を実施して指導者のレベルアップを図った。

一方で、あげお市政出前講座は、依然として消防・救命分野に偏りがあるものの、全ての分野で利用が増加した。市民が学びたい内容に応じたメニューを用意し、様々な分野における学習の機会を提供することができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
まなびすと指導者バンク登録者数	110人	115人	115人

学
識
経
験
者
の
意
見

- ◆ 元気な高齢者が増え、学ぶ意欲はますます高まっている。まなびすとも需要と供給の関係、講座内容にもかわり、数字だけでは成果を図り切れないと思うが、発展を期待する。
- ◆ 学んだ成果を活かすための活動として「まなびすと指導者バンク」はとても重要な取組であると思う。
引き続き、指導者の質の向上と情報提供に努め、指導者の活動件数を増やしていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
45 学校施設開放（生涯学習）事業	1,985	A	利用団体登録	71団体	88団体	78団体
			利用件数	672件	759件	896件
			利用者数（延べ人数）	7,676人	7,677人	9,350人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
利用団体登録	71団体	88団体	78団体	利用に必要な団体登録をしている団体数
利用件数	672件	759件	896件	

◎教育委員会の施策評価

市民の継続した生涯学習活動を支援するため、活動の拠点を提供した。市内6館の公民館及び平方東小学校・芝川小学校・富士見小学校の特別教室の一部を市内の生涯学習団体に開放した。

市内6館の公民館は、全体として非常に高い頻度で利用され、生涯学習の活動拠点としての役割を十分に果たしている。学校施設開放事業も同様で、利用は増加傾向にあり、特に富士見小学校は年々増加している。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
利用団体登録数	78団体	80団体	80団体
利用件数	896件	900件	900件

学識経験者の意見	◆ 利用希望の増加を見込んだ、開放施設の拡大の検討が望ましい。
	◆ 各種の市民サークルの活動も活発で、活動会場を確保するのが大変な状況であるとよく聞くことがある。市民に活動の拠点を多数提供していただけることは大変ありがたい。
	◆ 生涯学習施設の、計画的な環境整備に引き続き取り組んでいただきたい。 学校施設開放事業は、施設利用というだけでなく、学校側・子供たちへの生涯学習意識の向上につながる機会ととらえ、学校と利用団体の交流につなげていければ、さらなる効果を期待できるだろう。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
44 生涯学習指導者活動推進事業	335	A	まなびすと指導者バンク登録者数	96人	109人	110人
			市民講座（実施講座数）	51講座	37講座	42講座
			市民講座（参加者数）	617人	429人	500人
46 成人式事業	1,133	A	成人式対象者	2,099人	2,247人	2,292人
			成人式参加者	1,533人	1,600人	1,785人
			参加率	73.03%	71.21%	77.88%
47 日本の伝統と文化の学習推進事業	152	A	講座回数	—	—	6回
48 大学等との連携による生涯学習推進事業	278	A	聖学院大学公開講座受講者数	243人	230人	262人
			子ども大学あげお・いな・おけがわ応募者数	94人	69人	166人
			あげお子ども大学応募者数	—	—	43人
49 公民館講座事業	3,360	A	講座数	130講座	136講座	135講座
			講座参加者数（延べ人数）	10,549人	11,427人	9,805人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
公民館講座参加者数（延べ人数）	10,549人	11,427人	9,805人	公民館まつりを除く。

◎教育委員会の施策評価

生涯学習機会の提供については、基幹的な事業として位置付けている公民館講座事業のほか、地域の大学と連携し、小学4年生から6年生を対象にした子ども大学や、まなびすと指導者バンク活動推進会議による学んだ成果を活かす市民講座を実施した。

また、新規事業として日本の文化と心をテーマに日本の伝統文化について学ぶ講座を実施し、日本の伝統文化について深く学ぶきっかけづくりを行うことができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
公民館講座参加者数（延べ人数）	9,805人	11,000人	11,000人

学識経験者の意見

- ◆ 市民の高齢化率も上昇していくことが予想されることもあり、あらゆる年齢層、男女が参加できる学習機会の提供が望まれる。
参加者による講座の評価に基づいて、常に提供内容の見直しが望まれる。
- ◆ 国際化の風潮の中で、日本人が日本の伝統文化を学ぶ機会が減少していることに危機感を抱いていた。すでに消えてしまったものも相当あるかもしれない。この機会を通して日本文化の素晴らしさを改めて学んでいきたい。
- ◆ 公民館や図書館を中心に、さまざまな世代に応じて、学習機会が提供されていると思う。さらに、世代を超えて交流が図れるような、ともに学ぶ機会の提供に積極的に努めていただきたい。



子ども大学あげお・いな・おけがわ

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
50 人権教育推進事業 （生涯学習課所管分）	1,074	A	人権標語作品応募点数	18,867点	19,203点	17,741点
51 人権教育集会所運営事業	1,586	A	人権教育集会所主催事業参加者数	614人	711人	557人
			人権教育集会所利用者数	26,774人	25,491人	24,977人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
人権教育集会所利用者数	26,774人	25,491人	24,977人	

◎教育委員会の施策評価

現在も、様々な形で人権問題が生じている中で、差別のない社会の実現と充実した人権教育を行うため、人権教育推進協議会及び人権教育集会所運営委員会で協議された内容をもとに、積極的な人権教育の推進を図っている。

身近な人権問題を考える契機としての、市民向け人権問題研修会や職員を対象とした人権問題研修会のほか、全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施するなど、人権意識の高揚を図る事業を実施することができた。

人権教育の拠点施設である人権教育集会所では、市民の人権意識の高揚や市民の交流、文化的教養の向上を目的とした33の主催事業を実施し、幅広い内容の事業を安定的に実施することができた。また、集会所利用者全員を対象として、「外国人の人権」をテーマに人権問題指導者研修会を実施し、人権課題の理解を深めることができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
人権教育集会所利用者数	24,977人	25,000人	25,000人

学識経験者の意見	◆ 社会に余裕がなくなり、大人の社会でもヘイトスピーチなど偏狭で不寛容な態度が広がりつつある。時事問題のなかにも教材は多くある。公民館の講座などでは時事問題を扱うことに躊躇する傾向があるが、差別問題の克服のためには市民同士の議論の場を設けることも効果があると考えられる。
	◆ 改めて、人権という切り口で社会を見ると今まで気づけなかった内容がたくさんあることに気づく。今までと同じ事業であっても切り口を変えてみると異なる展開があってもよいのではないだろうか。
	◆ 現代社会の中で、さまざまな形で差別が生じている状況を踏まえ、さまざまな角度から人権教育の大切さをアピールする必要がある。 学校・公民館事業・地域活動と連携しながら機会をとらえて、今後も継続的に啓発活動に取り組んでいただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
52 図書館資料整備事業	36,704	A	蔵書数（全9館）	556,926点	564,626点	569,759点
			蔵書密度（市民一人当たり）	2.55点	2.58点	2.49点
			図書館利用者数（全9館）	440,036人	417,909人	415,969人
			予約リクエスト件数（全9館）	208,466点	202,944点	209,632点
			貸出密度（市民一人当たり）	6.39点	5.90点	5.85点
53 子どもの読書活動支援センター運営事業	5,289	A	出張おはなし会	23回	39回	41回
			ボランティア養成講座	21回	28回	20回
54 ブックスタート事業	1,759	A	絵本配布回数（健康診査実施回数）	23回	24回	24回
			配布率	99.8%	99.8%	99.9%
			図書館利用者数（6歳以下）	2,351人	2,432人	2,724人
			児童書・紙芝居貸出点数	児童書	152,198点	149,001点
紙芝居	4,140点	4,572点		4,070点		
55 (仮)中央図書館整備事業	3,903	A	(仮)中央図書館建設	—	—	基本構想
56 セカンドブックスタート事業	7,914	A	読書サポート児童配付部数	—部	—部	12,264部

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
図書館利用者数（全9館）	440,036人	417,909人	415,969人	
蔵書数（全9館）	556,926点	564,626点	569,759点	雑誌・視聴覚資料除く。

◎教育委員会の施策評価

図書館における資料の整備・充実は、多様化・専門化する市民のニーズに応えるため、社会情勢や地域の実情に応じ、より広い視野で図書資料を収集し、迅速に提供ができるように努めた。特に、利用者に必要な情報や問題解決を図るレファレンスサービスを充実させ、きめ細かなサービスの提供を図っている。さらに県内ネットワークを有効活用し、相互貸借による資料の情報提供に努めている。また、子どもの読書活動支援センターでは小中学校、幼稚園に本を巡回させる「あっぴいぶっくるセット本」が順調に実施され、学校等から好評を得ている。昨年度に引き続き、読み聞かせボランティアの育成と技術力アップを目指して事業を展開した。

ブックスタート事業は、絵本の読み聞かせに加え、読書相談なども実施し、読書に親しむ環境づくりを推進した。セカンドブックスタート事業では、平成26年度新規事業として全小学生（12,264人）に図書館で作成した「読書パスポート」を配付した。図書館・学校・家庭・地域と子どもたちを取り巻くすべての環境で、自ら進んで読書に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に着けることを後押しした。300冊の読書記録を書き終えた児童も多くみられる。また、学校図書支援員の児童への関わりにも大きく役立っている。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
図書館利用者数	415,969人	440,000人	462,000人
蔵書数（全9館）	569,759点	601,000点	607,000点

- ◆ （仮）中央図書館の構想が検討される中で、市内の図書館サービスの全体的な在り方を再検討し、図書館サービスへのアクセスがより便利になるようなシステムの構築を検討していただきたい。
- ◆ 読書パスポートのような努力が目に見える取り組みは大変効果的である。ブックスタート事業に関しては大変良い環境づくりと思われるが、最近、その本が資源回収やバザーに出されているのを見ると残念な気持ちになる。
配布方法も検診に来られない方には、赤ちゃん訪問の主任児童員等と協力してみたらどうか。
- ◆ 図書館ネットワークや「支援センター」の活動、「読書パスポート」のような新たな取組により、楽しい読書が習慣化されるような取組が充実している。
読書離れが懸念される中・高生への取組について、工夫が必要だろう。
新設の図書館には、図書館に対する市民ニーズを十分把握したうえで、さまざまな情報発信の核となる図書館であるとともに、生涯学習の拠点となる施設となることを期待したい。



読書パスポート

基本目標Ⅵ

文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進

施策2 文化財の保護

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策 1 文化芸術活動の推進

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
57 文化芸術振興事業	2,065	A	文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体
			文化団体連合会構成員数	3,000人	3,000人	1,762人
58 美術展覧会事業	1,211	A	作品出品数	545点	561点	499点
			入場者数	2,360人	2,342人	2,430人
59 市民音楽祭事業	612	A	参加団体数	50団体	50団体	51団体
			入場者数	1,989人	1,557人	2,492人
60 音楽家芸術活動支援事業	372	A	クラシックコンサートの 来場者数	—	—	362人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
美術展覧会事業作品出品数	545点	561点	499点	美術展覧会への作品出品数
美術展覧会来場者数	2,360人	2,342人	2,430人	美術展覧会会場への入場者数

◎教育委員会の施策評価

市内で活動する各種の文化芸術団体が加盟する文化団体連合会は、会の運営は主にそれぞれの分野における代表団体が行き、自立性の高い取組がなされている。

美術の分野においては、上尾市ギャラリー等において、団体や個人の美術展が数多く開催されており、活動は堅調であるといえる。上尾市美術展覧会については、広く市民から作品を募集する公募展であり、優秀作品を顕彰するシステムは、市民の美術創作活動の活性化に大きく寄与している。

音楽の分野においては、参加した音楽グループにより実行委員会を組織している市民音楽祭が、3部門とも堅調な事業実施状況である。参加団体間の交流が活発であり、特に吹奏楽は、学生と社会人の団体交流がそれぞれの活動の活性化につながっている。

新たな芸術支援として、平成26年度は、上尾市在住の（又は上尾にゆかりのある）音楽家の芸術活動支援とともに、市民が気軽に芸術を鑑賞することができる機会を提供する目的で「あげおクラシックコンサート」を実施した。また、児童にクラシック音楽に触れる機会をつくり、心豊かな児童の育成を行うとともに、後進の育成を図ることを目的に、市立小学校でのアウトリーチコンサートも実施した。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
市民音楽祭参加団体数	51団体	51団体	51団体
クラシックコンサートの来場者数	362人	350人	350人

学識経験者の意見	◆ 音楽家芸術活動支援事業のような新しい試みは、今後とも開拓が期待される。音楽に限らず、絵画や彫刻などの分野で活躍が期待される若手の芸術家に発表機会を与えるという意味でも、よい効果が期待できる。公園の敷地を利用した屋外展示なども市民生活に潤いをもたらす良い企画となると考える。
	◆ 健康で、豊かな生活を送るために、各種の芸術活動は欠かせないものとなっている。引き続き様々な活動の支援を継続していただきたい。
	◆ 「美術展覧会」や「市民音楽祭」など市民レベルでの活動が定着している。小学校へのアウトリーチコンサートなどは、今後もぜひ機会を増やしていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
61 文化財調査・保存事業	4,522	A	市指定・登録文化財の数	117件	120件	122件
62 埋蔵文化財調査事業	4,825	A	—	—	—	—
63 文化財保護啓発事業	68	A	文化財保護啓発事業延べ日数	43日	25日	24日
			文化財保護事業参加延べ人数	3,533人	2,372人	1,360人
64 歴史資料調査事業	2,513	A	文書目録の発行	1冊(9,050点) 原市町役場文書 目録(上)	1冊(10,005点) 原市町役場文書 目録(下)	1冊(1,719点) 八枝神社文書 目録

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	117件	120件	122件	市指定・登録文化財の数

◎教育委員会の施策評価

文化財は、文化財保護法に基づき、その保存及び継承並びに活用を図る必要がある。このため文化財の調査・保存事業、埋蔵文化財調査事業、文化財保護啓発事業、歴史資料調査事業を行っている。

調査保存事業については、平成26年度は新たに1件の指定を行い、1件を登録から指定にし、新たに1件を登録した。また、県指定文化財である「平方祇園祭のどろいんきょ行事」映像記録事業についても実施することができた。埋蔵文化財調査事業については、周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘調査を適宜実施し、2件の発掘調査を実施した。普及啓発事業として、あげお歴史セミナー3回、文化財展2回を実施した。歴史資料調査事業については、保存活用のために必要な目録の発行やそのための整理が計画的に進んでいる。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
市指定・登録文化財の数	122件	124件	124件

学識経験者の意見	◆ 市の保存する文化財を積極的に市民に公開し、触れていただくことは、郷土愛を育む効果も期待できることから、さまざまなチャンネルを設定して公開の努力が望ましい。
	◆ なくなってしまったものは、取り返しが見つからない。時々の危機意識を持ち一層取り組んでいただきたい。
	◆ 市民の財産として文化財の保護・保存についての意識啓発が重要である。実際の文化財を見たり触れたりすることの効果は大きいことから、さらに、公開の機会を設けるなど、公民館や学校への出前講座など、こうした機会を増やしていただきたい。民俗行事の映像記録、歴史資料の目録作成なども継続していただきたい。

基本目標Ⅶ

健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

- 施策1 スポーツ振興計画の策定
- 施策2 スポーツ施設の整備・充実
- 施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実
- 施策4 スポーツ指導者の育成
- 施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策1 スポーツ推進計画の策定

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
スポーツ推進計画策定進捗状況	計画素案の検討	推進計画の完成	推進計画進捗管理	

◎教育委員会の施策評価

平成23年度8月にスポーツ振興法がスポーツ基本法に改正されたことを受け、上尾市では平成25年度にスポーツ推進計画を策定をした。平成26年度は、市民体育館のバスケットゴールの入替や平方野球場のトイレの増設などスポーツ施設の整備を行い、また「観るスポーツの機会」の提供として、上尾メディックス女子バレーボールの練習試合の企画・開催した。推進計画に掲げた取組については、スポーツ推進審議会で報告し、進捗管理を行った。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
スポーツ推進計画策定進捗状況	進捗管理	進捗管理	進捗管理

学識経験者の意見

- ◆ 上尾メディックス女子バレーボールチームを、是非皆で応援し、大きく育てていきたいものである。
- ◆ 計画初年度としての取組がなされている。計画に基づき、さらにスポーツ振興が図られることを期待したい。



ショットクロック付移動式バスケットゴール
(上尾市民体育館)

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額 （千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
65 学校施設開放（スポーツ振興）事業	4,951	A	学校開放登録団体数	536団体	551団体	553団体
			学校開放施設利用者数	417,161人	363,162人	371,174人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校開放施設利用者数	417,161人	363,162人	371,174人	学校開放月例利用報告書

◎教育委員会の施策評価

屋内スポーツ施設の拠点である市民体育館は、平成25年4月1日からリニューアルオープンしたが、体育館の大型スポーツ備品には耐用年数を超えて使用しているものもあり、計画的な更新・整備が必要である。平成26年度は、移動式バスケットゴール対の更新を行った。

市民の身近な地域のスポーツ拠点として、市内各小中学校の校庭及び体育館を開放し、多くの市民が利用している。

各小中学校利用者で学校開放運営委員会を組織し、開放施設の管理運営を行っている。毎年5月に開催している学校開放運営委員長会議や随時委員長・学校側と学校利用について連絡を取ることで、学校開放に関する苦情や利用者からの要望などに対応し、適切に学校施設開放を行うことができた。

さらに、学校開放施設の管理についても、利用者の意見を伺いながら随時修繕を行うことができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
学校開放施設利用者数	371,174人	380,000人	380,000人

学識経験者の意見

- ◆ 利用者は多いが、活動場所を見つけることが難しい状況にある。利用者にとって既存の施設を活用させていただけるのはありがたいことである。管理面についての双方の言い分はそれぞれあると思うが、十分な話し合いで折り合いをつけたい。
- ◆ アンケートを実施するなどニーズの把握に努めている。
ニーズに基づき、今後は、利用者が安全に安心して利用できるよう計画的な施設整備を進めていただきたい。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
66 スポーツ大会・教室等開催事業	18,975	A	大会の開催日数	4日	3日	4日
			上尾シティマラソン参加者数	9,374人	9,672人	9,179人
			体育協会加盟スポーツ団体人数	19,608人	18,170人	17,712人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
上尾シティマラソン参加者数	9,374人	9,672人	9,179人	

◎教育委員会の施策評価

スポーツ大会として、いきいきライフ大運動会、市民体育祭、シティマラソン、市民駅伝競走大会を企画し、実施した。各関係団体に協力を得て実施できたが、役員も高齢化してきている中で、今後の対応を検討していく必要がある。

講座や研修会は、指導者養成、高齢者の体力の維持及び増進、スポーツ・レクリエーションの充実を図ること等を目的として実施した。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
上尾シティマラソン参加者数	9,179人	10,000人	10,000人

学識経験者の意見	◆ 教育委員会の事業である各種スポーツ・イベントを他の部局と調整して、商店街の催し物や農産物の即売など、行事を盛り上げる工夫も考えられるのではないかと。
	◆ どの分野においても高齢化はついて回るものであり、次世代への移行も合わせて取り組みたい。
	◆ 上尾シティマラソンは、他の大会の招待、推薦等新たな展開を見せている。多くの市民がボランティアとして関わって大会を盛り上げており、スポーツを通じて地域を活性化している。参加者数の数字に表れている以上の成果を上げていると思う。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名	平成26年度 決算額 (千円)	事業 評価	評価指標			
			評価指標	24年度	25年度	26年度
67 スポーツ活動推進事業	4,855	A	スポーツ推進委員研修日数	9日	13日	15日
			スポーツ推進委員研修参加人数	149人	171人	149人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	9日	13日	15日	市、県、地区、関東、全国、自主研修
スポーツ推進委員研修参加人数	149人	171人	149人	

◎教育委員会の施策評価

スポーツ推進委員は、地域スポーツ推進の担い手であり、各々の資質向上を図るため、市のスポーツ推進連絡協議会の自主研修のほかに、国・関東・県等のスポーツ推進連絡協議会の主催する研修にも参加している。

また、市で実施する大会等事業では、競技役員会議等の責任者となっており、大会運営を進めていく上でなくてはならない存在である。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、今後もスポーツ推進委員の活躍が期待される。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
スポーツ推進委員研修日数	15日	15日	15日
スポーツ推進委員研修参加人数	149人	200人	200人

学識経験者の意見

- ◆ 各種スポーツにおいて適切なコーチングができる人材がまだ不足していると思われる。推進委員のいっそうの研修とともに、学生としてあるいは社会人として競技経験者が、市民スポーツの支援や指導をするうえで必要な知識や技能を体得するような研修機会の提供も考えられる。
- ◆ 地域におけるスポーツ推進委員の果たす役割は大きいと感じている。特に高齢者の健康維持のための活動など、今後の活躍に期待する。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

●主要事業の評価結果（各事業の評価結果詳細については、事務事業評価シートを参照）

事業名		平成26年度 決算額（千円）	事業 評価	評価指標			
				評価指標	24年度	25年度	26年度
66	スポーツ大会・教室等開催事業	18,975	A	大会の開催日数	4日	3日	4日
				上尾シティマラソン参加者数	9,374人	9,672人	9,179人
				体育協会加盟スポーツ団体人数	19,608人	18,170人	17,712人
68	子どもの体力向上地域連携事業	478	A	小学生ドッジボール大会参加児童数（5・6年生）	—	898人	1,230人
				中学生バレーボール教室参加生徒数	—	146人	149人
				上尾市なわとび大会参加児童生徒数（延べ人数）	—	2,041人	1,919人
				ランニング教室参加人数	—	約200人	約200人
				げんきチャレンジ参加児童数	—	—	20人

◎施策の成果指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
体育協会加盟スポーツ団体人数	19,608人	18,170人	17,712人	

◎教育委員会の施策評価

市と上尾市体育協会共催の事業の中で、上尾市民体育祭や上尾シティマラソンでは多くの競技役員を選出していただきスムーズな運営が図られた。

また、上尾市体育協会では生涯スポーツの普及や振興を図るため、スポーツ講演会やいきいき推進事業、レクリエーション大会を企画し、実施している。

各体育協会加盟団体では、役員の成り手が課題となっているが、今後上尾市で全国規模の大会等が実施予定であることから、市及び体育協会との協力関係がより大きくなっていく。

さらに、子どもの体力向上連携事業では、例年実施しているドッジボール大会、バレーボール教室、なわとび大会の他に小学校低学年とその保護者を対象としたウォークラリーを開催し、子ども達の運動や身体を動かす機会の提供ができた。

◎次年度以降の目標設定

目標指標	平成26年度実績	平成27年度目標	平成28年度目標
体育協会加盟スポーツ団体人数	17,712人	19,000人	19,000人

学
識
経
験
者
の
意
見

- ◆ 大会の開催以外にも、楽しく参加できるという点で、参加人数は少なかったが「げんきチャレンジ」のようなスタイルの事業もさらに検討されたい。



上尾シティマラソン

V 評価結果（事務事業評価）



市民音楽祭合唱祭

基本目標 I

確かな学力と自立する力の育成

- 施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施
- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 事業番号 1 | さわやかスクールサポート事業(学級支援)【 I-4】 |
| 事業番号 2 | 指導方法改善事業【 II-1, III-1, III-2, III-4】 |
| 事業番号 3 | 魅力ある学校づくり事業【 II-7, III-2】 |
| 事業番号 4 | 学力向上支援事業 |
- 施策2 時代の変化に対応した教育の推進
- | | |
|--------|--------------------------|
| 事業番号 5 | 日本語指導職員派遣事業【 III-6】 |
| 事業番号 6 | 教科用図書等整備事業【 II-1, III-3】 |
| 事業番号 7 | 中学生海外派遣研修事業 |
| 事業番号 8 | 小中学校ALT配置事業 |
- 施策3 進路指導・キャリア教育の充実
- | | |
|---------|----------------|
| 事業番号 9 | 中学生社会体験チャレンジ事業 |
| 事業番号 10 | 中学生進路意識啓発事業 |
- 施策4 特別支援教育の推進
- | | |
|------------|--------------------------|
| 事業番号 11 | 特別支援学級補助員派遣事業 |
| 事業番号 12 | 特別支援教育推進事業 |
| 事業番号 1(再掲) | さわやかスクールサポート事業(学級支援) |
| 事業番号 13 | 小学校特別支援学級設置事業(施設整備) |
| 事業番号 14 | 小中学校特別支援教育就学奨励事業【 III-6】 |
- 施策5 幼児教育の推進
- | | |
|-------------|--------------------|
| 事業番号 42(再掲) | 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業 |
|-------------|--------------------|

事業番号 1	さわやかスクールサポート事業（学級支援）	担当	学務課
--------	----------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成	
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒への生活指導・自立支援及び介助を行うことで、学校・学級の円滑な運営、事故防止を図るとともに、学級集団の少人数化により、きめ細やかな個に応じた指導を充実させ、中1ギャップの解消及び基礎学力の向上を図る。
事業の対象 対象数	（アッピースマイルサポーター） 通常学級に特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する小・中学校、全33校と平方幼稚園の1園 （アッピースマイル教員） 第1学年の1学級あたりの生徒数が35人を超える中学校、第1学年生徒
事業の内容	障害のある児童及び生徒が在籍する通常学級に対し、生徒指導の充実と健全な学級運営を図るため、学級担任等の教員の補助を行うアッピースマイルサポーターを配置する。また、少人数学級（35人）を編制し、きめ細やかな指導を行い、中1ギャップの解消等を図るため、アッピースマイル教員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	84,227千円	88,044千円	100,042千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
アッピースマイルサポーター数	70人	74人	75人	通常学級で教員を補助し特別の支援を行う支援員数
アッピースマイル教員数	7人	7人	9人	少人数学級（35人学級）実施の為、中学校に配置する市費臨時教員数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>アッピースマイルサポーターを配置することにより、通常学級に在籍して学ぶ、特別な支援を必要とする児童生徒の成長を促すことができた。同時に学級の円滑な運営にも資することができた。このことは、ノーマライゼーションの理念の実現やインクルーシブ教育の推進にもつながっているものと評価できる。</p> <p>アッピースマイル教員の採用・配置については、中学校1年生で少人数学級の編制を行うことで、小学校から中学校への滑らかな接続を図り、中1ギャップの解消にも効果を奏している。具体的には、一人一人の生徒に教員が接する機会が多くなり、より一層、きめ細やかな評価が可能となり、指導に生かしている。また、一人一人が発表したり、表現したりする機会が充実し、生徒の学習意欲の向上につながっている。</p>
	<p>アッピースマイルサポーターの配置は、75名を配置し安定した事業を推進することができた。また、質の高いアッピースマイル教員を採用していくために、大学を訪問し募集要項を配布するなど広報活動を実施し、学校の要望に即した教員配置が可能となっている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定 A	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	アッピースマイルサポーター数	75人	75人	95人
	アッピースマイル教員数	9人	4人	8人

事業番号 2	指導方法改善事業	担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策1 豊かな心の育成	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進		
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上	施策2 学校経営の改善・充実	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な図書・資料の作成・配布、研修会の開催等を行う。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・教員及び管理職 各種研修会等参加者
事業の内容	学力向上プランの作成、上尾市の教育「指導の重点・努力点」の印刷製本（全教職員への配布）、研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	31,359 千円	10,562 千円	1,518 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
研修会実施数	44回	44回	46回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.3	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>教育基本法、学校教育法、学習指導要領等法令に基づいて適正な教育課程を編成し、実施するとともに、学力向上及び教育活動の充実を図るため教員としての資質そのものや指導力の向上を図ることは大変重要である。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、少人数による授業実践やチームティーチングによるきめ細やかな指導を繰り返し行ってきた。デジタル教科書の活用実践事例などを学ぶICT活用研修会の実施、道徳教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の向上を図ることができた。また、各学校において作成された学力向上プランの積極的な活用を推進することで、児童生徒の実態に応じた学力向上策が各学校で実施された。さらに、上尾市の指導の重点・努力点を作成し全教員へ配布することにより、効率的に市の教育方針を周知徹底し、指導方法の工夫改善、授業の充実を図ることにつながった。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>教師一人一人の、授業の質の向上、指導方法の工夫改善を図ることができる実践的な研修会を実施した。さらに、ハード面・ソフト面の両方の視点から子供たちを取り巻く教育環境の整備を一層の充実を図る必要がある。</p> <p>教職員を対象とする研修会については、教職員が自主的に研修できる機会として教師力アップ講座（夜間）を開催した。教師力アップ講座では、教職員のニーズに合わせた研修会を開催することにより、多くの教員が自主的に参加し、教職員の資質・指導力の向上を図る機会となった。</p> <p>今年度も、指導の充実を図るための研修会を開催し、また、教師力を向上させるためのブラッシュアップ、スキルアップ研修を実施することができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	52以上
		中学校	50.5	51以上

事業番号 3	魅力ある学校づくり事業	担当	指導課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策7 児童生徒の体力向上	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	各学校が教育課題を定め研究をとおし、教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校を築く。
事業の対象 対象数	上尾市立幼稚園・小・中学校
事業の内容	市立幼稚園及び小・中学校において教育課題の研究を推進する。各学校に対して、3年ごとのサイクルで【①研究準備→②研究1年目→③研究2年目<研究発表>】、2年間の計画的な研究を委嘱している。各学校では創意工夫を生かした教育活動を展開することにより、魅力ある学校づくりを行う。また、上尾市教育研究会に対して、全体研修会や各部会の研究の補助金を交付し、教職員の資質の向上を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	6,814 千円	6,814 千円	6,814 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数（数学） 英語の総合	51.8	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
小学校	50.3	50.3	50.5	
中学校	76.4%	77.4%	79.3%	週1～2回以上は1時間以上運動すると回答した児童生徒の割合
教育に関する3つの達成目標 体力（運動習慣）				

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校は児童生徒の実態を把握し、児童生徒の学力向上を図るための実践を重ねることをとおして、信頼される学校づくりに努めることができた。市の教育水準を高めるため、指導方法の工夫改善などの研究に取り組むことで、年々教職員の指導力の向上を図ることができている。さらに、市からの交付金を計画的に使用することにより、資料・教材教具を充実させ、研究を深めることができています。また、各学校では、2年間の研究のまとめとして研究発表を行い、研究授業について分科会を開催し、話し合いを深めることで、教員の指導力向上につなげることができた。市内全校に研究成果を広め、知識や情報を共有することで市全体の教育力の向上を図ることができた。市内教職員が組織し、主体的に研修・研究に取り組んでいる上尾市教育研究会へ補助することで、指導力の向上を図ることができた。今年度は、12校が研究発表を行い、うち1校は文部科学省の委嘱発表を行い、研究内容を市内外に広く広めることができた。
今年度の特色・改善点等	研究協議会において、小・中学校の教員が分科会等で、積極的な意見交換を行うことで小・中学校の連携が推進できている。研究を進めるにあたり、県や埼玉大学付属小・中学校等の学校外部から指導者を招き、研修を行った学校が増えた。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	—	—	—	—

事業番号 4	学力向上支援事業	担当	指導課
--------	----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学力調査結果の分析を多面的に行い、学力向上策を立案して、学習指導に取り組むことにより、児童生徒一人一人の学力を向上させる。
事業の対象 対象数	上尾市立小学校 第3学年・第4学年・第5学年・第6学年 全児童 上尾市立中学校 第1学年・第2学年・第3学年 全生徒
事業の内容	市立小・中学校の児童生徒一人一人に「確かな学力」を育成するため、標準学力検査用紙を用いて基礎的な学力の実態を把握し、学校の教育課程の編成や学習指導方法の工夫・改善に役立てる。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	7,139 千円	7,502 千円	7,673 千円

●評価指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.3	50.5	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>児童生徒に確かな学力を身につけさせるためには、児童生徒一人一人の学習状況を客観的に把握するとともに、一人一人の学習状況の経年の変化を適切に把握する必要がある。上尾市立小・中学校学力調査は、その実態を明らかにするための指針の一つである。</p> <p>学力調査の結果から、領域別・観点別の結果の一部に課題が見られるものの、全体的には昨年度に引き続き、全国標準値を上回っている。また、標準得点値でみると、33校中24校で全国標準を上回ることができた。これは、教員一人一人が日々の授業の充実を図り、着実に取り組んできたこと、各学校が作成し実践している「学力向上プラン」による取組が充実してきたこと、委嘱研究や自主研究を計画的に行うこと、各種研修会や教師力アップ講座を行うことで教員の資質が向上したことなどが要因であると考えられる。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>各学校では、自校の学力調査結果から成果と課題を明確化、共有化して「学力向上プラン」を改善・充実させるとともに、一人一人の児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の具体的な手立てを計画して取り組んだ。特に、1時間ごとの授業の充実に向けて、「学力向上プラン」の内容を着実に実施した。また、授業研究会・研究協議会等において、その授業実践における具体的な手立ての効果を検証し、改善を図った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標		平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	上尾市学力調査の 国語・算数（数学）・英語の総合	小学校	51.8	52以上	52以上
		中学校	50.5	51以上	51以上

事業番号 5	日本語指導職員派遣事業	担当	学務課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	日本語が理解できない児童生徒に、日本語や日本文化習得の支援を行い、授業をはじめとする学校生活に意欲をもって参加できるようにする。
事業の対象 対象数	計29人 (内訳 タガログ語：14人、中国語：12人、スペイン語：2人、英語：1人)
事業の内容	日本語が理解できない児童生徒に対して、日本語習得の援助及び指導を行うため、在籍する小・中学校に日本語指導職員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	2,253 千円	2,512 千円	2,883 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
派遣職員数	12人	13人	13人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	国際化の進展をはじめ、社会の様々な状況の変化に伴い、日本語の理解が十分でない外国人児童生徒などが増加している中、日本語指導職員の配置は、こうした子供たちのスムーズな就学を図る上で効果的な取組となっている。特に、問題等を解く場合、文意の読みとりの補助となり効果を発揮しており、確かな学力と自立する力を育成するために、時代の変化に対応した教育支援となっている。
今年度の特徴・改善点等	今年度は、中国語、英語、スペイン語及びタガログ語などでコミュニケーションを図ることのできる日本語指導職員を13名雇用し対応した。さまざまな言語に対し支援できるよう人材の確保が必要であることから、関係課とも連携を図っている。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	指導員派遣率 派遣数/申請数×100 (%)	100%	100%	100%

事業番号 6	教科用図書等整備事業	担当	指導課
--------	------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	体育科・社会科・道徳の授業において、準教科書及び副読本を用い、効果的に活用して児童生徒の基礎基本の定着、豊かな心の醸成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	小・中学校の体育科、保健体育科の準教科書、社会科・道徳の副読本の無償給与と市独自の「社会科副読本」の作成・配布を行い、授業内容の一層の充実を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	13,185 千円	13,846 千円	13,872 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
道徳副読本整備状況	100%	100%	100%	整備率
体育科準教科書整備状況	67%	67%	67%	整備率
保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%	整備率
社会科副読本整備状況	100%	100%	100%	整備率

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>道徳及び体育科・保健体育科では教科用図書が発行されていないため、道徳の授業及び体育科、保健体育科の授業を充実するために、副読本及び準教科書を各校へ整備することができた。</p> <p>道徳の副読本については、学習指導要領に準拠した内容であり、学校における指導計画は、副読本の内容を中心に計画することができた。</p> <p>体育科の準教科書については、体の動きを視覚的にとらえる資料として有効であり、技能習得のためのポイントが記載されており、それを参考に技能を高める授業展開ができた。</p> <p>社会科副読本「のびゆく上尾」は、小学校3年生に配布し、上尾市の実態を踏まえた地域学習を効果的に展開できるよう上尾市教育委員会で作成することができた。さらに小学校4年生では、「郷土さいたま」を配布し、埼玉県の特徴について学ぶ、郷土学習を行うことができた。</p> <p>道徳副読本及び、体育科準教科書を小・中学校で統一したことにより、教材研究、研究内容の共有化を図ることができ、児童生徒の学びの平等化が図られた。また、小・中学校が同系統の教材を使用することで、学びの連続性が図られ、小・中学校の連携を図ることができた。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>教科用図書のない道徳や体育・保健体育、特別な資料が必要な社会科においては、学校・教員による指導内容の偏りを防ぎ、児童生徒全員が同じ内容の教育を受けることにより、本市の教育水準を高めることができる。道徳副読本、体育準教科書については、学校備品として、複数年使用できるようにしている。昨年度に引き続き、社会科副読本「のびゆく上尾」のデジタル教材を作成し、ICTの推進を図ることができているので、より充実した内容にするために今後も協議していく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	道徳副読本整備状況	100%	100%	100%
	体育科準教科書整備状況	67%	80%	100%
	保健体育科準教科書整備状況	100%	100%	100%
	社会科副読本整備状況	100%	100%	100%

A

事業番号 7	中学生海外派遣研修事業	担当	指導課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	コミュニケーション能力、英語力、表現力をはじめ、将来、国際社会で貢献できる人材として必要な資質・能力及び態度を有した生徒を育成する。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校第3学年生徒 22人
事業の内容	中学生に豊かな国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材として必要な能力や態度を育成する教育活動の一環として、市立中学校に在籍する生徒を対象に、8日間のホームステイや授業体験、スポーツ交流、文化交流等の英語研修等のプログラムを特色とした11日間の海外派遣研修を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	9,810 千円	9,553 千円	10,119 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
応募生徒数	44人	54人	76人	海外派遣研修応募生徒数
派遣生徒数	22人	22人	22人	海外派遣研修派遣生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>グローバル化著しい現代社会において、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質と能力を育成することは重要である。国際社会の中で、日本人としてのアイデンティティをもち、異文化を理解した上で、自分の意見を適切に主張することができる人材の育成を目指す。22名の中学生が一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修や文化・スポーツ交流等の研修に参加した。現地における全研修日程を計画どおり無事に終え、帰国報告会での発表等、この研修をとおして、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。実際に英語を使用しながら生活することは、教室での英語学習では学ぶことができない貴重な体験学習であり、日本と異なる生活習慣や文化の中で暮らすホストファミリーとの生活をとおして、今まで気づくことのなかった自国の文化・伝統の「よさ」を実感することにもつながった。今回の研修で得た体験を基に、将来「国際社会」を見据えた広い視野を持った人材の育成につながるものである。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>本事業が発端として始まった上尾市と派遣先であるロッキンバレー市が「友好都市協定」を締結し、その式典に参加することができた。派遣生は緊張していたが、大変貴重な体験をすることができた。</p> <p>本研修プログラムの中で、近隣小学校での仲間同士の信頼関係構築や体力向上のための設備であるハイロープ体験活動において、派遣生の参加の意思をあらかじめ確認して臨ませた。緊張もあったが、全員が体験し、充実した活動となった。</p> <p>派遣生は、各学校において全校生徒に報告を行う場を設けてもらい、各自が報告会を行った。派遣生自身の成長を伝え、また、1・2年生たちに本研修のよさを伝えることができた。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	—	—	—	—

事業番号 8	小中学校ALT配置事業	担当	指導課
--------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	小学校では「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」をとおして外国語に慣れ親しみ、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、中学校では、ALT（外国語指導助手）とのTT（ティームティーチング）により、コミュニケーション能力の育成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	児童生徒が、国際社会において、外国の方と積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力や英語力、態度を身に付けるための体験的学習や国際理解教育を推進するために、ALTを小・中学校に配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	100,698千円	88,262千円	73,789千円

●評価指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
ALT配置人数		27人	27人	27人	小・中学校ALT配置人数
ALT 活用時数	小学校	31.5時間	32.2時間	21.9時間	小・中学校の1学級あたりのALT活用時数（外国語活動、英語授業、その他国際理解教育等）
	中学校	37.6時間	37.8時間	30.6時間	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>グローバル化が急進する現代社会において、主体的に対応できる児童生徒を育成することは、人材育成の面からも重要である。中学校では、主にALTと日常的に触れ合い、「生きた英語」を学ぶことができる環境を整える中で、英語学習の動機づけを図り、積極的に英語の基本的な表現を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが必要である。小学校では、平成23年度から小学校5・6年生で週1時間外国語活動を行い、英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度やその素地を高める言語活動の充実が図られている。本市では、すでに平成21年度から先行実施し、全小学校5・6年生で外国語活動を年間35時間ずつ実施している。教科指導以外でも、日常的な触れ合い、給食、清掃等を通しての関わりや、また中学校ではスピーチコンテストの指導等においても成果を上げている。教員対象の研修においても指導力向上のために指導・助言している。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>5月から1月までの計画的な配置としたが、ALTの配置が遅れた学校があった。学校アンケートでALTに対する評価6点満点中4.56であったが、評価の高いALTと低いALTとの差が多少あった。昨年度より授業日数増加による夏季休業が短縮されたことから、夏季休業中の配置日数を最大5日から3日となっているが、多くの学校でALTの配置希望があった。また、中学校教員の小学校への出前授業（外国語活動）や小学校教員による中学校への授業参観など、小・中学校の外国語担当教員の連携による小・中学校の連続した外国語教育や小学校教員の外国語活動指導力の向上についてもALTとの連携により、充実することができた。今後は、さらなる外国語教育の充実を図るため全小学校への完全配置や大規模中学校への複数配置を目指す。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	ALT配置人数	27人	33人	35人

事業番号 9	中学生社会体験チャレンジ事業	担当	指導課
--------	----------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	生徒の勤労観や職業観を育成し、社会性や自立心、表現力、礼儀作法、コミュニケーション能力などを養う。また、教職員と事業所担当者等との打合せ、教職員やPTAによる各事業所等への巡回、校長による各事業所等への挨拶などをとおして、学校、保護者及び地域との連携を深める。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 第2学年 生徒
事業の内容	市内中学校生徒が市内等の事業所等において2日間の社会体験活動を行い、勤労観や職業観を育成し、進路指導・キャリア教育を推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	593 千円	631 千円	621 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
職場体験事業所数	221	244	242	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できたと回答した生徒	39.1%	42.8%	48.8%	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	現代は都市化や少子化が進み、物質的に豊かで便利な生活となり子どもたちの生活スタイルや意識も大きく変わってきている。これまでの子供たちには見られなかった柔軟な感性や遊び心、ボランティア活動等への高い参加意欲は見られるものの、社会性の不足、規範意識の低下、人間関係の希薄化などが指摘されている。本事業は、こうした課題の解決に向けて、大きな役割を担うものであり、自分の将来に夢や希望を抱き、その実現をめざし、基礎的な知識や、望ましい勤労観、職業観の育成はすべての子どもたちに必要なものである。異世代間も含めたコミュニケーション能力を養うこと、仕事に関する知識や技術を学ぶこと、社会的なルールやマナーを体得できること、地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持つことなど、大きな意義がある。参加生徒の感想からは、「働くことの大切さがわかった」「将来を真剣に考えるようになった」「あいさつの大切さがわかった」等の感想があり、望ましい勤労観がはぐくまれている。
今年度の特徴・改善点等	今年度は1校のみ2学年実施への移行のため福祉体験を行ったが、10校が第2学年で職場体験を行った。生徒の発達段階の問題や事業所からの要望等あり、平成28年度から全中学校第2学年で実施していく。また、今年度は、個人情報漏洩防止や器物破損等の事故が起きた場合に備えて参加生徒全員が「職場体験申込書」を提出した。学校にとって事業所の確保が課題ではあるが、大型ショッピングセンターの出店や新規事業所の申し込み等あり、拡大している。体験日数については、今後もアンケートやチャレンジ事業推進委員会において、さらに協議・検討していく。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	「進路意識向上」できたと回答した生徒	48.8%	50%	50%

事業番号 10	中学生進路意識啓発事業	担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成		
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	自分を振り返り、自らの生き方や進路について考えることができ、目標を立て その達成のために努力できる生徒を育成する。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	進路指導・キャリア教育の観点から、地域で活躍する様々な分野の人を招いて講演会を開き、生徒の将来の夢や希望を育むとともに進路意識の啓発・高揚を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	116 千円	110 千円	110 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
講演会開催回数	12回	11回	11回	開催回数
講演会参加生徒数	6,845人	6,169人	6,177人	延べ参加生徒人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>現代社会において、青少年の意欲や責任感の低下、コミュニケーション能力の低下等が懸念され、社会的自立の遅れや社会に適応できない若者の増加が大きな社会問題となっており、児童・生徒の「職業観・勤労観」を育成することが求められている。このような進路指導・キャリア教育を充実させる施策として、進路指導を「人間としての生き方に関する指導」という観点で捉え、地域で活躍する方や地域ゆかりの方を学校に招き、講演会をとおして、生徒・保護者の意識を啓発し、進路指導・キャリア教育の推進を図ることは、有益であり効果も高い。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度、すべての中学校で各1回ずつ実施された。地域で活躍する方々に加え、卒業生やOBの中から活躍されている方に講師を依頼する学校が増え、進路指導の積み重ねがより充実してきている。生徒も高い興味・関心を持って参加し、生徒が自らの進路や生き方について考える有意義な機会となっている。また、全中学校で一部の学年のみを対象にするのではなく、全学年生徒が講演会に参加した。また、生徒と保護者が一緒に講演を聞く機会にするなど、学校と家庭が一体となり、進路意識の啓発を図る学校が増加している。本事業は、生き方を学ぶ中学校の進路指導・キャリア教育を推進するために必要な事業である。</p> <p>昨年度から、他校との合同での開催も可能となり、講師選択の幅も広がっているが、今年度は複数開催と併せ、実施した学校はなかった。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	講演会開催回数	11回	13回	15回

事業番号 11	特別支援学級補助員派遣事業	担当	学務課
---------	---------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じる教育の充実を図る。
事業の対象 対象数	特別支援学級配置校 小学校9校20学級 児童86人、中学校5校15学級 生徒76人
事業の内容	特別支援学級において、担任教員の行う指導の補助に当たるため、特別支援学級補助員を特別支援学級が置かれる市内小・中学校に配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	15,698 千円	16,305 千円	16,269 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
補助員配置数	9人	9人	9人	
補助員配置率	75%	69%	64%	補助員配置校数/特別支援学級配置校数
補助員対象研修回数	9回	9回	9回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	特別支援学級の支援体制を整え、一人一人のニーズに応じた教育支援を行うにあたっては、補助員の存在は大きく、安全で安定した学習環境の維持が可能となっている。
今年度の特色・改善点等	特別支援学級補助員の資質の向上を図るため、教育センターとの連携を図り、年間9回の研修会を実施している。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	補助員配置率	64%	62%	100%

事業番号 12	特別支援教育推進事業	担当	指導課
---------	------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	特別支援教育研修会では、特別支援教育担当者が研修を深め、各小・中学校で適切な指導、必要な支援、授業改善が図られるようにする。特別支援学級設置校と特別支援学校の交流を兼ねた合同作品展は、障害のある児童生徒の創作意欲を喚起するとともに、市民にとっても、障害のある児童生徒を理解するよい機会とする。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校の特別支援教育担当者及び市民
事業の内容	特別支援教育担当者を対象とした各種研修会の実施及び市民啓発、特別支援学級設置校と特別支援学校の交流の目的を兼ねて合同作品展を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	236 千円	213 千円	223 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
特別支援教育研修会回数	5 回	5 回	8 回	特別支援教育に係る研修会実施回数
特別支援教育研修会参加率	100 %	100 %	100 %	研修会参加校数/33校×100
合同作品展入場者数	500 人	500 人	500 人	障害のある児童生徒の理解

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>特別支援教育の推進を図るためには、すべての学校・学級において特別支援教育の視点に立った適切な支援が行えるよう指導していく必要がある。そのためにも教員の指導力・資質の向上、理解の促進は欠かせない。今年度も、上尾市特別支援教育基本計画に沿って、県立特別支援学校のセンター的機能の活用を積極的に推進してきた。各学校においては、県立特別支援学校コーディネーターによる巡回相談を行った。通常の学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援の方法について理解を深めることができた。また、各研修会においては、県立特別支援学校コーディネーターを指導者に招き、既存の研修会に加え、今年度は、担当者育成のための特別支援教育推進研修会を行った。担当教員らが専門的な知識・技能を習得するための講義・研究協議に加え、実践的な授業研究会や支援学級での実習を伴う質の高い研修会を行うことができた。</p> <p>併せて、上尾市コミュニティセンターにおいて、特別支援学級の児童生徒による合同作品展を開催した。障害のある児童生徒の活躍の場を確保することができた。市民に対しても障害のある児童生徒の理解を促進する機会として有意義な行事であった。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度は中学校1校に特別支援学級を新たに開設した。来年度は小学校7校に開設される。特別支援学級を担当する教員の育成が急務である。特別支援教育に対する一層の理解促進を図り、教員の指導力向上を目的とした研修会の実施や校内研修会等の積極的な活用を行った。また、特別支援学級と特別支援学校との連携を深めるため、各小中学校における県立特別支援学校コーディネーターによる巡回相談を積極的に推進し、校内支援体制の整備・充実を図るものである。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	特別支援教育研修会回数	8 回	9 回	9 回
	特別支援教育研修会参加率	100 %	100 %	100 %

事業番号 13	小学校特別支援学級設置事業（施設整備）	担当	学務課
---------	---------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市全体及び各学校における特別支援教育体制を整備し、特別支援学級・通級指導教室の新たな設置を行い、市内特別支援教育の一層の充実を図る。
事業の対象 対象数	特別支援学級未設置校 13校 平成26年度整備（平成27年度新設）7校 平成27年度整備予定（平成28年度新設）6校
事業の内容	すべての児童が居住区にある小学校の特別支援学級に通学することができるように、全小学校に特別支援学級を設置する。平成27年度の設置に向け、計7校の整備を行う。 平成26年度整備 大谷小、大石小、富士見小、鴨川小、東町小、瓦葺小、芝川小の7校 （知的障害学級及び自閉症・情緒障害学級2教室）

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	35,237 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
小学校設置校数	9 / 22	9 / 22	9 / 22	特別支援学級設置校 / 全小学校数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	特別支援教育へのニーズの多様化及び増加に伴い、それぞれの障害種別や児童生徒一人一人のニーズに応じた指導が一層充実できるよう、特別支援学級を新設・増設し、障害のある児童生徒の障害に配慮し、指導内容を工夫した学習活動を行うことは、時代の変化に対応した教育支援となる。
今年度の特色・改善点等	今年度は、来年度に7校の特別支援学級を設置するための整備を行い、平成28年度の全小学校設置に向けて関係課とも連携を図った。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	小学校設置校数	9校 / 22校	16校 / 22校	22校 / 22校

事業番号 14	小中学校特別支援教育就学奨励事業	担当	学務課
---------	------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 特別支援教育の推進	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	教育の機会均等の趣旨にのっとり、特別支援学級への就学の事情を鑑みて、その保護者の経済的負担を軽減し、もって特別支援教育の推進に寄与する。	
事業の対象 対象数	小学生：受給者102人（対象者112人）	中学生：受給者66人（対象者81人）
事業の内容	市内小・中学校の特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の対象となる経費の一部を援助する。	

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	5,150千円	5,484千円	5,992千円

●評価指標

指標名		平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
奨励費の申請率	小学校	100%	99%	96%	申請数／配布数（在籍者数）×100
	中学校	100%	98%	100%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	障害のある児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するための事業であり、対象となる児童生徒のうち、96%が申請することができている。障害のある児童生徒が就学する上での事情を鑑み、その保護者の負担を軽減することは、教育機会均等の考えからもその必要性は高い。特別支援教育の推進のためには必要な事業である。
今年度の特色・改善点等	学校と円滑かつ速やかに連絡を取り合い、国の基準に基づいて効率的に事務を執行している。昨年度から、特別支援学級適の児童生徒に該当する通常学級の児童生徒にも支給対象者が拡大されたため、該当する児童生徒を把握し、申請を受けた上で支給を行った。来年度においても、継続して対象者の把握及び適切な事務遂行を行う必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	奨励費申請率（小学校）	96%	100%	100%
	奨励費申請率（中学校）	100%	100%	100%

基本目標Ⅱ

豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成

- 事業番号 15 学習支援事業
- 事業番号 6(再掲) 教科用図書等整備事業
- 事業番号 16 さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)
- 事業番号 2(再掲) 指導方法改善事業
- 事業番号 17 小中学校音楽会開催事業
- 事業番号 18 小中学校図書整備事業【Ⅲ-3】
- 事業番号 52(再掲) 図書館資料整備事業
- 事業番号 19 中学校部活動支援事業【Ⅱ-7】
- 事業番号 20 中学校吹奏楽演奏会開催事業
- 事業番号 53(再掲) 子どもの読書活動支援センター運営事業

施策2 生徒指導の充実

- 事業番号 21 生徒指導推進事業
- 事業番号 22 さわやか相談室運営事業
- 事業番号 23 いじめ根絶対策事業(防止事業)【Ⅱ-4】
- 事業番号 24 いじめ根絶対策事業(相談事業)【Ⅱ-4】

施策3 人権教育の推進

- 事業番号 25 人権教育推進事業(指導課所管分)

施策4 学校教育相談の充実

- 事業番号 23(再掲) いじめ根絶対策事業(防止事業)
- 事業番号 24(再掲) いじめ根絶対策事業(相談事業)
- 事業番号 26 不登校児童生徒の学校適応指導事業
- 事業番号 27 教育相談事業

施策5 学校保健の充実

施策6 食育の推進・学校給食の充実

施策7 児童生徒の体力向上

- 事業番号 3(再掲) 魅力ある学校づくり事業
- 事業番号 19(再掲) 中学校部活動支援事業
- 事業番号 28 児童生徒体力向上推進事業

事業番号 15	学習支援事業	担当	指導課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策1 豊かな心の育成		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能をもつ外部指導者や学校支援ボランティアを導入することで、豊かな体験活動をはじめ、学習活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育てる。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	「総合的な学習の時間」の外部指導者や学校の教育活動を支援する学校支援ボランティアに、記念品を贈る。小・中学校校外行事実施に係る引率者の入場料等の経費を負担する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	204 千円	199 千円	217 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
外部指導者補助率	55.0%	67.8%	42.3%	外部指導者活用に対する補助の割合
外部指導者補助数	103人	103人	102人	外部指導者補助人数
外部指導者活用率	78.8%	84.8%	81.8%	外部指導者活用校数/33校

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校において、児童生徒や地域の実態に応じた特色ある教育活動の推進が求められている。そのため、外部指導者や学校支援ボランティアの協力によって地域全体で学校教育の質を高め、市内多くの学校で特色ある教育を推進している。そのような状況の中、引率者の入場料等の経費を負担し、校外行事を円滑に実施することができた。また、各学校において、総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能を持つ外部指導者や学校支援ボランティアを積極的に活用することで、体験活動の充実や個に応じた指導が図られ、児童生徒にとって魅力ある教育活動が展開することができた。学校外の教育力を積極的に取り入れるため、学校では外部指導者の活用希望数が100回を超えている。平成26年度は、学校が希望している回数に対して、すべての補助することができなかった。今後も外部指導者への依頼の増加が見込まれるところであり、補助率の向上と外部指導者の高齢化に伴い、新たな指導者の募集が課題である。
今年度の特色・改善点等	総合的な学習の時間の目標にある探求活動を一層推進していくためには、子どもが自ら課題を見つけるきっかけとなる体験活動を充実させることや豊富な知識と技能を有する外部指導者や学校支援ボランティア等の地域の教育力は不可欠となることから、学校が希望している回数に対する補助をすることが課題である。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	外部指導者活用率	81.8%	100%	100%

事業番号 16	さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）	担当	指導課
---------	-------------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	II 豊かな心と健やかな体の育成
施策	1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	読書活動を推進するとともに、学校図書館の教育効果を組織的に高めることで、児童生徒に「確かな学力」と「豊かな心」を身につけさせる。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。そこで、各小・中学校図書館の充実を図り、読書活動を推進するため、図書館支援員を小学校毎日4時間、中学校週1回5時間、派遣する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	18,091 千円	18,086 千円	18,473 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校図書館支援員数	25人／33校	25人／33校	25人／33校	小中学校に派遣する図書館支援員の数
1校あたりの派遣回数 (平均)	小学校202回 中学校約41回	小学校202回 中学校約41回	小学校203回 中学校約42回	支援員の派遣回数／1校あたり
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	74.5%	74.9%	上尾市小・中学校学力調査結果より
	中学3年	72.8%	73.2%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校図書館の本の選書、児童生徒への本の紹介、学校全体での読書活動への関わり等の様々な業務において、司書教諭の補助を行うことができた。また、読み聞かせやブックトーク、児童生徒が本を選ぶときにアドバイスをする等、児童生徒の豊かな心の育成や児童生徒が本を手に取りやすい環境が整ってきている。</p> <p>また、児童生徒が利用したくなるような掲示物の工夫や推薦図書、読書案内等の展示コーナーが豊かになり、学校図書館が児童生徒にとって身近な場所になっている。</p> <p>研修会を通して、各校の学校図書館の取組みや整備の状況について情報交換を行い、底上げを図ることができている。支援員と教師、支援員と児童生徒との関わりを深めるため、指導方法の研修会を行った。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>中学校の図書館教育の充実のため、ベテラン支援員を配置した。</p> <p>昨年度から配備している新聞を効果的に活用するため、学習における新聞活用の取組みやNIEと学校図書館との関わり等についての研修を実施し、司書教諭と連携し、各教科で新聞を活用するよう指導した。</p> <p>上尾市立大石南中学校の取組が、文部科学省「平成27年度子ども読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）」の優秀実践校表彰を受けた。図書館支援員の力もあったと考えられる。昨年度は、上尾市立鴨川小学校も表彰されており、上尾市全体の学校図書館教育の推進につながっている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度	
A	学校図書館支援員数	25人／33校	25人／33校	33人／33校	
	「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学6年	75.9%	75%以上	75%以上
		中学3年	74.6%	75%以上	75%以上

事業番号 17

小中学校音楽会開催事業

担当

指導課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市内小・中学校の児童生徒の音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図るとともに、教員の研修の機会とする。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 児童生徒 約1,300名
事業の内容	表現及び鑑賞をとおして、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図り、教員の研修の機会とするため、毎年度1回「上尾市小・中学校音楽会」を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	861千円	805千円	1,281千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
参加学校数	33校	33校	33校	音楽会参加学校数
参加者数	約2,000人	約2,000人	約2,200人	音楽会参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>現在、市では交流活動の一環として、学校の枠を超えた取組を行っている。小学校においては、6年生が参加する連合運動会や親善球技大会、中学校では、部活動における各種大会等、体育的活動が多い。そのような中、文化的な活動として行われているのが、中学生による上尾市中学校吹奏楽演奏会や中学生が小学校を訪問し、合唱や吹奏楽部の演奏を披露する等、中学校区を中心とした学校間の交流活動である。本事業は、市内全小・中学校が参加し、日頃の音楽における教育活動の成果を発表し合える唯一の場である。その意義は大きく、児童生徒の学習意欲を高め、音楽科としての学力向上につながっている。また、学校間で互いの音楽を鑑賞することは、教員の指導力向上にもつながっている。さらに、市として文化芸術振興の一環としての役割も大きく、一般参加者数は、増加傾向にあり、今年度は過去最多であった。参加者によるアンケートの調査結果では、「よかった、概ねよかった」がほとんどであった。その成果を、NHK全国学校音楽コンクールやTBSのこども音楽コンクールで発揮し、良い成績を収めている学校もある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>平成22年度から市内全小・中学校が参加している本音楽会は、同日に3部制で開催し、小中学生が参加する音楽行事としては、市で唯一の事業である。児童生徒が互いの音楽を聴き合うことにより、学習意欲及び音楽的な表現力の向上につながっている。また、音楽会の教育的効果については、市内小・中学校の教職員及び保護者からの認識が高まっている。参加者からは、児童生徒の歌声のすばらしさに感動した、継続してほしいなどの内容の感想も増えている。昨年度は、一般参加者数が過去最高の945名であった。平成23年度から全員合唱をしている上尾市歌も定着し、参加した児童生徒の歌声は素晴らしく、指導者の講評の中でも称賛された。今年度からは全員合唱曲の歌詞をプログラムに掲載し、一般参加者も一緒に歌えるようにしたことで、音楽会が参加者全員で運営されているような雰囲気になった。また、昨年度から実施した全ての小学校で5年生が参加するというについても定着し、同学年ということで互いに切磋琢磨できるとともに、学校の代表として参加することで、最高学年に向けての自覚を高めている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	音楽会参加者数	約2,200人	2,000人以上	2,000人以上

事業番号 18	小中学校図書整備事業	担当	教育総務課
---------	------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子どもたちの自主的・自発的な学習活動を支援するとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ読書活動を推進するため、「学校図書館図書標準」（平成5年3月）を目標に、充実した学校図書館図書の整備を図る。
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒（平成26年5月1日現在） 小学校・・・児童数 12,138人 中学校・・・生徒数 6,320人
事業の内容	学校図書標準の早期達成に向け、図書の計画的な整備を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	25,860 千円	27,658 千円	28,155 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
増加冊数	小学校	12,399冊	10,745冊	11,390冊
	中学校	5,783冊	6,029冊	5,398冊
廃棄冊数	小学校	4,023冊	625冊	1,926冊
	中学校	497冊	519冊	99冊
年度末現有冊数	小学校	181,400冊	193,011冊	202,475冊
	中学校	106,119冊	111,629冊	116,928冊
図書標準目標達成率	小学校	83.7%	89.3%	93.4%
	中学校	74.3%	77.4%	81.4%

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>整備指標である「学校図書館図書標準」の達成を目標としてきたが、現状でも図書標準目標達成までには至っていない。しかし、文科省の学校図書館関係地方財政措置を利用し、図書購入予算を例年並みに維持し、着実に蔵書数を増やすことができた。</p> <p>また、図書の設置を増やすのに必要な図書室へのレイアウト変更、書架の追加設置など実施され、この試みを各小中学校にも広げていく必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度も図書標準目標達成率の低い学校には多く、高い学校には抑えた図書購入費予算を配分し、各小中学校とも早く達成率100%に到達するよう配慮した。</p> <p>また、図書標準目標達成率の最も低い大石小においては、書架不足により図書購入が進まない状況であったことから、図書室のレイアウトを変更し書架を追加購入することで、図書室に設置する図書を増やす試みを実施した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	図書標準目標達成率（小学校）	93.4%	97.7%	100%
	図書標準目標達成率（中学校）	81.4%	85.1%	88.8%

事業番号 19

中学校部活動支援事業

担当

指導課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策1 豊かな心の育成	施策7 児童生徒の体力向上

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	部活動の充実及び活性化、生徒の意欲の向上と技能の向上を図る。また、生涯スポーツ・文化に親しむ習慣の基礎を養うことや目標を持った意欲的な学校生活を送ることができるようにする。全国・関東大会に出場する生徒の派遣費負担を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	保護者、地域から部活動の活性化が望まれる中、部活動指導員を配置することで、生徒の技能の向上を図り、安全を確保する。全国・関東大会に出場する生徒の派遣にかかる費用を負担し、保護者負担を軽減する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,080 千円	3,028 千円	4,163 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
部活動指導員配置率	81.8%	90.1%	90.1%	学校配置指導員数 / 学校が希望する指導員数
運動部活動加入率	75.0%	74.1%	73.4%	運動部活動加入生徒数 / 生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>中学校に、技術指導を中心とした、部活動指導員を配置し、生徒の技能や活動に対する意欲の向上を図ることができた。また、活動するうえでの安全を確保することにもなり、部活動の活性化を図ることができた。</p> <p>中学校部活動では顧問の人事異動等の関係で、技術指導を行える指導者が不在となり、部の活動が停滞したり存続が難しくなったりする等の状況があるが、部活動指導員を配置することで、長期的、計画的に技術指導を受けることができた。部活動指導員の研修会において、消防署の方を講師として招聘し、応急処置とAEDの使い方の実技を通して研修した。</p> <p>平成26年度は、関東大会にバスケットボール部、ソフトテニス団体を含む25名が出場し、全国大会には、水泳リレーチームを含む20名が出場することができた。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などの育成を図る部活動は、スポーツ、文化において高い技能を持つ部活動指導員を配置することにより、円滑に進めることができています。</p> <p>また、思春期にあたる中学生時期に様々な人と接することで、心の成長につながっている。</p> <p>部活動指導員委嘱式・研修会を今年度から、土曜日午前中に実施することとし、さらに、消防署の方を招聘することで、より実践的な研修を開くことができています。委嘱式・研修会への参加が約半分程度なので、学校や通知文をとおして、参加を促していく。</p> <p>全国・関東大会生徒派遣費補助金については、文化部も補助していくことで検討を行った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	部活動指導員配置率	90.1%	100%	100%

事業番号 20	中学校吹奏楽演奏会開催事業	担当	指導課
---------	---------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	中学校部活動の充実と相互の発展向上を図るとともに日頃の活動の成果を発表する機会の一つとする。対象生徒の意欲・技能の向上を図るとともに、保護者や一般市民にも公開することにより、市民の文化的活動としての位置付けを図る。
事業の対象 対象数	上尾市立中学校吹奏楽部
事業の内容	生徒の演奏技能を高め、担当教員の指導力の向上を図る機会として吹奏楽演奏会を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	299 千円	311 千円	310 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
参加学校数	11校	11校	11校	参加中学校数
一般参加者数	378人	439人	395人	一般参加者数（受付通過分）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市内中学校における部活動の取組については、運動部における体育的活動が多い中、本事業は、文化部における部活動の活性化と文化的活動の振興を図ることに効果を挙げている。また、市内11校が参加する吹奏楽演奏会の開催により、吹奏楽部の生徒の部活動への意欲的な取組や演奏技能の向上、担当教員の指導力を高めることにもつながっている。さらに、本市の文化芸術の振興の点でも、本事業のような音楽的活動は効果的であり、一般公開することで、市民への芸術文化の提供と学校理解につながっている。本事業は、埼玉県吹奏楽コンクールに向けての練習の場としての役割も大きく、成果をあげている。
今年度の特徴・改善点等	平成23年度から、市内全ての中学校、11校の吹奏楽部が揃って参加した演奏会となっている。吹奏楽部に所属する生徒には、互いの演奏を聴き合うことで、日頃の取組の成果を発表する場であるばかりでなく、切磋琢磨することができる場であり、部活動への取組の意欲向上にもつながっている。また、吹奏楽部顧問が実施委員として演奏会を組織、運営することで、顧問同士が連携を図り、指導に関する情報交換等を行うことで指導力の向上を図ることができる。演奏技術及び演奏態度が年々向上してきており、埼玉県の吹奏楽コンクールに出場した学校は、日常的な取組の成果をあげている。市の広報に開催日等を掲載しており、市の文化的な活動の一つになっている。一般参加者数は395人で、一般参加者をお願いしているアンケートの回収数も多く、関心の高さを示している。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	—	—	—	—

事業番号 21	生徒指導推進事業	担当	指導課
---------	----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒の非行・問題行動の未然防止と、健全育成及び学校生活の充実を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	中学校での非行問題行動の未然防止のため、4人の生徒指導支援員を要請のあった中学校へ派遣し、校内巡視や非行・問題行動を取る生徒への対応など、中学生の非行問題行動を未然に防ぐ活動を行う。また、生徒指導推進協議会の活動をとおり、各中学校区で小・中学校及び地域住民、警察等関係機関及び青少年育成団体、高等学校等と連携しながら、青少年健全育成活動、長期休業中のパトロールや補導を行い、地域と一体となった総合的な生徒指導の取組を推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	4,539千円	4,543千円	4,600千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
支援員派遣校数	4校	4校	4校	生徒指導支援員派遣中学校数
支援員1校あたり週派遣日数	2日	2日	2日	派遣校1校あたりの週派遣日数
暴力行為発生件数	18件	3件	0件	小・中学校の暴力行為発生件数
街頭補導回数	569回	494回	494回	各中学校区における補導回数
地域の集い参加者数	332人	363人	289人	青少年健全育成地域の集い参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>生徒指導推進事業については、生徒指導支援員の活動や上尾市生徒指導推進協議会の取組により、暴力行為が3件と平成24・25年度を大幅に下回った。青少年健全育成地域の集いは、平成26年度「子供の生活習慣と学力」とテーマに全国学力・学習状況調査等の諸調査結果から浮き彫りになった課題を解決するための取組やスマートフォン等、インターネットの利用による子供の生活習慣への影響について考える時間となり、参加者数は昨年度に比べ減少したが、意義深いものとなり、地域と一体となった生徒指導の推進が図られた。生徒指導支援員は、2名1組で、教師の目の届かない時間帯、場所を巡回し、生徒の暴力行為等の未然防止を図り、成果をあげることができた。生徒指導支援配置校からは、平成27年度も引き続き派遣してほしいとの声がある。補導回数は、昨年度に比べ減少したが、地域が一体となり、子供の犯罪抑止に大きく寄与しており、関係機関が連携して今後も取り組んでいく必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>家庭教育の一環として、今年度は夏季休業中に「夢・感動教育 子供すこやかシンポジウム」を開催した。子供をネットトラブルから守るため、スクール・ネットワーク・アドバイザーを講師に招き、基調講演をいただいた。基調講演を受けて市P連や各関係機関・関係団体、市内小・中・高等学校の教員でパネルディスカッションを実施した。また、市P連や各関係機関・関係団体、市内小・中学校長会長で構成する「上尾市ネットトラブル防止対策会議」を開催し、市全体で子供をネットトラブルから守る取組が行われた。行動指針を策定し、リーフレットやポスターで市民に啓発した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	暴力行為発生件数	0件	0件	0件

事業番号 22	さわやか相談室運営事業	担当	教育センター
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒・保護者の身近な相談機関として中学校に相談員を配置し有効に機能させる。不登校生徒が学級復帰を果たすまでの第一段階として、教育相談主任・学級担任等と連携して、生徒個々にカウンセリング等を実施しながら学級復帰をめざす。
事業の対象 対象数	市内全中学校 11校
事業の内容	児童生徒・保護者等の様々な相談に応じるため、市内中学校のさわやか相談室に相談員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	17,760 千円	17,882 千円	19,866 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
相談室の相談件数	11,204回	10,470回	12,743回	相談員が扱った相談の延べ回数
相談の解決率	87%	76%	85%	解決件数/相談件数×100
不登校生徒数割合	1.60%	1.83%	1.85%	不登校生徒数/全生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>さわやか相談室では、自校及び中学校区の児童生徒や保護者の学校生活や家庭生活での悩み等の相談に応じたり、不登校傾向のある生徒へのカウンセリングを行ったりしている。また、教育センターの相談員及び適応指導教室指導員と連携を図り、きめ細かい支援を行っている。これらの業務は、児童生徒や保護者の悩みを解消したり、不登校児童生徒の教室復帰に導いたりする重要な業務である。今年度の相談のべ件数は昨年度より増加している中、相談の解決率は85%と、前年度と比べると高くなっている。これは、さわやか相談室相談員と教育センターとが積極的に連携を図り、解決に向けての支援を根気強く行ってきた成果と考える。また、スクールカウンセラーとの連携も深まり、校内の連携を活かした支援も確実に行われてきた。不登校生徒数の割合は1.85%で、昨年度より増加したが、さわやか相談室相談員と教育センターの連携でかかわった生徒は段階を踏んで学校へ戻るようになった。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>さわやか相談員は、教育センターと連携を密にとり、一人一人のニーズに応じた支援を行い、問題を解消することや不登校児童生徒を学校復帰へと導くことができた。また、さわやか相談員研修会では、小学校との連携についてその必要性について伝え、各さわやか相談員が積極的に小学校を訪問するなどし、連携を図った。さらに、教育センターがさわやか相談室訪問を行い、一人一人の生徒の学校復帰に向けた支援の方向性について助言し、さわやか相談員は、支援計画をもって支援にあたることができた。今後は、不登校生徒の割合が減るように、教育相談主任会議等をとおして、さわやか相談室をさらに適切に活用するとともに、小・中の連携をより一層深め、問題の早期発見・早期解決をさらに推進していく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	不登校生徒数割合	1.85%	1.66%	1.49%

事業番号 23	いじめ根絶対策事業（防止事業）	担当	指導課
---------	-----------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	児童生徒の個々の状況を的確に把握し、いじめの未然防止や解消、いじめの早期発見・早期対応を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校全児童生徒
事業の内容	いじめの問題については、いじめが原因の一つと思われる児童生徒の自殺が起きるなど、社会問題化しており、依然として教育上大きな課題となっている。問題行動等の原因や背景は、個々のケースにより様々であるが、インターネットや携帯電話を介した「ネット上のいじめ」など、学校における「いじめ発見」が難しい事例もある。また、「いじめは決して許されない」という意識が児童生徒に依然としてしっかり身につけていない状況も課題となっている。このようなことから、児童生徒の個々の状況を的確に把握するための心理検査を実施し、よりよい学級集団の形成に資するとともに、教員の資質向上、保護者との連携、標語の作成をとおして、いじめ根絶の取組を市全体で推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	6,219 千円	6,426 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
いじめの認知件数	32件	22件	15件	小・中学校におけるいじめの認知件数
いじめ解消率	100%	100%	93.8%	小・中学校におけるいじめの解消率

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度は、下記のような具体的事業を行い、いじめ問題に対して、学校を中心に、市全体で組織的に取り組むことができた。</p> <p>「CAP研修会」…いじめの早期発見・早期対応といじめの起こりにくい学校づくりを目的として「CAP研修会」を新採用教員並びに市外からの転入教員を対象に実施した。これにより、教職員のいじめを見抜く能力や望ましい学級経営や信頼関係に立った生徒指導を実践することができた。</p> <p>「hyper-Q-U」…いじめの発生・深刻化の予防及びいじめ被害にあっている児童生徒を早期に発見することを目的として「hyper-Q-U」を小学3年から中学3年の児童生徒を対象に実施した。また、調査結果を適切に分析し、効果的に活用するために「hyper-Q-U」活用研修会を教職員を対象に開催した。これにより、教師が児童生徒の意欲や満足感、学級内での相対的位置を把握するとともに、結果を家庭にフィードバックすることで、児童生徒に集団形成に必要な対人関係を営むためのスキル身に付けさせ、児童生徒が楽しい学校生活を送る一助となることができた。</p> <p>その他…なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスターを制作し、各学校へ配布・掲示をすることによって、全児童生徒に「いじめ根絶」の啓発に効果的であった。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>「CAP研修会」…今年度は、新採用教員並びに市外からの転入教員が受講し、いじめを見抜く能力や組織的に対応することの大切さを学ぶ機会となった。</p> <p>「hyper-Q-U」…今年度は、全小学校第3学年から第6学年の児童及び全中学校第1学年から第3学年の生徒を対象に実施した。児童生徒の集団における満足度を測定し、個に応じた生徒指導を実践することができた。</p> <p>「なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスター」を制作・全小・中学校へ掲示した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	いじめ解消率	93.8%	100%	100%

事業番号 24	いじめ根絶対策事業（相談事業）	担当	教育センター
---------	-----------------	----	--------

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	「いじめホットライン」を設置し、いじめられている児童生徒の相談窓口とする。また、教育・社会福祉等の専門的な知識や技能を持ったスクールソーシャルワーカー（SSW）を設置し、児童生徒の問題行動等の解決を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	いじめ相談の迅速な対応を行う。いじめ等の問題で児童生徒本人の心の問題とともに、置かれている環境に対し働きかけを行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	617 千円	509 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
いじめ相談解決率	—	100%	100%	いじめ相談解決数/いじめ相談数
いじめホットライン・ホットメール相談件数	—	17件	11件	ホットライン（電話）件数+ホットメール件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>「子ども・いじめホットライン」で受けた相談件数は11件である。内訳は小学生が7件（1年…1件、4年…1件、5年…2件、6年…3件）、中学生が4件（1年…2件、2年…1件、3年…1件）である。「子ども・いじめホットライン」では、相談員が相談者の気持ちを十分受け止め、寄り添いながら丁寧に相談を進め、学校と協力して問題の解決を図った結果、100%のいじめ解消となった。特に緊急性のある相談については、相談者の安全確認等、状況把握を慎重に行い、学校と連携し迅速に対応できたことは評価できる。</p> <p>また、問題行動等に関して、スクールソーシャルワーカーが家庭訪問を繰り返したり、子ども若者相談センターや児童相談所、社会福祉協議会等、関係機関との連携に努め、ケース会議を適宜行ったりした結果、関係機関が対象児童生徒について情報の共有ができたことは評価できる。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>昨年度から新たに始まった事業である。昨年度は市内全小・中学生にいじめ相談専用の電話番号及びメールアドレスを記したカードを配布したが、今年度は、市内小学校新1年生児童及び関係機関に配布した。</p> <p>スクールソーシャルワーカーは、今年度、関係機関との連携を図るため積極的にケース会議に参加するとともに、必要に応じて直接学校に行き、対象児童生徒への対応を行った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	いじめ相談解決率	100%	100%	100%

事業番号 25	人権教育推進事業（指導課所管分）	担当	指導課
---------	------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進を図り、人権尊重の意識を高めることで、いじめや差別をなくせる学校の実現と相手の立場に立って考える思いやりのある児童生徒の育成を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・管理職及び教員
事業の内容	人権教育研修会（人権教育施設体験研修会を含む）をとおして校長、教頭、教員の資質向上を図る。 人権教育を視点においた指導方法の研究をより一層推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	1,357 千円	1,346 千円	1,304 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
研修会・授業研究会実施回数	8 回	7 回	8 回	人権教育に係る研修会等実施回数
研修会参加者数	269 人	246 人	267 人	人権教育に係る研修会等参加者数
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉 づかいでできると回答した児童 生徒の割合	88.7 %	90.0 %	90.0 %	「よくできる」「だいたいできる」回答児童 生徒数/全児童生徒数×100
作文・標語集等配布率	100 %	100 %	100 %	配布数/児童生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の 評価	<p>「人権の世紀」といわれた21世紀を迎えてから15年が経つが、誰もがもっている基本的な権利である人権を侵害し、個人の尊厳や生命までも脅かす行為が後を絶たない。特に、昨今、大きな社会問題となり、形を変えてネット上へも広がっている「いじめ」は、「命」にも関わる重大事態に発展することもあり、早急に根絶させなければならない問題となっており、それらへの対応が学校教育に強く求められている。また、地域社会においては、未だに社会的身分又は門地、性別、障害の有無による差別の現状もある。このような現状の中で、人権感覚育成プログラムを全小・中学校で取り組んだり、校内研修で同和問題を取り上げる学校が増加したりするなど、すべての児童生徒に「人権についての正しい理解」を深めるとともに、「差別をなくす」「家族や友達を大切にする」「人と人とのきずなを大切にする」ことに重点をおいた人権教育を推進することができた。</p>
今年度の 改善点等	<p>管理職対象及び一般教職員対象など、それぞれの職責に応じた研修を行い、教職員の資質能力の一層の向上と人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、豊かな人権感覚を身に付け、様々な人権問題を自ら解決しようとする児童生徒を育成することは今後も学校教育が担う重要な課題であり、継続していく必要がある。特に、いじめ問題については、毎月「学校生活アンケート」を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、昨年度に発表された「上尾市『いじめ根絶』中学生宣言」及び平成19年度の「いじめ根絶宣言」を各校で教室や廊下等に掲示し啓発をすることができた。校長対象研修会、教頭対象研修会、担当教員対象研修（年4回）、人権教育授業研究、3年経験者研修、人権教育小中学校研究会全体会・各部会年3回（啓発・調査研究・資料作成）を実施できた。教頭対象研修では、昨年度の校長対象研修に続き、ネット上における人権問題とその対応についての内容を初めて盛り込んだ。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいできると回答した児童生徒の割合	90.0 %	90 %以上	90 %以上

事業番号 26	不登校児童生徒の学校適応指導事業	担当	教育センター
---------	------------------	----	--------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	不登校児童生徒のうち、学校復帰に意欲のある者のよりよい成長と自立を促し、指導・支援を行うことによって、学校への完全復帰を目指す。
事業の対象 対象数	市内小・中学校不登校児童生徒 131人
事業の内容	不登校児童生徒の自立と学校生活への適応を図り、学校に復帰させることを目的として様々な指導・援助を行う。体験学習を多く取り入れた活動や学生ボランティアによる学習支援を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	4,408 千円	4,682 千円	4,644 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
適応指導教室入級者数	9人	13人	11人	入級者数
適応指導教室開設日数	146日	151日	151日	4月及び水曜日を除く平日 *夏休は火・木のみ開設
学校への復帰率	100%	100%	100%	学校復帰した人数/入級者×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>平成26年度の不登校児童生徒数は131名である。その内、教育センターに来所した児童生徒は32人である。適応指導教室に入級した人数は11人と少ないが、個別の相談対応で入級手前の段階の児童生徒は多く、教育センターでは、来所した不登校児童生徒の支援を積極的にサポートしている。</p> <p>学校適応指導教室では、学校復帰を目指すための指導・支援を行ってきている。入級した児童生徒は個別の自主学習の形態で学習したり、集団によるレクレーション活動や体験活動を行ったりしている。これらの活動により、集団の中での行動の仕方や他者とのコミュニケーション力を身につけたり、学校復帰に向けた不安感を払拭させたりすることができた。その結果、昨年度入級した児童生徒は100%学校復帰を果たすことができた。</p>
	<p>教育センターに通ってくる児童生徒は、他者と積極的に関わることができない、関わり方が分からないなどの課題がある。そこで、宿泊体験や陶芸教室等の児童生徒が協力する活動を計画・実行したり、ソーシャルスキル獲得に向けた学習に取り組んだりしてきた。今後も、入級した児童生徒の特性を踏まえ、個別の支援と集団での活動をバランスよく連携させ、学校に適応できる力を身につけさせていく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	学校への復帰率	100%	100%

事業番号 27

教育相談事業

担当

教育センター

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	幼児及び児童生徒と保護者、学校関係者が抱える教育問題等を解消する。特に不登校児童生徒については、学校（相談室・適応指導教室を含む）に復帰させる。
事業の対象 対象数	上尾市在住の幼児、児童生徒、保護者及び関係者 約57,000人 （内訳：幼児、児童生徒数約29,000人、保護者数約29,000人、学校関係者約1,000人）
事業の内容	幼児・児童生徒及び保護者の教育問題等に関する相談、軽度発達障害のある児童生徒の相談及び各種知能検査・発達検査を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	11,446千円	11,427千円	14,409千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
教育相談案件数	279件	321件	461件	実人数+電話相談（匿名）
教育相談延べ回数	3,171回	5,935回	6,483回	面接相談+電話相談+メール相談
教育相談終結率	86.4%	79.1%	76.4%	終結（方向性を持って支援を継続しているケース+問題終結ケース）数/相談案件数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度の教育相談は、相談案件数は前年度より140件、延べ回数では548件増えているが、どのケースも迅速に丁寧に相談に応じることができた。相談の内容については、「不登校」「性格・行動」「学習・発達」「就学」での相談が大変多くなってきている。それに伴い、知能検査（WISC-ⅢまたはⅣ）を受けるケースも大変多くなっているが、きめ細かく丁寧に相談に応じ、適切な支援の方法をアドバイスするなどして問題の解決へと導くことができた。</p> <p>不登校児童生に対して、一人一人の児童生徒の気持ちが安定して学校に通うことができるまで支援をすることに努めてきたこと、相談件数が6月以降急激に増えたこと等の理由から、年度内の終結率は低くなっているが、教育センターが関わった児童生徒は、学校復帰に向けチャレンジしたり、学校復帰をすることができた。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度、非常に相談件数が増え、相談員一人あたりが抱えるケースが40件以上になる時期もあった。終結率の低下が見られるが、相談が深刻化複雑化してきている相談に対して、丁寧かつ継続的な相談を行っているからであると考えている。WISC-ⅢまたはⅣの検査の結果を活かし、児童生徒にとって必要な支援や教育形態の変更への方向性を捉えることができた。また、積極的に学校や他機関と連携をとり、ケース会議等を行い、児童生徒保護者が安心して学校復帰や問題解決が図れるよう努めた。平成27年度からは教育相談員を1名増員するが、今後も相談機能の一層の充実を図り、適切な教育相談を行っていくとともに、市内の小・中学校で現在、登校できない児童生徒全員に対し、スクールソーシャルワーカーを活用したり他機関と連携することで、教育センターへ繋げることができるようにしていく必要がある。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	教育相談終結率	76.4%	80%	80%

事業番号 28	児童生徒体力向上推進事業	担当	指導課
---------	--------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市立小・中学校の児童生徒の体力向上を図り、心身ともに健やかでたくましい人づくりを目指す。
事業の対象 対象数	上尾市中学校体育連盟・小学校体育連盟 上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	上尾市中学校体育連盟の学校総合体育大会及び県民体育大会兼新人体育大会の市内予選会や小学校体育連盟の連合運動会、親善バスケットボール大会などの実施をとおして、児童生徒の体力向上を目指す。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,603 千円	3,645 千円	4,265 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
運動部活動加入率	75.0%	74.1%	73.4%	運動部活動加入生徒数/生徒数×100
教育に関する3つの達成目標 体力(週1時間以上運動する児童 生徒の割合)	76.4%	77.4%	79.3%	週1~2回以上は1時間以上運動すると 回答した児童生徒の割合
新体力テスト 総合評価 上位3ランク(ABC) の児童生徒の割合	小学校	79.6%	78.8%	5ランク中上位3ランクの児童生徒の割合
	中学校	85.5%	84.6%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	児童生徒の体力低下、運動する、しないの二極化が懸念されている現状から、児童生徒の体力向上、運動習慣の確立は、学校においても大きな課題の一つとなっており、本市においても児童生徒の体力向上を目指し、さまざまな取組を行うことができた。小学校体育連盟では、親善バスケットボール大会や連合運動会での各校の取組をとおして、運動時間、運動機会を確保し、体力と技能向上につながった。さらに連合運動会では、ブロック制を変更して2年目になるが、22校が共に競い合い、学校規模に関係なく各校の取組の成果が見られた。中学校体育連盟では、部活動の大会を目指し、日頃の練習の充実が図られた。小体連・中体連ともに、体力、技能の向上のみならず、仲間意識や達成感を味わわせる取組を行うことができた。
今年度の特徴・改善点等	児童生徒の日常生活における運動の機会は減少傾向にあり、体力向上を図る事業の重要性は今後さらに増していく。また、本市では小学校での新体力テストの上位3ランクの低下、「ボール投げ」「長座体前屈」が課題となっており、授業研究会等をとおして、指導方法等の改善について研究等を行い、課題解決を図っていく。また、全児童生徒に保障されている体育授業において、各学校で課題種目を準備運動等で取り入れたり、運動の特性を味わわせることでの児童生徒の自主性を育んだりすることで体力の向上を図っていく。

次年度以降の目標設定

事業評価判定 A	目標指標		平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	教育に関する3つの達成目標 体力 (週1時間以上運動する児童生徒の割合)		79.3%	80%以上	80%以上
	新体力テスト 総合評価 上位3ランク(ABC) の児童生徒の割合	小学校	78.5%	80%以上	80%以上
		中学校	86.1%	85%以上	85%以上

基本目標Ⅲ

安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上

事業番号 2(再掲) 指導方法改善事業

施策2 学校経営の改善・充実

事業番号 3(再掲) 魅力ある学校づくり事業

事業番号 2(再掲) 指導方法改善事業

事業番号 29 学校評議員制度運営事業

事業番号 30 元気な学校をつくる地域連携推進事業【IV-1】

施策3 学校施設・設備の整備・充実

事業番号 6(再掲) 教科用図書等整備事業

事業番号 18(再掲) 小中学校図書整備事業

事業番号 31 小中学校教育教材整備事業

事業番号 32 小中学校校舎改築事業

施策4 学校のICT化の推進

事業番号 2(再掲) 指導方法改善事業

事業番号 33 小中学校コンピュータ整備事業

事業番号 34 小中学校電子黒板整備事業

施策5 学校安全の推進

事業番号 35 児童生徒安全推進事業

事業番号 36 学校安全パトロールカー事業

事業番号 37 通学路安全対策事業

施策6 就学支援の充実

事業番号 38 入学準備金・奨学金貸付事業

事業番号 5(再掲) 日本語指導職員派遣事業

事業番号 14(再掲) 小中学校特別支援教育就学奨励事業

事業番号 39 小中学校就学援助費補助事業

事業番号 40 要保護児童生徒医療費援助事業

事業番号 41 準要保護児童生徒給食費援助事業

事業番号 29	学校評議員制度運営事業	担当	指導課
---------	-------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校運営に関し、保護者や地域住民の意向を把握し、意見等を反映させたり、協力を得たりするなど、特色ある開かれた学校づくりを推進するため、学校評議員制度の運営充実を図る。
事業の対象 対象数	上尾市立各小・中学校 各校5人×33校＝165人
事業の内容	学校評議員の委嘱及び学校評議員研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	590 千円	590 千円	596 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校評議員会議開催回数	3.21回	3.30回	3.24回	1校あたりの学校評議員会議の開催回数
学校評価に対する意見聴取回数	1.84回	2.30回	1.85回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>各学校では、学校自己評価等に対する学校評議員からの意見聴取回数及び学校評議員開催回数が下回ったが、学校評議員を行事や授業参観に招くなど、積極的に学校を公開し、学校評議員が校長の学校経営について理解を深め、助言をいただくことができた。</p> <p>各学校で、積極的に学校評議員制度の活用を図ることにより、開かれた学校づくりが推進された。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>今年度もすべての学校評議員が経験年数3年以内（1年目54人、2年目70人、3年目41人）である。学校評議員運営要綱第3条にある「通算の在任年数が3年を超えない」を継続していくことにより、より多くの地域の方々から学校評議員としての意見をいただけるようになった。</p> <p>委嘱式後の研修会では、2つの事例が発表された。校長による発表と学校評議員による発表が、それぞれ1例ずつであった。今後も、学校評議員による事例発表を行っていくことで、学校評議員の役割を理解していただけるようにする。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	学校評議員会議開催回数	3.24回	3回以上	3回以上

事業番号 30	元気な学校をつくる地域連携推進事業	担当	指導課
---------	-------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	
施策	施策2 学校経営の改善・充実	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地域の方々の児童生徒の活動にかかわる取り組みの機会を増やし、学校に協力いただくとともにより深く学校を理解していただき、地域で子どもを育てると意識を高める。また、学校応援団員の専門的な知識やすぐれた技術など、地域の教育力を学校教育に積極的に活用し、より効果的な学習活動を推進する。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校 33校
事業の内容	学校が積極的に家庭や地域社会の教育にかかわることにより、学校の活性化を図るとともに、家庭や地域社会の教育力の向上を目指し、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもの育成に取り組む。地域から学校応援団を組織するとともにコーディネーターを介して、学校に対しての学習支援や環境整備、児童生徒の安全確保・事故防止の支援などを行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	220 千円	438 千円	401 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校応援団員数	9,510人	6,918人	7,376人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動日数	8,892日	9,751日	9,938日	各学校の学校応援団活動日数合計

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	学校の活性化を図り、家庭や地域の教育力の向上を目指すため、学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組むことが求められており、各学校における学校応援団の役割は大きい。市内全小・中学校で学校応援団の組織率は100%で、各学校には学校応援コーディネーターが配置されている。学校応援団による安心安全、学習支援、環境整備、体験活動などの活動が行われており、各学校において一層の教育活動の充実が図られた。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、家庭や地域の教育力の向上につながっている。
今年度の特色・改善点等	市内全小・中学校に学校応援コーディネーターが配置されており、ボランティアと学校の橋渡し役となって、学校の教育活動の充実のために活躍している。学習活動、安心安全、環境整備、体験活動、部活動等、生徒指導、環境教育、学校ファームに係る活動が年々充実してきており、学校応援コーディネーターを中心に地域的な活動として定着してきている。今年度の学校応援団活動日数は、昨年の9,751日から9,938日と増加した。また、賠償責任保険を市独自で予算化し、活動を支援している。今年度の学校応援団員は、事故や怪我もなく活動できた。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	学校応援団活動日数	9,938日	10,000日	10,000日

事業番号 31	小中学校教育教材整備事業	担当	教育総務課
---------	--------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	授業等で使用する学習教材、教具の整備・充実に努め、学習環境を整備する。
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒（平成26年5月1日現在） 小学校・・・児童数12,138人 中学校・・・生徒数 6,320人
事業の内容	授業等で使用する学習教材の整備

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	38,288千円	35,194千円	31,978千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
小学校の児童1人当たりの支出額	1,678円	1,614円	1,570円	小学校事業費/児童数
中学校の生徒1人当たりの支出額	2,724円	2,418円	2,046円	中学校事業費/生徒数
備品購入費（小学校）	26,591千円	19,758千円	19,012千円	
備品購入費（中学校）	17,297千円	15,435千円	12,926千円	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度も限られた予算の中で、学校からの購入計画を基に、学校規模に応じて備品を効率的に整備した。理科備品については前年度同様国庫補助金「理科教育等設備整備費補助金」を活用した。</p> <p>平成24年度から導入した備品管理システムへの全備品データ（教材・管理備品）の移行が平成26年度で完了した。これにより、学校全体の備品整備状況が把握しやすくなるので、より効率的な予算執行が可能となる。</p> <p>今後も子どもたちが安心して授業を受けることができる学校環境整備のひとつとして教材備品を整備することは重要であり、予算を維持し、学校と教育委員会が協力して効率的な教材備品購入を継続していく。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>平成24年度から続けてきた学校備品管理担当者の会議を今年度も継続的に実施した。25年度は教材備品データを紙台帳から備品管理システムへ移行作業を実施し、今年度は管理備品データを備品管理システムに移行できた。これにより、学校備品管理がシステムに一本化され、学校間で统一的に業務できるようになった。今後は効率的な備品購入、予算執行が可能となる。</p> <p>また、各小中学校のグランドピアノは修理を重ね、長年使用してきたが、これ以上の修理に限界が来ており、専門家による全校のグランドピアノ状況調査を実施した。これにより、各学校のグランドピアノの入替順位を決定し、今年度から毎年度小学校1台中学校1台ずつ新機種の入替を実施していく。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	備品購入費（小学校）	19,012千円	19,433千円	19,500千円
	備品購入費（中学校）	12,926千円	14,525千円	14,600千円

A

事業番号 32 小中学校校舎改築事業

担当 教育総務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策 施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地震発生等の災害時に児童生徒の安全を確保するとともに、時代の変化に対応できる学校施設整備を図るため
事業の対象 対象数	昭和39年以前に建築された校舎が残る、富士見小学校、中央小学校、上尾中学校の3校を対象とする。
事業の内容	<p>耐力度調査、基本設計、実施設計を経て改築工事を実施する。富士見小学校については、全面改築とし平成23年度に竣工、また、中央小学校は、南校舎棟の部分改築で平成25年度に竣工した。</p> <p>上尾中学校については、プール・格技場を平成26年度に竣工している。残る南校舎及び屋内運動場を平成27年度中に竣工予定であり、併せて北校舎大規模改造工事及び外構工事等も平成27年度に竣工する予定である。この上尾中学校改築事業の完了をもって、小中学校の耐震化率が100%に達する。</p>

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	323,419 千円	1,473,461 千円	829,322 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
富士見小学校校舎改築工事出来高率（%）	—	—	—	平成23年度竣工
中央小学校南校舎改築工事出来高率（%）	20%	100%	—	平成25年度竣工
上尾中学校校舎改築工事	基本設計 耐力度調査	実施設計	南校舎20% プール・格技場竣工	平成26年度～27年度南校舎（改築中） 平成26年度プール・格技場改築（竣工） 平成27年度屋内運動場（竣工予定）
改築事業完了校累計数	1校／3校	2校／3校	2校／3校	改築事業校：3校 （富士見小・中央小・上尾中）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度末に上尾中学校のプール・格技場を竣工し、平成26～27年度の継続改築事業の南校舎も8月末の竣工に向けて、順調かつ計画的に事業展開をしている。また、平成27年度中には、屋内運動場の改築工事も竣工予定であり、この事業の完了で市内全小中学校の全ての耐震化事業が完遂する。</p> <p>また、時世に即した改築事業を行うことで費用対効果が図られると共にトイレのリニューアル化も完了し、健康管理や心の育成にも寄与している。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>○上尾中学校改築事業の予定</p> <p>平成26年度～27年度 南校舎改築工事（平成27年8月末日竣工）</p> <p>平成26年度 プール・格技場改築工事（平成27年3月末日竣工）</p> <p>平成27年度 屋内運動場改築工事（平成28年3月末日竣工（予定））</p> <p>北校舎大規模改造工事（平成28年1月末日竣工（予定））</p> <p>※上尾中学校の改築事業の完遂をもって、耐震化率が100%になる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	改築事業完了校累計数	2校／3校	3校／3校	—

事業番号 33	小中学校コンピュータ整備事業	担当	教育総務課
---------	----------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの情報活用能力を育成するための教育機器の整備 ICT（情報通信技術）を活用した効率的な授業実現のための授業支援機器の整備 校務の効率化のための校務機器の整備
事業の対象 対象数	小・中学校の児童・生徒及び教職員 小学校・・・児童数12,138人 教職員数601人 中学校・・・生徒数 6,320人 教職員数374人
事業の内容	学校に配置しているコンピュータシステムの整備及び整備機器の保守 ※パソコン2,532台（教育用1,454台、校務用1,078台）、プリンタ、その他周辺機器

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	117,939 千円	124,925 千円	145,610 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
教育用パソコン設置台数	1,453台	1,456台	1,454台	年度末現在
校務用パソコン設置台数	1,080台	1,096台	1,078台	年度末現在
教育用パソコンの目標達成値 (児童生徒3.6人に1台)	13.0人 に1台	12.8人 に1台	12.6人 に1台	児童生徒数÷教育用パソコン設置台数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>校務用パソコンにおける文科省の達成値（教職員1人に1台）についてはすでに実現できている（1.1人に1台）が、教育用パソコンにおける達成値（児童生徒3.6人に1台）には、いまだに実現できていない。</p> <p>教育用パソコンを増台するには、普通教室で使用するパソコン、タブレットの導入が必要となるが、普通教室にネットワークがない現状ではなかなか増台もできない。</p> <p>また、普通教室への無線LANによるネットワークの設置についても構築費用が高額であるため、小中学校全校への構築には時間を要する。したがって、段階的な導入など、上尾市にとって最も効率のよい方法を先進市の構築例を参考に、研究、模索する必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>マイクロソフト社のサポートが切れ、セキュリティに関し不安のあったWindows XPの校務用パソコンが575台あったが、平成26年10月1日付をもって、すべてWindows7パソコンとし、リース契約にて導入した。</p> <p>平成27年3月中にネットワーク業者及びパソコン保守業者から、無線LAN構築が出来るネットワーク機器の無償貸出、実証実験の提案を受けており、現在上尾市に導入可能か検討している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	教育用パソコンの目標達成値	教育用パソコンの目標達成値は、校内LAN構築の状況次第であるため、当面の間、現台数を維持していく。	

事業番号 34

小中学校電子黒板整備事業

担当

教育総務課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子どもたちに授業に対する興味・関心を持たせ、集中力を高められるようなインパクトのある授業を実現するため、電子黒板としての大型テレビを整備する。
事業の対象 対象数	小・中学校の（小学校）518台〔通常学級＋特別支援学級＋特別教室用4台（1校につき）〕 設定必要台数（中学校）254台〔通常学級＋特別支援学級＋特別教室用5台（1校につき）〕 小中学校学級数（小学校）401学級（中学校）201学級
事業の内容	市立小中学校33校への大型テレビ、電子黒板ユニットの整備 ※電子黒板用大型テレビ総数 772台（小518台、中254台） ※電子黒板ユニット総数 381台（小289台、中92台）

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	4,712千円	4,620千円	2,634千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
大型テレビ設置台数（小学校）	487台	489台	518台	
大型テレビ設置台数（中学校）	117台	137台	254台	
電子黒板ユニット設置台数（小学校）	223台	289台	289台	
電子黒板ユニット設置台数（中学校）	70台	92台	92台	
大型テレビ設置率（小学校）	98.2%	94.4%	100%	設置台数／必要台数
大型テレビ設置率（中学校）	46.0%	53.9%	100%	設置台数／必要台数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>大型テレビが小中学校の普通教室等に設置されたことにより、大型テレビ、デジタル教科書、小学校ではタブレットと、授業に活用できるICT機器がひとつと揃った形となった。</p> <p>機器整備は完了した形になったが、今後はこれらICT機器を現場の先生が多くの場面で使用できるか、授業に有効に活用できるか、また、子どもたちの授業への興味・関心度が上がり、学業向上につなげるかに視点を向けていく必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>平成21年度の地デジ化事業以来、大型テレビの追加配置ができず、既存の大型テレビを電子黒板とするための電子黒板ユニットを購入してきたが、電子黒板ユニットより大型テレビを早く設置してほしいとの学校の強い要望から、今年度は小学校29台、中学校117台の大型テレビを追加設置できた。これにより、大型テレビの設置必要台数が小中学校とも揃い、設置率100%となった。それ以降、普通教室での大型テレビの活用率が徐々に増えてきている。</p> <p>なお、普通教室への大型テレビ設置が今年度達成したことから電子黒板整備事業は今年度にて満了とする。今後、故障等で買い替え等が発生した場合は、小中学校管理運営事業にて対応する。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
S

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
大型テレビ設置率（小学校）	100%	—	—
大型テレビ設置率（中学校）	100%	—	—

事業番号 35	児童生徒安全推進事業	担当	学校保健課
---------	------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校管理下における児童生徒の安全確保を図るとともに、健康教育向上に資する。
事業の対象 対象数	小・中学校児童生徒（平成26年5月1日現在） 小学校の児童 12,138人 中学校の生徒 6,320人
事業の内容	学校管理下における児童生徒の事故に備え、教職員への応急手当（心肺蘇生法）講習を行うとともに、事故等に対し、その医療費等を補償する。また、児童生徒の登下校等の安全確保のため、防犯ブザーを貸与する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	20,567千円	24,082千円	23,026千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
新規防犯ブザー貸与数	2,160人	2,210人	2,080人	市内小学校22校の新1年生に配布
スポーツ振興センター 災害共済加入負担金	17,650千円	17,448千円	17,310千円	
全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	—	100%	100%	心肺蘇生法講習等を指導する応急手当普及員の資格を持つ教職員が在籍する学校（平成25年度より配置）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特徴・改善点等	<p>学校管理下における児童生徒の安全確保のため、心肺蘇生法講習会（プール開始前に教職員に対し実施）、防犯ブザーの貸与（登下校時の犯罪抑止）、タクシー借上料（緊急時の病院への搬送）の事業を行っている。これらの事業により、大きな事故発生や犯罪の防止につながり、効果があったと思われる。</p> <p>また、学校管理下で起きた事故や病気については、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度より、事故発生から治癒まで負担した医療費を給付している。さらに、児童生徒に賠償責任がある場合にも保険加入しているため、保護者の負担軽減になっている。さらに、大規模災害時の安全対策として、平成23年度末に改訂した上尾市学校安全マニュアル（防災編）をもとに、平成26年度においても上尾市立小・中学校一斉避難訓練を行い、学校・地域・教育委員会の連携を図った。</p>
	<p>消防署の協力を得て、応急手当普及員資格取得の研修を行い、研修終了した教職員が、自校において講師となり、他の職員に心肺蘇生法の研修を実施した。今後も応急手当普及員の在籍率を100%維持できるよう、事業を進めていく。なお、人事異動等により応急手当普及員不在などの学校には、心肺蘇生法研修実施にあたりアドバイザーとして消防職員の派遣をお願いしている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	100%	100%	100%

事業番号 36

学校安全パトロールカー事業

担当

学校保健課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市内各中学校11校に、学校安全パトロールカーを配備し、教職員、PTA、事務区などと連携し、地域防犯パトロールを実施し、登下校の安全と地域の犯罪抑止力を期するもの。
事業の対象 対象数	小・中学校児童生徒（平成26年5月1日現在） 小学校の児童 12,138人 中学校の生徒 6,320人
事業の内容	各中学校校区単位に青色回転灯とスピーカーを装備した白黒ツトンの巡回用パトロールカーを配備し、学校・PTA・事務区等の協力のもと、学校内パトロールを実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,355 千円	3,208 千円	3,351 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
月あたりパトロール回数	15.6回	15.3回	16.1回	
登下校時の交通事故件数	13件	4件	13件	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校・家庭・地域が連携をして活動する「学校安全パトロールカー事業」も今年度で7年が経過し、地域の実態に合わせ、組織的に取り組むことが定着してきた。学校だけでは補えないパトロール活動に対し、保護者や地域の方々が積極的に参加していただける状況も整い、月当たりのパトロール回数も増加している。子どもたちが安全に登下校を行えるのは、この事業を中心とした地域の見守り活動によるものである。今後も、「地域の子どもたちを地域で守る」の具体的な取り組みとして着実に浸透させていく。</p> <p>平成26年度の成果として、月当たりのパトロール回数が増加した。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>警察からの防犯速報を各学校に情報提供することで犯罪・不審者の防止の抑止力につながった。運転者登録・パトロール実施者証取得者の増加に伴い、より効率的な運用が必要である。また、車両修繕費の保険で適応できない部分も検討が必要である。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	登下校の交通事故件数	13件	0件	0件

事業番号 37	通学路安全対策事業	担当	学校保健課
---------	-----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	他市での登下校中の交通事故が相次ぎ、市として通学路の安全確保に集中的に取り組むことを目的とする。
事業の対象 対象数	平成25年度 14か所の対策を実施 平成26年度 8か所の対策を実施
事業の内容	市PTA連合会からの通学路危険箇所改善要望を基本とし、市が実施すべき改善内容のうち、必要性緊急性が高い箇所の改善対策を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	8,264 千円	5,124 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
危険箇所改善要望箇所数	168箇所	164箇所	161箇所	小学校通学路に関する改善要望箇所数
学校管理下での児童の交通事故件数	7件	1件	5件	児童が学校管理下内で交通事故にあった件数
安全対策実施箇所数	—	14箇所	8箇所	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>他市での登下校中の交通事故があり、平成24年6月市議会定例会において、通学路の改善要望の進捗についてなど通学路の安全対策に関する一般質問が出されるなど、通学路の安全対策は、緊急かつ集中的に取り組む必要がある。</p> <p>そのため、関係各課により改善に取り組むために調整会議で検討重ね、市PTA連合会からの通学路改善要望をもとに、改善箇所を抽出し、市が行うべき改善対策を学校保健課の事業として平成25年度から通学路安全対策事業を実施している。</p> <p>このことにより、通学路危険箇所の改善が確実に進んでいる。</p> <p>なお、検討を重ねる中で、平成28年度以降の通学路安全対策の取り組み方法について、さらに調整が必要である。</p>
	<p>計画的、かつ集中的に事業に取り組んでいることから、今年度から国の補助金を活用している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	学校管理下での児童の交通事故件数	5件	0件	0件

事業番号 38	入学準備金・奨学金貸付事業	担当	教育総務課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進		
施策	施策6 就学支援の充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	進学を意欲を有する者で経済的な理由により就学困難なもののために、入学準備金又は奨学金の貸付けを行い、教育の振興を図る。
事業の対象 対象数	市内に引き続き1年以上居住し市税を完納している世帯の保護者（入学準備金）、子女（奨学金）
事業の内容	<p>入学準備金 ①高等学校（特別支援学校含む）・高等専門学校・専修学校高等課程 公立…20万円 私立…30万円</p> <p>②短期大学・大学・専修学校専門課程 公立…30万円 私立…50万円</p> <p>奨学金 ①高等学校（特別支援学校含む）・高等専門学校・専修学校高等課程 月額1万円 ②短期大学・大学・専修学校専門課程 月額2万円</p>

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,083 千円	5,183 千円	5,922 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
貸付件数	11人	17人	20人	新規・継続貸付人数
高校進学率	98.2%	98.9%	98.7%	高校等進学者／市内中学校卒業生

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>入学準備金・奨学金の貸付けは、独立行政法人日本学生支援機構や埼玉県をはじめ複数の制度があり、各自治体においても独自の制度を設けている。多様な貸付制度の中から利用者が自身の経済状況等を踏まえ、貸付条件や返還条件等を検討し、最も適した制度を選択できる状況を用意することで、経済的理由による就学困難者の救済に寄与することから、本事業の役割は大きい。</p> <p>平成22年度から高校授業料の無償化が開始されたが、毎年度、入学準備金・奨学金の貸付け件数は合わせて10件以上の実績がある。経済的支援は数値目標が設定しにくく、貸付件数等の増減をもって評価することは困難であるが、利用希望者もいることから事業を継続する。経済的理由で進学を断念することがないよう、必要としている者に制度を周知していく。</p>
今年度の特色・改善点等	AO入試や推薦入試による早期合格者の入学手続き時期（秋頃）に、入学準備金の貸付ができるよう検討している。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	—	—	—	—

事業番号 39 事業番号 41	小・中学校就学援助費補助事業 準要保護児童生徒給食費援助事業	担当	学務課・ 学校保健課
--------------------	-----------------------------------	----	---------------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	経済的理由により就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対し、就学に必要な費用を支給することにより、児童生徒の就学に係る経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。
事業の対象 対象数	対象者 就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者 対象となる児童生徒（平成26年度 児童 1,049人、生徒 678人）
事業の内容	経済的理由により就学が困難と認められる市立小中学校在籍児童生徒等の保護者に対して、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の就学に必要な経費の一部を援助する。

●事業費決算額の推移

年度	事業名	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	小中学校就学援助補助事業	47,820千円	49,279千円	52,398千円
	準要保護児童生徒給食費補助事業	66,613千円	68,624千円	83,069千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
就学援助認定者数	1,614人	1,637人	1,727人	認定人数
就学援助認定割合	8.6%	8.8%	9.4%	認定人数／市内全児童生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	長引く景気の低迷など、社会状況の変化により、経済的に困窮する世帯が増えている中、就学援助制度により、生活保護世帯が対象となる要保護に準じる程度に困窮した保護者を援助することで、憲法第26条の「すべての国民が教育を受ける権利」や教育基本法第4条の「教育の機会均等」を保障し、経済的理由による教育格差の無い円滑な義務教育の実施を実現することができている。市内小・中学校に在籍する児童生徒に対して就学援助申請の案内を配布するとともに、「広報あげお」や「上尾市 Web サイト」等の広報媒体を活用することにより十分な周知が図られ、適正に事務が進められており、上尾市教育振興基本計画の基本目標Ⅲ施策6「就学支援の充実」を推進するために必要な事業となっている。
今年度の特徴・改善点等	今年度の就学援助の認定者及び認定割合も増加傾向にあり、経済的に就学が困難と判断される家庭が増えている。平成25年8月から生活保護基準の見直しが行われ、就学援助制度への影響が懸念されている中、就学援助認定基準等の見直しの検討を行い、今年度はその影響が及ばないよう認定基準を維持し、引き続き、増加する経済的な理由で就学が困難と判断できる家庭への援助を行った。平成27年度に向け、生活保護基準の引き下げに連動した基準にすることやその影響を最小限に抑えられるような検討を行っている。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	—	—	—	—

事業番号 40

要保護児童生徒医療費援助事業

担当

学校保健課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	経済的な理由により、就学困難な児童生徒の保護者に対して、学校病（伝染性または学習に支障を生じる恐れのある疾病で、学校保健安全法施行令第8条で定めるもの）について医療費の援助を行う。
事業の対象 対象数	上尾市立小・中学校に通う要保護児童・生徒のうち学校病の治療を必要とする者 平成26年度実績 27人
事業の内容	生活保護受給者（要保護）に対し、学校保健安全法施行令第8条で定めた学校病に係る医療費を援助する。 （国庫補助事業）

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	197 千円	507 千円	516 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
医療券交付人数	54人	69人	71人	要保護児童のみ対象
医療券使用人数	16人（1人）	31人（2人）	27人（－）	（ ）内は前年度未請求分
医療券使用人数割合	29.6%	44.9%	38.0%	医療券使用人数/医療券交付人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	要保護児童・生徒の学校病（伝染性または、学習に支障を生じる恐れのある疾病で、学校保健安全法施行令第8条で定めるもの）については、医療券を発行し治療を促している。各学期ごとに医療券の使用状況を学校へ確認したことや、治癒になるまで治療を継続するよう促したことにより医療券交付人数が増えた。今後も学校病の完治にむけ、継続して支援していく必要がある。
今年度の特色・改善点等	1人の児童生徒が、複数の医療券を使用し治療を行った為、1人当たりの医療費がふえた。3月末日までの医療券使用者が、3名いるため来年度の請求となる。医療券発行をしても、未使用のまま返却される医療券が多数あり、治療をしていないことが課題である。保護者への働きかけをさらに行う必要がある。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
B

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
医療券使用人数割合	38.0%	50.0%	55.0%

基本目標Ⅳ

学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

事業番号 42 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業【Ⅰ-5】

事業番号 30(再掲) 元気な学校をつくる地域連携推進事業

施策2 家庭教育の充実

事業番号 43 家庭教育推進事業

事業番号 42	幼稚園・保育所と小学校との連携推進事業	担当	指導課
---------	---------------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	
施策	施策5 幼児教育の推進	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	急激な社会の変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している中、幼児の育ちについて様々な課題が指摘されている。そうした状況の中、幼児教育の充実、幼稚園・保育所等幼児教育と小学校教育との連携・接続の重要性が強調される。 本事業は滑らかな接続の在り方、子ども・教員・保護者の連携や交流の在り方を研究するものであり、幼児期から児童期への滑らかな接続が期待でき、それぞれに教育効果が高まる。さらに、幼児・児童が交流することで思いやりや尊敬等の心の育成が図られる。
事業の対象 対象数	上尾市立幼・小学校の教職員、幼稚園・保育所・保育園の教職員、市民
事業の内容	幼児期から児童期への滑らかな接続・移行のため、各学校間における教員・子ども・保護者の適切な連携や交流の在り方について研究し、「接続期プログラム集」を作成するとともに、保護者用啓発リーフレットを作成する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	393 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
幼・保・小合同研修会回数	1回	1回	1回	幼児教育に係る研修会実施回数
幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%	研修会参加校数/22校×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>幼児教育の推進を図るためには、すべての小学校に、幼児教育振興協議会を設置し、滑らかな接続が推進されるよう適切な支援を指導していく必要がある。そのためにも教員の指導力・資質の向上、理解の促進は欠かせない。今年度も、上尾市にある幼稚園・保育所・保育園と小学校の連携を積極的に推進してきた。各学校においては、小1プロブレムを起こさせないためにも、積極的に情報交換や相談を行った。一人一人の実態把握に努め、きめ細かな支援により、小学校入学を支援することができた。</p> <p>また、教育委員会として、家庭への啓発を推進するため、埼玉県教育委員会の方針に従い、上尾市版「子育ての目安「3つのめばえ」」を作成した。それを周知するために、市民向け「ポスター」、教職員向け「接続期プログラム集」、家庭向け「啓発リーフレット」の3つの大きな柱を進めることができた。</p> <p>市民に対しても、連携の大切さを理解促進する機会として有意義な事業であった。</p>
今年度の特色・改善点等	今年度は、市民向け「ポスター」、教職員向け「接続期プログラム集」、家庭向け「啓発リーフレット」のさらなる周知と活用を推進していく

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%

事業番号 43	家庭教育推進事業	担当	生涯学習課
---------	----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子育て中の親に対し、子どもが生活のために必要な習慣を身につけ、自立性を育むための家庭教育に取り組めるよう、学習機会や情報について、学校等や地域と家庭の連携を図りながら提供する。
事業の対象 対象数	・幼児～中学生の子どもを持つ保護者と小中学校PTA会員 ・市内幼稚園保護者会・上尾市PTA連合会
事業の内容	家庭教育推進のため、家庭教育をテーマにした講演会の開催などの啓発事業を行う。家庭教育講演会は市PTA連合会の研究大会の講演会と合同で実施。また、市PTA連合会に市PTA連合会で定める「家庭教育行動指針」を啓発する事業を委託。また、家庭教育に関する講座等を行う市内幼稚園の保護者会を支援している

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	490 千円	490 千円	490 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
家庭教育講演会開催数	1回	1回	1回	
市内幼稚園保護者会への補助件数	5団体	4団体	4団体	
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,552人	1,333人	1,263人	幼稚園保護者会で開催した家庭教育に関する講座及び市とPTA連合会の共催で行った家庭教育講演会の参加者数の合計

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>平成26年度については、市PTA連合会と共催で家庭教育講演会の実施や家庭教育に関する講座等を行っている幼稚園保護者会4団体への補助金の交付を行った。家庭の教育力の低下が指摘される中、子育て中の親に対する家庭教育に関する学習機会の提供を効果的、効率的に行うことができた。</p> <p>また、市PTA連合会に委託して「家庭教育行動指針」のリーフレットを作成し、啓発を行った。「あいさつをしよう」「こどもをほめよう」「会話をしよう」という行動を呼びかけるこの事業は、実際に子育てを行っている世代の団体である市PTA連合会が自ら企画制作しており、団体が主体的に取り組んでいるという点においても効果的に啓発することができた。</p>
	<p>昨年度まで市内幼稚園保護者会に家庭教育に関する講座等を委託する形で行っていた事業を、今年度から、市内幼稚園保護者会が行っている家庭教育に関する講座等に補助金を交付する形に変更し、より支援を受けやすく、主体的に事業を行ってもらえるようにした。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,263人	1,300人

基本目標 V

生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実

事業番号 44 生涯学習指導者活動推進事業【V-3】

施策2 生涯学習施設の整備

事業番号 45 学校施設開放(生涯学習)事業

施策3 生涯学習機会の提供

事業番号 44(再掲) 生涯学習指導者活動推進事業

事業番号 46 成人式事業

事業番号 47 日本の伝統と文化の学習推進事業

事業番号 48 大学等との連携による生涯学習推進事業

事業番号 49 公民館講座事業

施策4 人権教育の推進

事業番号 50 人権教育推進事業(生涯学習課所管分)

事業番号 51 人権教育集会所運営事業

施策5 図書館運営の充実

事業番号 52 図書館資料整備事業【II-1】

事業番号 53 子どもの読書活動支援センター運営事業【II-1】

事業番号 54 ブックスタート事業

事業番号 55 (仮)中央図書館整備事業

事業番号 56 セカンドブックスタート事業

事業番号 44	生涯学習指導者活動推進事業	担当	生涯学習課
---------	---------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標V生涯にわたる豊かな学びのサポート		
施策	施策1生涯学習体制の充実	施策3生涯学習機会の提供	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学んだ成果の活用、市民の学びたい事業の実施を行うため、生涯学習指導者の活動を支援する。
事業の対象 対象数	市民、まなびすと指導者バンク登録者、まなびすと指導者バンク活動推進会議会員
事業の内容	<p>学んだ成果を活かすため、まなびすと指導者バンクの運営を行う。また、まなびすと指導者バンク活動推進会議による市民講座の企画運営事業を支援し、市民に対して学びのきっかけを提供するとともに学んだ成果を活かす活動の推進を図る。</p> <p>なお、まなびすと指導者バンクに登録しているボランティア指導者の技量の向上を図るため、養成講座を開催している。</p>

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	431 千円	1,165 千円	335 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	96人	109人	110人	各年度末
市民講座（実施講座数）	51講座	37講座	42講座	
市民講座（参加者数）	617人	429人	500人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>市民の生涯学習活動を支援し、学んだ成果を活かす場として、まなびすと指導者バンクや市政出前講座を運営し、指導者や講座情報の提供を行った。また、生涯学習活動グループ情報について取りまとめを行い、市民にグループ情報の提供を行った。</p> <p>今年度のまなびすと市民講座は42講座が実施され、500人の参加があった。市民自らが生涯学習指導者となり、学校開放施設を活用してまなびすと市民講座を開講するこの事業は、まなびすと指導者バンク活動推進会議による講座の企画と運営で実施された。</p> <p>その結果、市民が生涯学習活動で学んだ成果をいかし、幅広い分野において魅力的な学習機会を提供することができた。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>まなびすと指導者バンクの登録者の幅を広げるために、調査や登録を促す活動を行った。また、指導者のガイドブックを作成し、周知に努めた。</p> <p>まなびすと市民講座については、一部講座で受講希望者が少なく開講に至らない講座が多いが、前年度と比較して実施講座数・参加者数共に増加している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	まなびすと市民講座（実施講座数）	42講座	40講座	40講座

事業番号 45 学校施設開放（生涯学習）事業

担当 生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標 基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策 施策2 生涯学習施設の整備

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民の学びの場、また、余暇活動の充実を図る場として、学校の特別教室を活動拠点施設として活用してもらうため、地域に開放する。
事業の対象 対象数	市内に在住・在勤・在学の方で構成された施設利用登録をしている生涯学習団体。 登録団体数 78団体
事業の内容	平日の夜間及び土日、平方東小学校・芝川小学校・富士見小学校の特別教室の一部を地域に開放する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	1,754千円	1,593千円	1,985千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
利用団体登録	71団体	88団体	78団体	
利用件数	672件	759件	896件	
利用者数（延べ人数）	7,676人	7,677人	9,350人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>生涯学習や社会教育の場の確保を目的として、学校の特別教室の一部を無料で開放する事業である。平成26年度は、全体的に利用件数は増加しており、市民の学習の場としての役割を果たしている。</p> <p>また、開放施設を利用して、まなびすと指導者バンク活動推進会議に委託した市民講座を開催しており、市民の自発的な学習活動を推進する拠点としても役割を果たしている。</p>
今年度の特色・改善点等	富士見小学校は開放以来利用件数は増えている。また、芝川小学校の利用件数も徐々に増えている。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
利用団体登録数	78団体	80団体	80団体
利用件数	896件	900件	900件

事業番号 46	成人式事業	担当	生涯学習課
---------	-------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	20歳を迎えた、あるいは迎える若者が成人としての自覚を高められるよう、20歳を祝う成人式を実施する。
事業の対象 対象数	平成6年4月2日から平成7年4月1日までに出生した市内在住の人。また、現在は市外に居住しているものの、中学校卒業時に上尾市内に在住していた人。対象者2,292名（男性1,175名 女性1,117名 平成26年11月1日時点）
事業の内容	アトラクションと式典の2部構成で実施し、新成人の前途を祝福する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	991 千円	1,049 千円	1,133 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
成人式対象者	2,099人	2,247人	2,292人	
成人式参加者	1,533人	1,600人	1,785人	
参加率(%)	73.03%	71.21%	77.88%	参加者/対象者×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>成人式は、新成人の門出を祝福し、成人としての自覚を高めるための事業として実施している。</p> <p>公募及び市内各中学校から推薦された新成人（各校2名ずつ）で構成される成人代表者会議が主体となって、式典の進行やアトラクションの企画を行っており、成人としての自覚や責任を持って成人式の運営が行われている。近年は新成人が式典中の私語をせず、落ち着いて式典に臨む傾向があるため、この効果は参加する新成人にも波及している。</p>
今年度の特色・改善点等	今年度の成人式は大きな混乱もなく、穏やかに挙行された。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	成人式参加率	77.88%	75%	75%

事業番号 47

日本の伝統と文化の学習推進事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	多様な学びの機会を提供する事業として、奥行きが広い日本の伝統文化を知るきっかけづくりを目的とする。
事業の対象 対象数	市内に在住・在勤・在学の人、30人（1回）
事業の内容	日本の文化・心をテーマとし、日本の伝統と文化に関する理解を深める。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	152 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
講座回数	— 回	— 回	6回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	奥行きが広い日本の伝統文化について、「おとなの“NIPPON”講座」を開催し、日本の文化や心をテーマに、新規事業として「小笠原流礼法」、「小鹿野歌舞伎」、「絵巻物」の3講座を実施した。それぞれ、普段触れることの少ない内容であり、講義のほか実技も交えた内容で、より深い日本の伝統文化を学ぶきっかけづくりのできる機会を提供することができた。
今年度の特色・改善点等	新規事業であり、講座のテーマ設定には、市民が知りたいと求める「伝統文化」を選択することが難しかったが、家元後嗣による指導をはじめとして、対象となる内容の第一人者による講義を行うことができ、レベルの高い講座となった。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
講座回数	6回	6回	6回

事業番号 48	大学等との連携による生涯学習推進事業	担当	生涯学習課
---------	--------------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	大学等の教育機関や民間企業と連携し、市民の学習ニーズに沿った多様な学びの場の提供を行う。特に、子ども大学については、子どもたちの知識向上や知的好奇心を刺激し、学習意欲の向上を図る。
事業の対象 対象数	聖学院大学公開講座：参加者262人（上尾市在住は60人） 子ども大学あげお・いな・おけがわ：上尾市・伊奈町・桶川市に在住の小学校4年生から6年生 参加者60人（上尾在住は30人） あげお子ども大学：上尾市在住の小学校5・6年生 参加者30人
事業の内容	聖学院大学公開講座の実施及び聖学院大学・日本薬科大学等との連携による子ども大学の実施。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	50 千円	109 千円	278 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
聖学院大学公開講座受講者数	243人	230人	262人	
子ども大学あげお・いな・おけがわ応募者数	94人	69人	166人	
あげお子ども大学応募者数	— 人	— 人	43人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>（聖学院大学公開講座） 第1講座「埼玉学—地域に学ぶ・地域で学ぶ、埼玉の人文」、第2講座「役に立つ英会話講座（初級・中級ステップアップ）」、第3講座「パソコン講座」、第4講座「女声コーラス」の内容で実施した。第1講座は毎年内容を変えており、今年度は地域に根差したテーマの学習機会を提供することができた。</p> <p>（子ども大学あげお・いな・おけがわ） 上尾市・伊奈町・桶川市の3市町から計64名の児童が参加し、それぞれの大学・地域の特色が現れる講座に参加した。参加者の満足度も90%と非常に高く、また、保護者からも好評を得ている。今年度は応募数やリピーターも非常に多かったことから、事業として市民に定着している。</p> <p>（あげお子ども大学） 聖学院大学・埼玉大学・芝浦工業大学と協働し、上尾市の小学校5・6年生の児童を対象としたあげお子ども大学を今年度初めて実施した。子ども大学あげお・いな・おけがわと同様に、満足度も90%を超え、効果が高い事業となっている。</p>
	<p>子ども大学では、「大学」の講義であることを意識させ、理解度や満足度を向上させる工夫として、1つ1つの講義をレポートとして記録する「学習ノート」の作成を行った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	子ども大学あげお・いな・おけがわ 応募者数	166人	100人	100人

事業番号 49

公民館講座事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	各種の講座事業などを行うことによって、市民の教養や健康増進などの向上を図るとともに、地域における自主的・主体的な生涯学習を推進する。
事業の対象 対象数	市民の年齢や性別を問わず、広く市民を対象とする。
事業の内容	生涯学習の場の提供として、6公民館で講座事業を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,414 千円	3,361 千円	3,360 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
講座数	130講座	136講座	135講座	公民館まつりを除く
講座参加者数（延べ人数）	10,549人	11,427人	9,805人	公民館まつりを除く

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>社会教育法に基づく社会教育機関として、上尾・上平・平方・原市・大石・大谷の6つの公民館があり、上尾市の生涯学習や社会教育を行う拠点として、基幹的な役割を担っている。公民館事業として伝統文化・歴史文学、芸術、健康・スポーツ、生活、世代別事業などの講座等の事業を実施し、平成26年度には全公民館で135講座9,805人の参加があり、市民の学習活動の場と定着している。各公民館で行われる講座は年代や目的で分けて企画し、高齢者向け学級では延べ2,517人、子ども向け・親子向け教室では延べ813人の参加があるなど、市民の学習需要に応じた事業を実施している。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>多文化共生をテーマにした地域と向き合う事業や、特色のある事業として日本の伝統文化をテーマとした事業などに取り組んだ。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
講座参加者数（延べ人数）	9,805人	11,000人	11,000人

事業番号 50	人権教育推進事業（生涯学習課所管分）	担当	生涯学習課
---------	--------------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民を対象に、差別意識の解消に向けた人権教育・啓発を充実し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。また、小中学校においても「やさしい心を育む」・「他人の痛みに共感する力を育む」という2つの視点を持ち、人権を大切なものとして認めあえるような啓発活動の推進を図る。
事業の対象 対象数	・市民 ・市内小中学校の児童生徒 18,410人
事業の内容	上尾市人権教育推進協議会の開催及び、北足立北部地区人権教育推進協議会や各種団体が開催する研修会・会議等への参加。 市内小中学校児童生徒の人権標語コンクールの実施。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	991 千円	1,037 千円	1,074 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
人権標語作品応募点数	18,867点	19,203点	17,741点	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>（人権問題研修会）</p> <p>職員に向けての研修会では「差別の現実に学ぶ」ということをテーマに、差別をより身近なものとして実感し、職員として高い人権意識の必要性を自覚できるよう、差別を受けている当事者や差別の解消に取り組む方を講師としている。平成26年度は、元教師の当事者を講師として招き、差別を受ける側と指導する側、双方の立場に立った貴重な話を聞くことができた。また、市民に向けての研修会では、講師や参加者同士の対話が生まれるよう工夫し、参加者が人権問題を身近な問題として主体的に考えることのできるよう実施できた。</p> <p>（人権標語コンクール）</p> <p>子どもの頃から人権感覚をはぐくむことを目的に、全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施した。平成26年度は県が主催する「人権メッセージ」の募集に合わせて、募集の時期を早めたこともあり、例年に比べると応募数が減少した。多くの児童・生徒に対して人権意識の高揚を図るため、募集方法に工夫が必要である。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>埼玉県主催の「人権メッセージ」の募集と合わせて実施した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	人権標語作品応募点数	17,741点	18,000点

事業番号 51

人権教育集会所運営事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	人権教育推進プランを基にして、人権教育推進の拠点施設として、人権意識の普及啓発を行う。
事業の対象 対象数	市民全般
事業の内容	原市集会所・畔吉集会所の主催事業の実施

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	1,825 千円	1,685 千円	1,586 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
人権教育集会所主催事業参加者数	614人	711人	557人	
人権教育集会所利用者数	26,774人	25,491人	24,977人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>人権教育集会所の主催事業は、利用者間のふれあいを通して、人権意識及び文化的教養の向上のために平成26年度は原市集会所で19事業297人、畔吉集会所で14事業260人の健康、歴史、料理、親子教室など多様な事業を実施することができた。また、両集会所で展示・実演発表などのイベントを中心とした集会所まつりを実施した。平成26年度は1,100人を超える市民の参加があり、地域及び利用者間の交流を深めることができた。</p> <p>集会所利用者全員を対象として人権問題指導者研修会を実施した。平成26年度は外国人の人権問題をテーマとして実施し、449人の参加があった。多くの参加者が人権問題を自身の問題としてとらえ、偏見や差別を許さない実践力を身につけ、地域の核となることにより、地域社会の人権意識の高揚が図られている。</p> <p>集会所利用者数は例年25,000人前後を推移しており、県内の人権教育集会所の中でも高い水準を維持できているが、利用者の高齢化が課題となっている。そのため、若い世代を対象とした主催教室を実施するなど積極的に新規利用者の参入を図った結果、新しいサークルが結成されるなど一定の効果을上げている。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>原市、畔吉両集会所において、乳幼児とその保護者を対象とした事業を実施し、若い世代の集会所利用が促進された。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	人権教育集会所利用者数	24,977人	25,000人	25,000人

事業番号 52	図書館資料整備事業	担当	図書館
---------	-----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系		
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策Ⅰ 豊かな心の育成	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	図書館資料の充実を図り、市民の「くらしに役立つ 市民とともに歩む図書館」をめざす。
事業の対象 対象数	上尾市民と在勤・在学の人（広域・相互協定による、さいたま市・伊奈町・桶川市・蓮田市に在住の人）
事業の内容	図書館運営の根幹となる図書資料（書籍・新聞・雑誌・CD・DVD等）の整備を進め、図書館サービスの充実を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	37,783 千円	33,661 千円	36,704 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
蔵書数（全9館）	556,926 点	564,626 点	569,759 点	雑誌・視聴覚資料除く
蔵書密度（市民一人当たり）	2.55 点	2.58 点	2.49 点	蔵書数/人口
図書館利用者数（全9館）	440,036 人	417,909 人	415,969 人	
予約リクエスト件数（全9館）	208,466 点	202,944 点	209,632 点	予約（来館・OPAC・Web）
貸出密度（市民一人当たり）	6.39 点	5.90 点	5.85 点	貸出点数/人口

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>市民は、あらゆる表現の記録（資料）に接する権利を有しており、この市民の知る自由の手助けすることが、図書館の最大のミッションである。この責務を果たすため、図書館は資料を収集し、住民に提供している。ビジネス情報、健康・医療情報、法的情報、生活上の課題解決のための情報など住民の資料要求は、多様化、高度化している。これらの資料要求に応えるためデジタル資料を含めて広範な主題・多種類の資料を収集し、魅力ある蔵書構成の構築に努めた。また、予算の効率的な投資のため、本館・分館のネットワーク内での資料の分担収集に取り組むとともに、県内公共図書館、図書館類縁機関、大学図書館とのネットワークを利用して、資料を借り受けるなど、市民の資料要求に応えた。</p>
本年度の特色・改善点等	<p>費用対効果を高めつつ本館・分館の蔵書新鮮度を保つため慎重な選書を行い、図書館システム内の分担収集をより徹底する。市民の資料要求に応えるため大学図書館等との相互利用の可能性を検討する。利用者に占める高齢者の割合は確実に増加すると思われる。大活字本の計画的収集や高齢者のニーズに応える資料を念頭に選書・収集を行う。また、DAISY（録音図書）等障害者用資料収集の必要性・可能性を検討する。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	貸出密度（市民一人当たり貸出点数）	5.85 点	6.00 点	6.00 点
	蔵書数（全9館）	569,759 点	601,000 点	607,000 点

事業番号 53

子どもの読書活動支援センター運営事業

担当

図書館

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策1 豊かな心の育成	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	子どもの読書活動の推進を図るため、拠点となる「子どもの読書活動支援センター」を富士見小学校図書館内に開設し、上尾の子どもを本好きにするための事業を展開する。
事業の対象 対象数	18歳以下の子どもたちと保護者
事業の内容	家庭・地域・学校へ情報の収集・提供、講師の派遣、講演会・講座の開催、読書ボランティアの養成、出張おはなし会の開催

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,763 千円	8,179 千円	5,289 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
出張おはなし会	23回	39回	41回	ボランティア派遣を含む
読書ボランティア養成講座	21回	28回	20回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年8月から市内全小学生全員に「読書パスポート」を配付し、図書館の周知を図ったため、平成26年度小学生の図書館利用が急速に伸びた（年間利用者数・貸出数とも1.2倍）。学校・家庭・地域で読書パスポートを活用する機会をつくるため、学校などでの出張おはなし会のほか、子ども向け読書イベントの開催に重きを置いた。子どもたちに身近な場所でのおはなし会を開催し、上尾市子どもの読書活動推進計画のスローガンである「読み聞かせのまちあげお」を実現するためには市民のボランティアの力は必須である。支援センターで養成した読み聞かせボランティアは、これらの事業の担い手として活躍した。</p> <p>一方で、支援センター職員が中央小学校に出向いて、学校応援団の朝読書読み聞かせボランティア向けに早朝に行った初心者向けの読み聞かせ講座も、「図書館で行う講座には時間的にも参加が難しいが、このように身近な場所で参加しやすい時間帯に行う講座は参加しやすい」と学校の学校・参加者から好評を得た。支援センターには小学校教員経験者と読み聞かせボランティア熟練者を支援センター協力員として委嘱しており、ニーズにあわせた柔軟な講座が開催できる。今後、いろいろな学校でこのような講座を開催することで、ますます学校と図書館の連携が強化できる。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>支援センターで開催するボランティア養成講座は、「子どもの前で読み聞かせをしてみたい」という初心者を発掘するためには大変有効である。ボランティア養成講座を開催し、すぐに読み聞かせボランティアとして独り立ちさせることは難しい。選書や子どもたちへの声掛けには多くの経験が必要になるためである。講座修了後も継続してボランティアにアドバイスをし、活動をサポートしていく人材が必要になる。今後はボランティアの養成を継続することはもちろん、その活動を支える指導者としてのボランティアの育成にもつとめる。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	出張おはなし会	41回	35回	35回
	読書ボランティア養成講座	20回	20回	20回

事業番号 54	ブックスタート事業	担当	図書館
---------	-----------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	地域の子育て支援のため、市内で生まれた新生児と保護者を対象に、親子で絵本に親しみ、豊かな情操を育むことを目的に事業を行う。
事業の対象 対象数	新生児（4か月児健康診査対象者）1,825人
事業の内容	4か月児健康診査を受診した、新生児と保護者を対象に絵本と絵本リストが入った「ブックスタート・パック」を渡す。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	2,877千円	2,617千円	1,759千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
絵本配布回数（健康診査実施回数）	23回	24回	24回	
配布率	99.8%	99.8%	99.9%	配布人数/対象者
図書館利用者数（6歳以下）	2,351人	2,432人	2,724人	
児童書・紙芝居貸出点数	児童書	152,198点	149,001点	159,767点
	紙芝居	4,140点	4,572点	4,070点

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>平成20年度から始まったブックスタート事業は、受診率の高い保健センターの4か月児健診時に「ブックスタートパック（絵本2冊・あかちゃんえほんリスト・おはなしかいパンフ）」を配布するもので、毎年ほぼ100%に近い配付率を達成している。4か月児健診の待ち時間には、一人ひとりの赤ちゃんに読み聞かせをすることで、保護者に自分の子どもが絵本に興味をもつ姿を見てもらい、絵本はふれあいの一つの方法であると実感してもらっている。</p> <p>ブックスタートは、早い時期に子どもたちとその保護者に絵本、そして図書館利用を促す事業であり、さらに図書館では各年齢に応じたいくつかの事業を展開している。年間を通じて定期的に開催している、2歳児までの「あかちゃんおはなしかい」、2歳児からの「えほんの時間」、4歳からの「おはなしかい」、6歳児までの「おやこでえほんサロン」と、年齢を繋げた取り組みを実施している。この年代の利用者数は年度を追って増加の傾向を見せている。</p>
	<p>今年度は、「あかちゃんおはなしかい」2歳児からの「えほんの時間」6歳児くらいまでの「おやこでえほんサロン」の案内に力を入れた。小学生からのセカンド・ブックスタート事業を始めたことの相乗効果もあって、どの事業も参加者が増加した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	図書館利用者数（6歳以下）	2,724人	2,800人	2,900人

事業番号 55	(仮) 中央図書館整備事業	担当	図書館
---------	---------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	くらしに役立ち、市民とともに歩む23万都市にふさわしい図書館の建設を目指す。
事業の対象 対象数	上尾市民と在勤・在学の人（広域・相互協定による、さいたま市・伊奈町・桶川市・蓮田市）に在住の人
事業の内容	新たな図書館サービスの中央拠点となる（仮）中央図書館の整備を行うための準備をする。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	3,903 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
(仮) 中央図書館建設	—	—	基本構想	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾市図書館は、昭和56年6月に現在地に新築・移転し、築30年以上が経過した。施設面のほかに、近年の社会情勢の変化や図書館に対するニーズの多様化により、市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しむ公共空間として、生涯学習・社会教育環境を充実するための施設として、図書館システムの中心として新たな本館の整備が必要となって来ている。</p> <p>今年度は（仮）上尾市中央図書館建設懇話会での意見聴取を5回行い、「基本構想（案）」に反映した後、10月末～4週間において市民パブリックコメントを実施し「基本構想」を策定した。</p>
今年度の特色・改善点等	生涯学習・社会教育環境を充実させるため、市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しむ空間をコンセプトに、新たな図書館の整備に向けた「(仮称)上尾市中央図書館基本構想」を策定した。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	(仮) 中央図書館建設	基本構想	基本設計

事業番号 56	セカンドブックスタート事業	担当	図書館
---------	---------------	----	-----

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	小学校6年間にわたり、生涯にわたる読書習慣を身に付け、子どもたちに図書館、学校図書室に多く足を運ぶことを後押しすることを目的とする。
事業の対象 対象数	市内小学校児童 12,138人
事業の内容	「ブックスタート」の次のステップという意味で、文字が読めるようになり、知る喜びにあふれる小学校入学児童に、市内全小学校でおはなし会を行い、「読書パスポート」を配布する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	7,914 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
読書パスポート児童配付部数	—	—	12,264部	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>知る喜びにあふれる小学校1年生を対象に、8月下旬～11月上旬に市内全小学校でおはなし会を行い、「読書パスポート」を配布した。また小学生用の絵入りの利用カードも新たに作成し、パスポート配布の際、児童の保護者に絵入利用カード作成希望を募り、希望者には併せて配付した。</p> <p>「読書パスポート」には図書館利用案内や、調べ学習のしかた、年齢ごとのおすすめの本の紹介などが掲載されており、読書記録やおはなし会の参加記録なども記入できる。上尾市内各図書館（室）ごとに設定したキャラクターが読書パスポートの案内をする形になっており企画・作成まで図書館が中心となり作成し、利用カードも入れられる。各種新聞などでも取り上げられ好評である。300冊の読書記録を書き終えた児童が平成26年度末に市内全校で650人を超えた。</p> <p>平成26年度には小学校の協力のもと「読書パスポートコンクール」を実施し、優秀者には教育長名の優秀賞を授与している。</p>
	<p>図書館や学校、児童館図書室、図書館まつりや地域のボランティアのおはなし会の数を増やし、関連イベントを開催するなど、市内のさまざまな場所において活用する機会を用意している。おはなし会やイベントなどに参加した際などに読書パスポートに押すスタンプは図書館・ボランティア・児童館・学校にも配布しており、押してもらうことで児童の励みとなっている。図書館のおはなし会に参加する児童が飛躍的に伸びている。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	図書館利用者数 (7歳～12歳)	15,709人	16,100人	16,500人

基本目標Ⅵ

文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進

事業番号 57	文化芸術振興事業
事業番号 58	美術展覧会事業
事業番号 59	市民音楽祭事業
事業番号 60	音楽家芸術活動支援事業

施策2 文化財の保護

事業番号 61	文化財調査・保存事業
事業番号 62	埋蔵文化財調査事業
事業番号 63	文化財保護啓発事業
事業番号 64	歴史資料調査事業

事業番号 57	文化芸術振興事業	担当	生涯学習課
---------	----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援する。また発表の場を提供して市民が豊かな文化の享受と発信ができるような環境づくりに努める。
事業の対象 対象数	文化団体連合会と、その加盟団体12団体 市内の文化芸術団体、個人
事業の内容	文化団体連合会への補助金の交付 社会教育指導員を配置し、市内の文化芸術団体等の活動支援

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	2,109 千円	2,082 千円	2,065 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体	
文化団体連合会構成員数	3,000人	3,000人	1,762人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価 今年度の特色・改善点等	<p>文化団体連合会は、市内で活動する各種の文化芸術団体が加盟する団体である。会の運営は主にそれぞれの分野における代表団体が行い、自立性の高い取り組みがなされている。毎年行われている「上尾市文化芸術祭」では、様々な分野の文化団体が一堂に会して展示や公演等を実施し、団体間の連携や交流を図りつつ、市民に対して文化芸術に触れる機会を提供している。</p> <p>平成26年度は第30回目を迎える記念の年でもあったため、会場を例年の市コミュニティセンターから、市文化センター及び上尾公民館とし、盛大に開催することができた。</p>
	<p>文化団体連合会の加盟団体には、会員の高齢化等の影響もあり、会の運営自体が困難になった団体もある。今後は文化団体連合会に加盟・非加盟にかかわらず、市民の芸術活動に対する、幅広い支援方法を検討する必要がある。なお、今年度は加盟団体の構成員数の調査を行った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	文化団体連合会加盟団体数	12団体	12団体	12団体

事業番号 58

美術展覧会事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	美術家協会との共催により広く市民の美術活動の発表の場として、公募により美術展を開催し、市民の創作活動の奨励及び芸術活動への意識を高める。
事業の対象 対象数	市美術展覧会出品者数 462人
事業の内容	市美術展覧会を開催し、美術の創作活動を行う市民の発表の場を提供する。優秀作品には表彰を行い、さらなる創作活動の励みとする。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	1,261千円	1,387千円	1,211千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
作品出品数	545点	561点	499点	
入場者数	2,360人	2,342人	2,430人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾市ギャラリー等において、団体や個人の美術展が数多く開催されており、市民の美術活動については、堅調であるといえる。本事業については、広く市民から作品を募集する公募展であり、優秀作品を顕彰するシステムは、市民の美術創作活動の活性化に大きく寄与している。</p> <p>平成26年度は、前年度および前々年度と比較すると出品数は減少したものの、例年を上回る来場者数があり、市の公募展として定着している。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>共催団体である上尾市美術家協会、立体造形部の会員が不在になったことから、審査体制の変更を行った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
作品出品数	499点	500点	500点
入場者数	2,430人	2,500人	2,500人

事業番号 59	市民音楽祭事業	担当	生涯学習課
---------	---------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民による音楽活動団体に発表の場を提供し、広く音楽活動の普及を図ると共に、実行委員会形式で実施し参加団体間の交流を図る。
事業の対象 対象数	市内で活動する音楽団体
事業の内容	合唱祭、邦楽祭、吹奏楽・器楽祭の3部門で開催。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	544 千円	505 千円	612 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
参加団体数	50団体	50団体	51団体	3部門合計参加申込団体数
入場者数	1,989人	1,557人	2,492人	3部門合計入場者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度で41回を数え、市民の音楽グループの発表の場として定着している事業である。参加した音楽グループにより実行委員会を組織しているが、3部門とも堅調な事業実施状況である。参加団体間の交流が活発であり、特に吹奏楽については、学生と社会人の団体の交流が、それぞれの活動の活性化につながっている。</p> <p>平成26年度は天候に恵まれたこと、『広報あげお』で1面に掲載された他、インターネットを利用して積極的に広報活動を行った結果、各音楽祭において入場者数がそれぞれ増加することとなった。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>開催については、参加団体が主体的に行うものであるが、邦楽祭においては参加団体の高齢化が進み、駐車場係などの業務を行うことが困難になってきている。係の対応について検討が必要である。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	参加団体数	51団体	51団体	51団体
	入場者数	2,492人	2,000人	2,000人

事業番号 60	音楽家芸術活動支援事業	担当	生涯学習課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護		
施策	施策1 文化芸術活動の推進		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	上尾にゆかりのある音楽家が才能を発揮し、地元で芸術活動を行うことで市民が文化芸術を享受できるシステムを構築する。
事業の対象 対象数	上尾にゆかりのある音楽家及び一般市民
事業の内容	上尾にゆかりのある音楽家によるクラシックコンサート及び上尾市立小学校においてアウトリーチコンサートを開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	— 千円	372 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
クラシックコンサートの来場者数	—	—	362人	上尾市コミュニティセンターで開催されるクラシックコンサートの来場者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>才能のある上尾市在住（または上尾にゆかりのある）音楽家のネットワークを構築し、活動の場を提供する形で芸術活動支援を行う事業として、市内在住の音楽家4人の出演によるクラシックコンサートを実施した。鑑賞する市民に対しては、気軽に本格的なクラシック音楽に触れる機会を創出することができた。また、子供たちに身近で本格的なクラシック音楽に接する場として、小学校へのアウトリーチコンサートを実施した。</p> <p>新規事業であったが、チケットは完売し、アウトリーチコンサートも含めアンケートによる参加者の評価も高く、今後も引き続きこのような機会を期待する声が多かった。出演者の横のつながりも生まれ、本事業の目的は全体的に達成されている。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>新しい文化芸術支援事業として新規に実施した事業であり、事業の質を高めるため、全国的・国際的な活動をしている音楽家との協働で実施した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	クラシックコンサートの来場者数	362人	350人	350人

事業番号 61	文化財調査・保存事業	担当	生涯学習課
---------	------------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法や上尾市文化財保護条例に基づいて文化財の保存と活用を図り、市民の文化的向上を図る。
事業の対象 対象数	市内の国・県・市指定・登録の文化財及び未指定・未登録の文化財
事業の内容	未指定及び未登録の文化財の基礎調査。指定・登録文化財の維持管理やそのための交付金の交付及び修理・修繕のための補助金の交付。文化財周知のため説明板や標識の設置管理を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	4,093 千円	3,014 千円	4,522 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	117件	120件	122件	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度は、新たに指定無形民俗文化財1件と指定有形文化財1件、登録無形民俗文化財1件との合計3件の指定・登録を行った。特に、無形民俗文化財については継承者の減少や高齢化により、その存続が危ぶまれている。市の文化財として登録することは、保持団体の活性化が期待できる。また、遺跡出土品を文化財として指定することで、埋蔵文化財に対する保護意識の啓発を促すことが期待できる。</p> <p>文化財の保存・管理事業として、文化財修繕の補助事業1事業、6件の文化財の説明板・標柱の改修事業、指定無形民俗文化財7件への維持交付金の交付等を行い、文化財の保存・管理の支援をすることができた。</p>
	<p>今年度は、平方新田の祭りばやしの登録と、坂上遺跡方形周溝墓出土品と武州平方箕輪囃子の指定をすることが出来た。</p> <p>また、市内神社建築物の調査を行い、そのうち比較的古いと考えられる神社の詳細調査を実施することが出来た。</p> <p>なお、大雪の影響で文化財収蔵庫が破損し、収蔵文化財への影響が憂慮されるため、文化財収蔵庫を解体し、収蔵文化財は小学校の余裕教室等に移動した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	市指定・登録文化財の数	122件	124件	124件

事業番号 62 埋蔵文化財調査事業

担当 生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標 基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護

施策 施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財を保護するため、範囲確認や記録保存の調査を実施する。
事業の対象 対象数	埋蔵文化財 周知の埋蔵文化財包蔵地 409か所
事業の内容	周知の埋蔵文化財包蔵地で土木工事等の計画が示された際、工事主体者より申請を受けて試掘・範囲確認調査を実施し、保存すべき遺構・遺物の有無を確認する。遺構・遺物が確認され、土木工事等の計画変更が困難である場合、発掘調査を実施し、調査報告書を刊行して記録保存する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,609千円	4,022千円	4,825千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
—	—	—	—	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>埋蔵文化財包蔵地内で住宅建設等の土木工事等を実施する場合、保存すべき遺構・遺物の有無と、その範囲を確認するために試掘調査を実施する必要がある。平成26年度には、63件の試掘調査を、届出に基づき速やかに実施することができた。</p> <p>また、試掘調査の結果、記録保存のために発掘調査が必要であった2件について調査を実施することができた。</p>
今年度の特色・改善点等	昨年度に引き続き、試掘調査の件数は多く、発掘調査も2件を実施した。

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
—	—	—	—

事業番号 63	文化財保護啓発事業	担当	生涯学習課
---------	-----------	----	-------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	文化財保護法、上尾市文化財保護条例の趣旨に基づき、市民に対して文化財の活用を図り、その保存継承のための意識啓発と文化財保護に対する理解を深めるためにセミナーや展示会を実施する。
事業の対象 対象数	市民 平成26年度実績 1,360人
事業の内容	あげお歴史セミナー・上尾の文化財展の開催

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	42 千円	57 千円	68 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
文化財保護啓発事業 延べ日数	43日	25日	24日	
文化財保護啓発事業参加 延べ人数	3,533人 ※1	2,372人 ※1	1,360人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>地域の文化財を活用して講座・展示会・見学会等を実施し、市民が地域の文化や歴史の理解を深める支援を行った。</p> <p>歴史セミナーは、講座と現地見学を組み合わせ実施した。また、展示会は、尾山台団地自治会や地域振興公社との共催で、尾山台団地、自然学習館で実施、多様な内容の事業を実施することができた。</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>昨年度に比べ、展示会などの開催回数は縮小したが、昨年度目標値とした参加延べ人数を上回る参加を得た。</p> <p>※1 平成24、25年度については、文化財展示の実施要請が多かったため、参加延べ人数等が大きくなった。展示場所による展示物の制限などから、展示できる文化財に限られるため、平成26年度以降については、文化財展示に関する事業を縮小している。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	A	文化財保護啓発事業参加延べ人数	1,360人	1,000人

事業番号 64

歴史資料調査事業

担当

生涯学習課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市史刊行事業やその後の調査で収集した歴史資料について、保存と活用を図る。
事業の対象 対象数	歴史的価値のある公文書、諸家文書
事業の内容	歴史的価値のある公文書の収集。文書目録の刊行（『八枝神社文書目録』）

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	2,608 千円	2,747 千円	2,513 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
文書目録の発行	1冊(9,050点) 原市町役場文書 目録(上)	1冊(10,005点) 原市町役場文書 目録(下)	1冊(1,719点) 八枝神社文書 目録	毎年度1文書刊行 ※括弧書きは掲載点数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市史編さん事業で収集した歴史資料について、保存・活用を図るための事業を実施している。平成26年度については、八枝神社文書目録について計画通り刊行することができた。
今年度の特色・改善点等	八枝神社文書目録の刊行と同時に、旧大谷農協文書の整理を実施した。平成27年度も引き続き旧大谷農協文書の整理を進め、平成27年度の刊行は無いが、平成28年度から毎年1冊ずつ文書目録を刊行し、平成31年度までで計4冊刊行予定である。

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	文書目録の刊行	1冊	0冊	1冊

基本目標Ⅶ

健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ推進計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

事業番号 65 学校施設開放(スポーツ振興)事業

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

事業番号 66 スポーツ大会・教室等開催事業【Ⅶ-5】

施策4 スポーツ指導者の育成

事業番号 67 スポーツ活動推進事業

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

事業番号 66(再掲) スポーツ大会・教室等開催事業

事業番号 68 子どもの体力向上地域連携事業

事業番号 65	学校施設開放（スポーツ振興）事業	担当	スポーツ振興課
上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進		
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実		

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	学校施設開放（校庭・体育館）の利用にあたり、随時、施設・備品等の修繕を行い、利用者の安全を確保する。
事業の対象 対象数	市内在住・在勤・在学の学校施設開放（校庭・体育館）利用者
事業の内容	学校施設（体育館、校庭）の開放のために、修繕、備品の交換、補充や固定テント等の設置等を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	3,937千円	5,350千円	4,951千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
学校開放登録団体数	536団体	551団体	553団体	学校開放利用団体名簿
学校開放施設利用者数	417,161人	363,162人	371,174人	学校開放月例利用報告書

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校施設の利用にあたり、学校開放運営委員会が市内各小中学校で組織され運営されている。身近なスポーツ施設として学校開放施設の利用者が増えている中で、市・学校及び学校開放運営委員会が協力し合い、利用者のニーズに対応している。</p> <p>また、社会体育トイレ等の経年劣化が原因と考えられる修繕を、各学校開放運営委員会の報告を受け、随時対応した。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>各学校開放委員会に対し要望アンケートを実施し、社会体育トイレの設備修繕等、利用者の意見も考慮し、設備修繕を検討していく。また、各学校の社会体育トイレを現地調査し、写真、不具合箇所を記載した簡易的な台帳を作成した。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	学校開放施設利用者数	371,174人	380,000人	380,000人

事業番号 66	スポーツ大会・教室等開催事業	担当	スポーツ振興課
---------	----------------	----	---------

上尾市教育振興基本計画の体系			
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進		
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援	

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	様々な大会・教室等を開催し、生涯スポーツ・レクリエーションの普及、推進を図る。またそれらの大会を通じ、心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与する。		
事業の対象 対象数	各大会参加者 ○いきいきライフ大運動会 ○市民体育祭 ○上尾シティマラソン ○市民駅伝競走大会		
事業の内容	生涯スポーツ及びスポーツ・レクリエーションの振興を図るために、各種大会を実施する。		

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	24,008 千円	18,571 千円	18,975 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
大会の開催日数	4日	3日	4日	
上尾シティマラソン参加者数	9,374人	9,672人	9,179人	
体育協会加盟スポーツ団体人数	19,608人	18,170人	17,712人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度の各種大会は、スポーツ推進委員及び体育協会の協力を得て、企画・運営を行うことができた。また、体育協会は、加盟競技団体により各種競技の大会運営を行うとともに、各種大会においては、競技役員として多くのボランティアの派遣を依頼していることから、スポーツの振興のため体育協会の発展が望まれる。</p> <p>上尾シティマラソンについては、市最大のスポーツイベントとして全国各地から参加者を迎え、体育協会加盟団体や市内中学・高校・大学生等ボランティア約1,000人の協力を得て事故なく実施することができた</p> <p>スポーツステップアップ講座を実施し、スポーツ推進委員以外の方にも指導者養成が図られた。</p>
	<p>上尾シティハーフマラソンでは、大会及び競技力向上を目的として、今年度から5kmごとのラップタイム計測を実施した。また、ハーフの部男子大学生1位・2位の選手及びコーチをニューヨークシティハーフマラソン大会へ招待している。</p> <p>さらに、今年の大会では、東京マラソン財団から案内があり、マラソンムーブメントを盛り上げることを目的として、一般参加者の中から男性10人、女性5人を東京マラソン「準エリート」に推薦した。</p>
今年度の特色・改善点等	

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
	市民体育祭参加者数	約10,000人	10,000人	10,000人
	上尾シティマラソン参加者数	9,179人	10,000人	10,000人
	体育協会加盟スポーツ団体人数	17,712人	19,000人	19,000人

A

事業番号 67

スポーツ活動推進事業

担当

スポーツ振興課

上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	市民への生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図ることを目的としたスポーツ推進委員連絡協議会の活動を支援し、スポーツ活動の推進を図る。
事業の対象 対象数	スポーツ推進委員自主事業（スポーツ推進委員数48人、定員50人）
事業の内容	地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員等の資質向上を図るため、研修や講習会を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	5,081 千円	4,855 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	9日	13日	15日	市、県、地区、関東、全国、自主事業
スポーツ推進委員研修参加人数	149人	171人	149人	延べ参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>スポーツ推進委員は地域スポーツの推進を担い各々の資質向上を図るため、スポーツ推進委員内部での自主的な研修をはじめ、北地区、県、関東地区、全国及び市が主催するスポーツ推進委員研修会に参加し、地域の指導者として活躍している。また、市が主催する大会（イベント）に積極的に協力し、大会運営を進行する上で重要な存在となっている。</p> <p>長生きスポーツ教室は、公民館事業として定着しており、スポーツ推進委員は講師として、身体を動かす機会が少ない高齢者を対象に軽スポーツ、レクリエーション等を指導し、スポーツの楽しさを伝えながら参加者の健康の保持や体力増進を図った。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>スポーツが多様化する中、市とスポーツ推進委員連絡協議会の共催によるスポーツ推進委員研修会では、県リハビリテーションセンターの協力を得て、障がい者のスポーツレクリエーション活動の普及、推進に向けた実技研修を実施し、障がい者スポーツにおける理解を図った。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定
A

目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
スポーツ推進委員研修日数	15日	15日	15日
スポーツ推進委員研修参加人数	149人	200人	200人

事業番号 68	子どもの体力向上地域連携事業	担当	スポーツ振興課
---------	----------------	----	---------

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

●事業の概要

事業の目的 事業の目標	昭和60年頃に比べ子どもの体力の低下が認められる中、運動する子どもと運動しない子どもの二極化が顕著に現れている。そこで子どもが運動や遊びを通じて体を動かす場と機会を提供し、運動する習慣や意欲を養い、体力の向上を図ることを目的とする。
事業の対象 対象数	市内の小学校児童から中学校生徒まで
事業の内容	教室、大会の開催やげんきチャレンジの実施

●事業費決算額の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決算額	— 千円	196 千円	478 千円

●評価指標

指標名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	指標の説明
小学生ドッジボール大会	—	898人	1,230人	参加児童数（5・6年生）
中学生バレーボール教室	—	146人	149人	参加生徒数
上尾市なわとび大会	—	2,041人	1,919人	参加児童生徒数（延べ人数）
ランニング教室	—	約200人	約200人	参加人数
げんきチャレンジ	—	—	20人	参加児童数（保護者10人）

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>平成26年度から、新たに小学校低学年も参加できる催しとして「げんきチャレンジ（スタンプラリー）」を開催した。参加者（親子）が各ポイントを徒歩で回ることによって、運動を楽しみながら体力の向上を図ることを目的とした。</p> <p>平成25年度から「子どもの体力向上地域連携事業」を実施して今年で2年目となるが、各種大会・教室の参加者が年々増加している。（なわとび大会は、エントリー数では前年度を上回っていたが、インフルエンザの影響で当日の欠席者が多かったため、参加者数は前年度を下回った。）</p>
	<p>今年度の特色・改善点等</p> <p>なわとび大会は参加者の増加に伴い、昨年度実施した市民体育館では大会運営が難しいことから、今年度は県立武道館を会場として実施した。</p> <p>今年度、新たに実施した「げんきチャレンジ（スタンプラリー）」は平方の文化財（馬蹄寺・橘神社・八枝神社・観音堂）を各ポイントとしたため、東側児童の参加が少なかった。次年度は東側での実施を計画する。</p>

次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成26年度実績	平成27年度	平成28年度
A	大会・教室回数	5回	5回	5回

平成27年度（平成26年度実施事業対象）
教育委員会の事務に関する点検評価 報告書

発行 上尾市教育委員会

〒362-8501

埼玉県上尾市本町三丁目1番1号

電話 048(775)5111(代表)

編集 上尾市教育委員会事務局

教育総務部 教育総務課

電話 048(775)9469

FAX 048(776)2250

E-Mail s721000@city.ageo.lg.jp



夢・感動教育 あげお